

東大阪市

鬼虎川遺跡

—送水管布設替工事（4 拡南部幹線・東大阪市）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2012 年 4 月

公益財団法人 大阪府文化財センター

東大阪市

鬼虎川遺跡

—送水管布設替工事（4 拡南部幹線・東大阪市）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

序 文

鬼虎川遺跡は東大阪市の北東部に所在し、縄文時代から中世にかけての複合遺跡です。

本遺跡は昭和38（1963）年に国道170号線（大阪外環状線）の建設工事の際に弥生土器が採集され、その存在が明らかになりました。また、昭和41（1966）年には170号線で水道管理設工事が行われ、その排土の中から、小・中・高校生の3人が土器と一緒に2枚の板材を発見しました。板材は後に、組合式の木棺材と判明しました。当時、木棺の出土例は非常に珍しく、重要な遺跡として認識されるようになりました。土器は弥生時代中期のものが主体でしたが、中には弥生時代前期のものもあり、遺跡が弥生時代前期から続くことが明らかになりました。

更に、昭和55（1980）年に病院建設工事に伴う発掘調査が行われ、弥生時代中期の銅鐸、銅釧、異形青銅器の鋳型や鉄鑿、鉄鎌が見つかり、続いて銅剣・銅戈の鋳型も出土しました。鬼虎川遺跡が青銅器の生産集落として一躍注目される様になりました。その後、周辺の調査が進むと、方形周溝墓、木棺墓、土器棺墓、土壙墓や貝塚・杭列・水田・大溝等が確認されました。特に大溝の内側には集落を防御するためと考えられる多数の杭が打たれていました。

河内平野では鬼虎川遺跡の南西約4km離れて同時代の大型集落、瓜生堂遺跡があります。本遺跡もまた瓜生堂遺跡と同様に河内平野の東部地域において、中心的な拠点集落だったと考えられます。新潟県姫川産のヒスイ製獣形勾玉や青銅器の鋳型、鉄鑿・鉄鎌の発見は、この集落が河内湖の湖岸にあって国内の交流のみならず、大陸との交流にまで及んでいたと考えられます。

今回の調査は、南北2ヶ所に亘って行われましたが、そのうちの1ヶ所は上記の木棺が発見された地点より約10m離れた所です。いずれも小規模な調査でしたが、遺物はコンテナ数にして約70箱も出土しました。出土遺物は弥生土器、石器、動物遺体等が主なものですが、中でも2点の多孔土器や、乾燥後に2つに割れ、それに粘土を貼って補修し、更に焼成している高杯の出土は、本遺跡の内容に新たな知見を加えることができました。

また、今回の調査では古墳時代前期と思われる水田が見つかり、平安時代から中世の溝等も確認出来ました。これまでの成果を追認・補足することができたといえます。

調査に際しては、大阪広域水道企業団東部水道事業所、大阪府教育委員会、東大阪市教育委員会をはじめとする関係者の方々のご指導、ご協力に感謝申し上げますとともに、今後とも当センターの埋蔵文化財調査事業に一層のご理解とご協力をお願い申し上げます次第であります。

平成24年4月

財団法人 大阪府文化財センター
理事長 田 邊 征 夫

例 言

1. 本書は大阪府東大阪市西石切町5丁目・宝町地内に所在する鬼虎川（きとらがわ）遺跡（10-1）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、送水管布設替工事（4 拡南部幹線・東大阪市）に伴い、大阪広域水道企業団東部水道事業所（旧 大阪府水道部東部水道事業所）の委託を受け、大阪府教育委員会の指導のもと、公益財団法人大阪府文化財センターが実施した。
3. 現地調査および報告書作成にかかわる受託契約と契約期間は以下のとおりである。

受託事業契約名 送水管布設替工事（4 拡南部幹線・東大阪市）に伴う鬼虎川遺跡発掘調査委託
受託契約期間 平成22年12月1日～平成24年4月27日

現地調査を平成23年3月1日に開始し、平成23年12月25日に終了した。整理作業は平成23年12月26日から平成24年4月27日まで行い、平成24年4月27日に本書の刊行をもって完了した。

発掘調査・遺物整理に関わる調査体制については以下のとおりである。

<平成22年度> 調査部長兼課長 福田英人、調整グループ長 江浦 洋
調査グループ長 岡戸哲紀、南部総括主査 森屋美佐子
主査 小野久隆、専門調査員 小林千夏

<平成23年度> 調査部調査課長 江浦 洋、調整グループ長 岡本茂史
調査グループ長 岡戸哲紀、南部総括主査 西村 歩
主査 小野久隆、専門調査員 松本吉弘（平成23年4～6月）

遺物整理にあたっては、南部調査事務所の職員の協力を得、また、センター職員の教示を得た。
4. 調査にあたっては、以下の諸機関・諸氏よりご協力、ご教授を得た。記して感謝の意を表したい。（敬称略・順不同）

大阪広域水道企業団東部水道事業所、大阪府教育委員会、東大阪市教育委員会
5. 本書で用いた現地写真は、小野が撮影した。また、遺物写真の撮影に関しては調査グループ南部調査事務所非常勤職員久禮孝志が担当した。
6. 第Ⅱ章の執筆は専門調査員松本が、その他の執筆と編集は小野が担当した。
7. 本調査に関わる出土遺物、実測図、写真、デジタルデータ等は当センターで保管している。広く活用されることを希望する。

凡 例

1. 標高については、すべて東京湾平均海面（T.P.）値を使用している。
2. 調査にあたっては、世界測地系を使用し、平面直角座標系、第Ⅵ座標系を基準として、測量・実測を行った。
3. 本書に掲載した遺構図に付された方位はすべて平面直角座標系に基づく座標北を示している。なお、座標北を基準とした場合、遺跡周辺の磁北はN 7° 01′ Wに、真北はN 0° 12′ Eに偏位する。また、遺構図に記した座標値はmで表示している。
4. 発掘調査および遺物整理については、公益財団法人大阪府文化財センター2010『遺跡調査基本マニュアル』の内容に準拠して行なった。遺物の取り上げなどに使用した地区割は、第Ⅰ区画はH 7、第Ⅱ区画は9、第Ⅲ・Ⅳ区画は14G-2 a・2 b・2 cもしくは14L-9 h・9 g・9 hである。
5. 本書で用いた土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀雄編（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）の『新版 標準土色帖』2009年版を基準としている。
6. 遺構番号は、遺構の種類とは関係なく、調査において検出した順に付与した1からの連番号である。番号の後に遺構種類を表記した。
7. 各種遺構・遺物の記載に当たっては、遺構がm単位、遺物がcm単位を基準としている。
8. 遺物番号は、挿図単位ごとの通し番号で、写真に関しては、挿図番号と同一の番号を記載している。写真のみを掲載した場合は、「写1」など頭に「写」の字をつけて通し番号を付している。
9. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、主に土器類を4分の1とし、石器類を3分の2とした。石包丁は3分の2と、2分の1とした。石器の一部には4分の1のものもある。遺物写真に関しては、縮尺は任意である。

本文目次

序文
例言
凡例
目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4

第Ⅲ章 調査の方法

第1節 現地調査	5
第2節 整理作業	6

第Ⅳ章 調査の成果

第1節 基本層序	6
第2節 遺構と遺物	20

第Ⅴ章 まとめ

第1節 調査のまとめ	50
------------	----

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 調査区位置図	1	第10図 その1調査区 第17面平面図	25
第2図 調査区配置図	2	第11図 128土坑、129・130・131・ 135溝遺構断面図	25
第3図 遺跡分布図	3	第12図 その2調査区 第7面平面図	27
第4図 地区割図	7	第13図 その2調査区 第8・10・ 12面平面図	28
第5図 その1調査区 東壁断面図	8	第14図 その2調査区 第13-1・13-2・14面平面図	29
第6図 その2調査区 南壁・西壁断面図	9		
第7図 その1調査区 第3・5面平面図	22		
第8図 その1調査区 第7・9面平面図	23		
第9図 その1調査区 第10・11面平面図	24		

第15図	その2調査区 第15・23・24面平面図……………	30	第25図	第13-4層、第13-5層、 第13-3~6層出土遺物……………	40
第16図	12・27ピット、70・72土坑断面図 ……	31	第26図	第13~14層出土遺物……………	41
第17図	30~40ピット断面図……………	32	第27図	第13~14層出土遺物……………	42
第18図	41~43・47・62~67ピット、 29・58溝断面図 ……	33	第28図	第14面、第14層121落込み出土遺物……	43
第19図	1井路、第1~14層出土遺物 ……	34	第29図	第14面121落込み出土遺物 ……	44
第20図	第13-1面、第13-1層出土遺物……………	35	第30図	第15面70土坑出土遺物……………	45
第21図	第13-1層出土遺物……………	36	第31図	第15面72土坑出土遺物……………	46
第22図	第13-2層・第13-3面、 第13-3層出土遺物……………	37	第32図	第15面72土坑出土遺物……………	47
第23図	第13-3層出土遺物……………	38	第33図	第15面58溝出土遺物……………	48
第24図	第13-4面、13-4層、第13-5面、 第13-3~6層出土遺物……………	39	第34図	第15面、第15面58・59溝・ 73溝出土遺物……………	49

写真図版目次

図版1 遺構 その1調査区

- 1 土層断面 第1~8層・133流路(北西から)
- 2 土層断面 第11層より上層(南西から)
- 3 土層断面 第1~10層、133流路(南西から)
- 4 土層断面 122井路(北西から)
- 5 土層断面 122井路(南西から)
- 6 土層断面 第9・10層、122井路(北西から)
- 7 122井路全景(北東から)
- 8 第7面 123・124溝、足跡

図版2 遺構 その1調査区

- 1 第9面 125・126溝全景(西から)
- 2 第10面 127溝、ピット、足跡(東から)
- 3 土層断面 第11~18層(南西から)
- 4 土層断面 第11~18層、122井路(南西から)
- 5 土層断面 第11~17層(南西から)
- 6 土層断面 第11~16層(北西から)
- 7 土層断面 第11~16層(西から)
- 8 土層断面 第11~17層(北西から)

図版3 遺構 その1調査区

- 1 第11面 129・130・131溝全景(西から)
- 2 129溝全景(北から)
- 3 131溝全景(東から)
- 4 130溝全景(東から)
- 5 128土坑全景(南東から)
- 6 第16面 X = -146,110附近全景(東から)
- 7 第17面 X = -146,110附近全景(東から)

図版4 遺構 その2調査区

- 1 土層断面 第1~6層、1井路(西から)
- 2 土層断面 第1~6層(北東から)
- 3 土層断面 第7~13層(北東から)
- 4 土層断面 第7~13層(北東から)
- 5 第7面 2土坑・3溝(東から)
- 6 第7面 4土坑、第8面 5ピット、足跡
(南から)
- 7 第10面 6溝(東から)
- 8 第12面全景(東から)

図版5 遺構 その2 調査区

- 1 土層断面 第11～13・14層(北東から)
- 2 土層断面 第11～13・14層(北西から)
- 3 土層断面 第15～24・25層(北東から)
- 4 土層断面 第15～24・25層(北西から)
- 5 西壁土層断面 第7・8～12・13層(東から)
- 6 西壁土層断面 第7～25層(東から)
- 7 第15面全景(北から)

図版6 遺構 その2 調査区

- 1 第15面 70・72土坑全景(東から)
- 2 70土坑(東から)
- 3 58溝全景(北から)
- 4 58溝内遺物出土状況(北から)
- 5 第13-2面 27ピット(南から)
- 6 第15面 42ピット柱根(南から)
- 7 33ピット(北東から)
- 8 30ピット断面(北東から)

図版7 遺構 その2 調査区

- 1 第15面 31ピット断面(北東から)
- 2 35ピット断面(南から)
- 3 第23面全景(北から)
- 4 第23面全景(東から)
- 5 第23面全景(西から)
- 6 東壁土層断面(東から)
- 7 第24面 119ピット、120溝(南東から)

図版8 その1、その2 調査区出土遺物

- 1 その1 調査区第7面、第9層133流路、攪乱層
- 2 その1 調査区第11面
- 3 その2 調査区1井路、第1～6層、第2層
- 4 第4層、第5層、第6面、第6層
- 5 第12層
- 6 第12層

図版9 その2 調査区出土遺物

- 1・2 第13-1面、第13-1層

3 第13面

- 4～6 第13-1層
- 7・8 第13-2層

図版10 その2 調査区出土遺物

- 1 第13-2層、第13-2～3層、第13-3～6層
- 2 第13-5面、第13-3～6層
- 3 第13-3面
- 4 第13-4層
- 5 第13-4面、第13-3・5層、第13～14層、第14面
- 6 第13-4層
- 7 第13-4面

図版11 その2 調査区出土遺物

- 1～3 第13～14層
- 4 第14面

図版12 その2 調査区出土遺物

- 1～3 第14面
- 4 第14層
- 5 第14面 121落込み
- 6・7 第15面 70土抗

図版13 その2 調査区出土遺物

- 1 第15面 70土抗
- 2 第14面 121落込み、第15面 70土抗
- 3 70土抗
- 4 第15面 72土坑

図版14 その2 調査区出土遺物

- 1～3 第15面 72土抗
- 4～7 29溝
- 8 58溝

図版15 その2 調査区出土遺物

- 1～6 第15面 58溝

図版16 その2調査区出土遺物

1 第15面 58溝

図版17 その2調査区出土遺物

1～7 第13-1面、第13-1層

8・9 第13-2層

図版18 その2調査区出土遺物

1～3 第13-2層

4・5・7・9 第13-3層

6・8 第13-4層

図版19 その2調査区出土遺物

1・2 第13-5層

3・7 第14面

4～6 第13-5面

図版20 その2調査区出土遺物

1・2 第13-5層

3 第13-3～6層

4 第13-3～4層

5・6 第13～14層

7 第13-4層

8 第14面 121落込み

図版21 その2調査区出土遺物

1・4 第13～14層

2・3 第14面

5 第15面

6・7 第15面 72土抗

図版22 その2調査区出土遺物

1～3 第15面 72土抗

4～6 第15面 58溝

図版23 その2調査区出土遺物

1 第13-3～6層、第13-5層、
第13-4～6層、第14面、
第15面 70・72土抗、58溝

2 70土抗、29溝

3 第13-2面、第13-3・4層、
第13-5・6層、第13～14層、
第15面 29溝、59溝～73溝

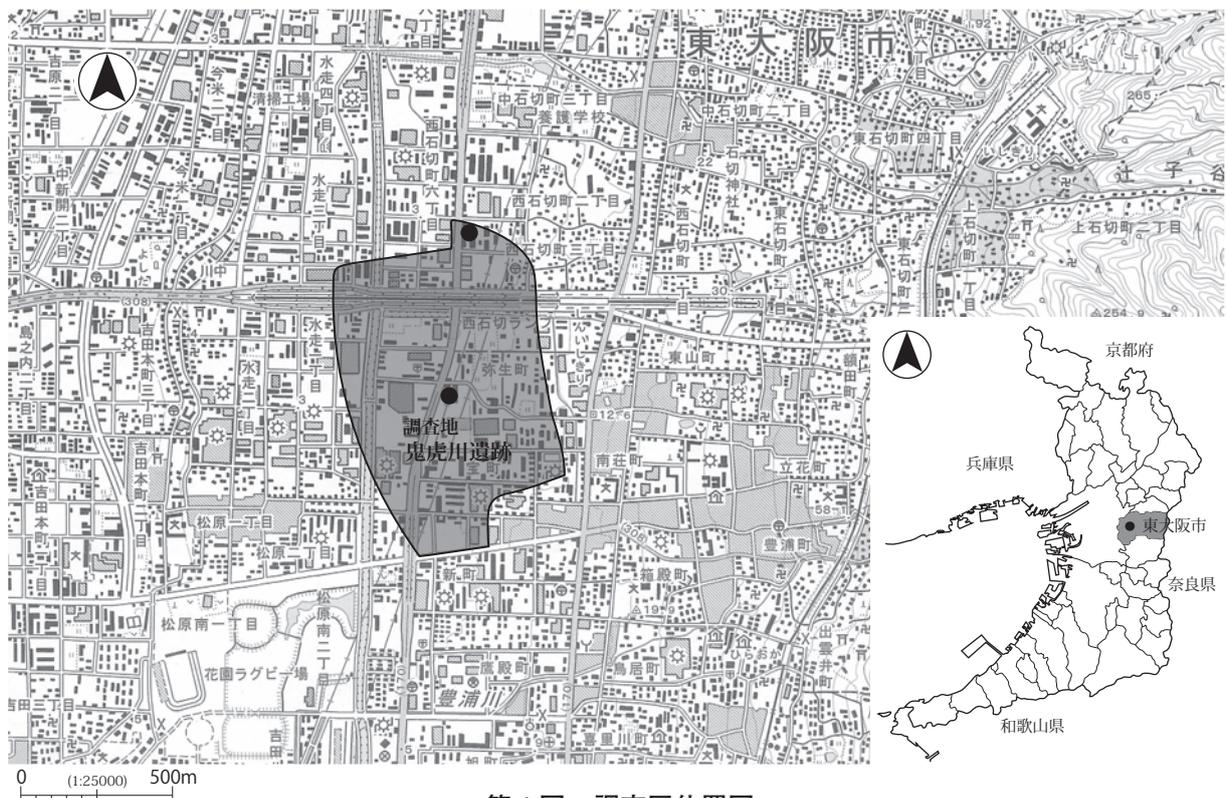
4 第13-2面、第13-2・3・4層、
第13-4～6層、第13～14層、70・72土抗

第 I 章 調査に至る経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯

鬼虎川遺跡は、大阪府東大阪市西石切町から弥生町、宝町、水走、新町一帯に所在し、南北約 1.25km、東西約 0.85km の範囲に広がる旧石器時代から中世にかけての複合遺跡である（第 1 図）。当遺跡は、昭和 38 年（1963 年）に大阪府道路建設計画による国道 170 号線（大阪外環状線）建設工事に際して弥生土器が採集されてその存在が明らかになった。昭和 41（1966）年には国道 170 号線内に水道管の埋設工事が行われ、工事の排土中から多量の土器と共に木棺の一部が採集された。木棺の発見により、弥生時代の墓制を考える上で、重要な遺跡であると認識されるようになった。本格的な調査は昭和 50（1975）年にガス管の埋設工事に伴って実施され、以来、東大阪市教育委員会、（財）東大阪市文化財協会および大阪府教育委員会によって、60 次を越える発掘調査が行なわれている。

これらの発掘調査の結果、縄文時代草創期～早期では有舌尖頭器、縄文時代前期では土器が、縄文時代中期では土器等が確認されている。縄文時代晩期では土器が、弥生時代前期では、溝、ピットが、弥生時代前期～中期にかけては、大溝、溝、ピット群、土坑、土器棺墓、土壙墓等の居住域に関する遺構が検出されている。弥生時代中期では方形周溝墓、木棺墓、土壙墓等の墓域に関する遺構と、井戸、土抗、柱穴、溝等の居住域に関する遺構、水田、溝等の生産域に関する遺構が確認されている。弥生時代の遺物については、土器、土製品、石製品、木製品、金属製品、骨角牙製品、動物遺体、植物遺体等が多量に出土している。中でも土偶や、弓筈状骨角製品、新潟県姫川産のヒスイ製獣形勾玉、銅剣・銅鐸・銅釧・銅戈等の青銅製品の鋳型のほか、鉄鑿・鉄鏃などの製品の出土から、河内平野



第 1 図 調査区位置図

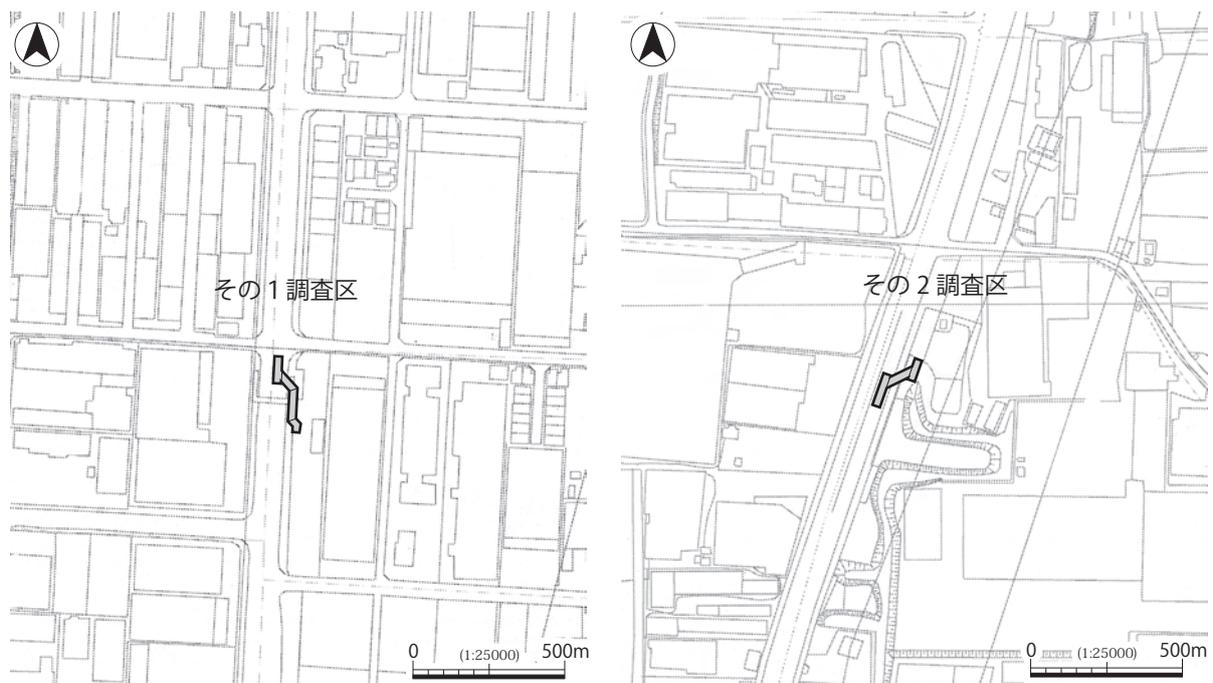
東部地域の中心になる拠点的な環濠集落であったと推測されている。

古墳時代中期～後期では、溝、掘立柱建物、竪穴建物等の集落の遺構が確認され、遺物としては、須恵器、土師器、製塩土器、韓式系土器、滑石製品等が出土している。平安時代以降では、条里に伴う溝、道が確認され、中世では自然流路、溝、足跡、耕作遺構が確認されている。遺物としては瓦器、土師器、木製品の板塔婆等が出土している。

第2節 調査の経過

本調査は、大阪広域水道企業団東部水道事業所管轄事業の国道170号線沿いの送水管布設替工事に先がけ、埋蔵文化財の情報を取得することを目的とし、大阪府教育委員会の指導の下、当センターが実施したものである。実施にあたっては、平成22年9月10日～に大阪府水道部水道事業所長・大阪府教育委員会・財団法人大阪府文化財センターによる調査に関する覚書を締結した。これにより大阪府教育委員会・財団法人大阪府文化財センターが発掘調査を実施することとなり、文化財保護法99条第1項の規定により、大阪府教育委員会は平成22年11月17日付教委文2594号として埋蔵文化財発掘調査の通知を行なった。財団法人大阪府文化財センターは、最終的に平成22（2010）年12月1日～平成24年（2012）年4月27日を受託契約期間とする契約を締結している。平成23（2011）年4月21日～12月20日まで現地調査を行い、併行して基本的整理を行い調査後、遺物整理を行なった。平成24（2012）年4月27日に『鬼虎川遺跡』（本書）を刊行した。

調査は国道308号線（中央大通）を挟んで、国道170号線沿いの南北2箇所西石切町5丁目-2番地と宝町17番地で行なった。調査区名は、西石切町区をその1調査区とし、宝町区をその2調査区とする（第2図）。各調査区は、調査順に従って、その1調査区は1-1・1-2・1-3・1-4区の4つに分けた。また、その2調査区では2-1・2-2・2-3区の3つに分けた（第4図）。なお、2-2区では、国道170号線の南行きの車線部にあたり通行に支障がでるため、発掘調査は夜間に行なった。



第2図 調査区配置図

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

鬼虎川遺跡は、生駒山の西麓、標高T.P.+4～8mの扇状地扇端部から、沖積平野にかけて立地する。

東大阪市の地形は、標高T.P.642.3mの生駒山を主峰とする生駒山脈が形成する丘陵部と、標高T.P.+5m前後の平野部に分けられる。また、生駒山西麓にはその急斜面から派生するいくつもの谷川が存在し、平野部との境で複雑な扇状地を形成している。本遺跡は、河内平野沖積低地の東辺に在り、生駒山地西側斜面の基部、標高T.P.+80～100mの谷口から低地に向かって発達した沖積扇状地の扇端部に立置



- | | | | | |
|------------|----------|-----------|------------|------------|
| 1 加納遺跡 | 9 水走遺跡 | 17 額田寺遺跡 | 25 額田山古墳群 | 33 皿池遺跡 |
| 2 和泉遺跡 | 10 鬼虎川遺跡 | 18 鬼塚遺跡 | 26 みかん山古墳群 | 34 河内寺跡 |
| 3 北島遺跡 | 11 植附遺跡 | 19 千手寺山遺跡 | 27 豊浦谷古墳群 | 35 神津嶽祭祀遺跡 |
| 4 日下遺跡 | 12 西ノ辻遺跡 | 20 墓尾古墳群 | 28 吉田遺跡 | 36 水走氏館遺跡 |
| 5 石凝寺・馬場遺跡 | 13 辻子谷遺跡 | 21 辻子谷古墳群 | 29 稲葉遺跡 | 37 五条山古墳群 |
| 6 芝ヶ丘遺跡 | 14 法通寺遺跡 | 22 神並古墳群 | 30 鶴立遺跡 | 38 客坊山遺跡群 |
| 7 正法寺山遺跡 | 15 神並遺跡 | 23 正興寺山遺跡 | 31 出雲井遺跡群 | 39 山畑古墳群 |
| 8 芝坊主山遺跡 | 16 触古墳群 | 24 若宮古墳群 | 32 狐塚遺跡 | |

第3図 遺跡分布図

する。扇状地扇端部は標高T.P.+5～7 mで、縄文海進の最も進んだ頃のいわゆる河内湾の汀線にあたり、海食崖を成している。また、本遺跡西方には旧大和川の分流路であった吉田川の旧河道及び自然堤防、人工堤防が南北方向に残存しており、遺跡範囲はこの後背湿地にあたる。本遺跡西縁部を北流する恩智川はこの後背湿地の排水流路であったものが近世の築堤によって固定され、天井川化したものである。

第2節 歴史的環境

鬼虎川遺跡のある生駒山西麓から河内平野にかけての地域には、旧石器時代から近世にかけて、各時代にわたり多数の遺跡が存在している（第3図）。

旧石器時代 (財)東大阪市文化財協会の調査において、本遺跡では海成堆積層内から後期旧石器時代のナイフ型石器、翼状剥片が出土している。周辺では東接する西ノ辻遺跡の他、生駒山麓地域に分布している花草山、正興寺山、千手寺山、山畑遺跡などからも同種の石器が出土している。

縄文時代 縄文時代の遺跡は、生駒山山麓部から段丘・扇状地上に点在している。草創期には本遺跡の他、花草山遺跡や貝花遺跡から、有舌尖頭器が出土している。早期には、多くの押型文土器と共に石器・土偶と炉跡・集石遺構が検出された神並遺跡が本遺跡の東に位置する他、押型文土器が西ノ辻、日下、山畑遺跡から出土している。前期は、縄文海進による海食崖が検出されており、土器、石器及び、魚貝類などの動物遺体が出土している。中期の遺跡としては善根寺遺跡と本遺跡の南に縄手、馬場川遺跡が位置しているほか、本遺跡西域でこの時期の土器が出土している。後期に入ると、縄手遺跡から多くの土器・石器などとともに住居址、配石遺構などが検出されており、日下、芝ヶ丘、神並、鬼塚、馬場川遺跡とともに本遺跡からもこの時期の土器が出土している。晩期に入ると本遺跡では貝塚、溝、土坑、井戸、柱穴等が見られる。本遺跡の北東に位置する日下遺跡では、貝塚・墓地や多量の土器、石器が確認されている。鬼塚、馬場川では集落跡が確認されている。

弥生時代 本遺跡西端では長原式土器と前期土器を包含した貝塚があり、本遺跡中央部や植附遺跡では、前期土器が出土している。中期には、本遺跡において数条の大溝を伴う集落が営まれ、土器・石器・木製品など大量の遺物と、方形周溝墓や土壙墓、木棺墓など墓域の分布が確認できる。また、銅剣・銅鐸・銅釧・銅戈などの鋳型のほか、鉄鑿・鉄鎌などの鉄製品が検出された。大規模な集落とそれに伴う方形周溝墓をもつという状況は、本遺跡南西の瓜生堂遺跡と同じで、瓜生堂遺跡に並ぶ拠点的な集落であると判明した。中期後半から後期前半には東接する西ノ辻遺跡でも、大集落が形成された。後期になると本遺跡では集落は途絶し、東接する西ノ辻遺跡が拡大する。集落は小規模化するものの、北鳥池遺跡などで平野部の集落が形成された。一方、中期末から後期にかけて西日本一帯の丘陵・山腹地帯に高地性集落が形成される。生駒山地でも中期末に山畑遺跡、後期に岩滝山遺跡などが確認されている。

古墳時代 古墳時代前期には、本遺跡南域、及び五合田などから多くの土師器が出土し、集落が点在して形成されていた。中期の集落は、植附・神並・西ノ辻遺跡が知られる。古墳は、4世紀末に縄手遺跡で、えのき塚古墳をはじめ、植附遺跡、皿池遺跡などで古墳の存在が確認されている。後期には、山麓部を中心に辻子谷・神並・若宮・額田山・みかん山・豊浦谷古墳群など多くの群集墳が築造された。

古代 飛鳥・奈良時代以降は仏教の需要を反映するかのように河内寺、法通寺、石凝寺や客坊廃寺などの寺院が建立された。鬼虎川遺跡及び神並・西ノ辻・鬼塚遺跡などでは掘立柱建物、井戸、溝などの、集落・耕作跡の遺構が確認されている。平安時代から鎌倉時代には、条里に伴う溝・畦などの遺構が確認され、広範囲に生産活動が行われている。またこの時期、水走遺跡では堰・堤防・大溝を伴う集落も

形成された。

中世 鎌倉時代以降、本遺跡東域で集落跡が確認されているものの、大部分が生産域として利用された。周辺では、西ノ辻遺跡をはじめ、暗峠越奈良街道、東高野街道沿いに村落が営まれた。また室町時代には、客坊城、往生院城などの城が築造された。

近世 江戸時代になると、大和川の付け替え工事が行われ、平野部における生産域の状態は一変された。本遺跡周辺では、池島地域とは異なる掘り上げ田、及び井路が形成され、その後旧の河川・池は埋め立てられてその周辺を含む田畑が整備された。

第Ⅲ章 調査の方法

第1節 現地調査

現地における調査は、当センターが平成22（2010）年9月に策定した『遺跡調査マニュアル』に基づき実施した。調査箇所と呼称については、受託年度（西暦下2桁）－発注番号（発注順）を組合わせて標記する原則に基づき、10－1調査区と呼称し、更に必要に応じてその1調査区という様に調査区と呼称した。このうち、調査地の地区割については、平面直角座標系、第Ⅵ座標系に基づく地区割によっている（第4図）。これに準じると、今回の調査地の第Ⅰ・Ⅱ区画上の位置は、H7－9となる。

遺物の取り上げもこの座標系に即しており、取り上げ区画には最小単位を10mとする第Ⅲ・Ⅵ区画を用いた。その1調査区が14G－2 a・2 b・2 c、その2調査区が14L－9 h・9 g・10 hとなる。

現地における調査は、各調査区とも、現地盤測量、機械掘削、同出来形測量、人力掘削、同出来形測量の手順を踏んだ。なお、機械掘削では攪乱土・現代の盛土層、旧耕作土層等を除去した。人力掘削においては、断面観察及び排水の為に調査区周囲に側溝を掘削し、この段階で確認調査成果をも鑑み、調査対象面を想定した。後に詳細な断面観察を行い、断面図を作成した。これと併行して遺構面の検出を行い、精査の後、写真撮影及び図化を行なった。

調査における写真撮影には、35mm白黒フィルム・リバーサルフィルム、デジタルカメラを主に用い、全景写真や一部の遺構などには6×7白黒フィルムを、特に重要な場合には同リバーサルフィルムを用いた。なお、撮影対象を記す当センター所定の写真写しこみラベルは、調査名・調査区・内容（地区割）、撮影方向・撮影日・撮影者を記したものであり、35mm白黒フィルムのみに写しこみを行った。

また、遺構面ごとに基本的に縮尺50分の1による遺構平面図を作成し、個別の遺構などについても、平面図・断面図等を10分の1・20分の1の縮尺で適宜作成した。主要な遺構面については、吊り下げポールを用いた空中写真測量を行なった。各調査区の調査では、大阪府教育委員会による立会を受けた。

遺構番号の付与は、遺構の種類にかかわらず、調査順に1から連番で使用し、数字の後に遺構種類を明記している（例：2土坑）。

遺跡から検出した遺物は、遺構面・遺構ごとや包含層ごとに取り上げ、当センター規定のマイラーベースの現場遺物取り上げ用ラベルを添付し、調査名－調査区名・地区名・層位／遺構面・遺構名・出土年月日・登録番号を記した。この際に付与した登録番号は、1から561までの出土順の通し番号を付与した。

遺物の台帳登録・洗浄・注記といった基礎的な整理作業は、現地における発掘調査と併行して随時実施した。

第2節 整理作業

遺構の整理は、断面図・平面図の整合性を確認し、遺物整理で得られた知見と照合し、再発掘をしていく作業である。

まず、当遺跡の堆積状況を把握する為に、基本層序断面図を作成し、層序と遺構面の関係を把握した。次に、各遺構の所属時期の検証を行い、主要遺構の平面・断面図を作成した。

現地調査で出土した遺物は、コンテナバットに換算して67箱であり、それらを再整理し、重要と判断されるものについて、接合・実測・写真撮影を行なった。

また、これらの作業に並行して、報告書の作成および刊行後の遺物管理を効率的に行なうために、FileMaker社のFileMakerPro8.0を用いてマニュアルに則り登録台帳・遺物台帳を作成した上で、掲載遺物と未掲載遺物に区分し、所定のコンテナラベルを添付し収納を行なった。

なお、本報告書掲載の挿図類は、遺構・遺物図の総てをAdobe社のWindows版PhotoshopCS2を用いて読み込み、更にIllustratorCS2を用いてトレース作業を行なうという手順で作成した。

写真図版に関しては、遺構は現地で撮影した35mm及び6×7フィルムを、遺物は6×7フィルムで撮影したものを焼付けを行い、プリントを貼り付けた。

第IV章 調査成果

第1節 基本層序

1.その1 調査区（第5図）

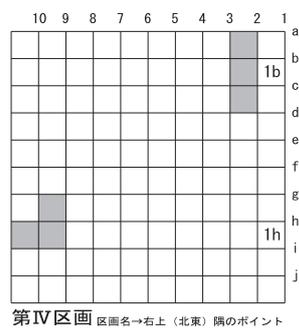
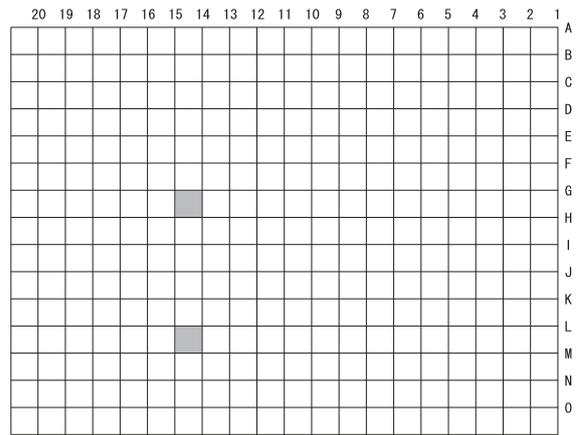
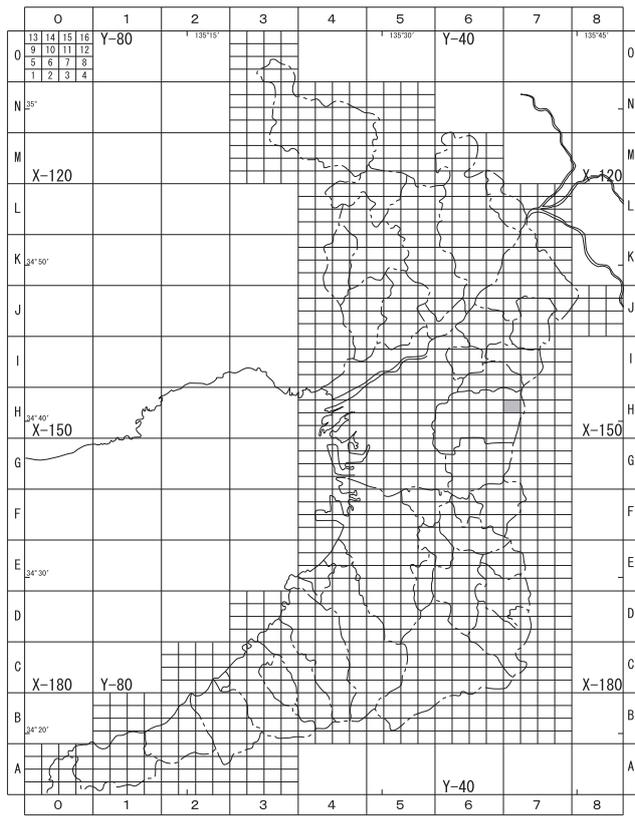
1-1・1-2・1-3・1-4区はG.L.-2.0~2.2mまで大きく攪乱を受けており、T.P.+4.15~T.P.+1.9mまで現代の盛土層である。1-4区では水道管理設の為に約G.L.-4.10~4.15m（T.P.0.05~0.0m）掘削されており、この面まで現代の盛土層である。本調査区の土層（遺構内の埋土を除く）は大きく18層に分けられるが、土器細片が数片出土するのみで、時期決定には至っていない。また、第18層は工事の関係上、調査区の北半部のみを検出である。

第0層 現代盛土層である。国道170号線歩道陸橋建設時やそれ以前の建物の基礎、水道管・ガス管布設による攪乱の層である。旧耕作土は残存していない。上面の高さはT.P.+4.15mである。遺物は土師器片等が出土している（図版8-1-写4~6・8）。

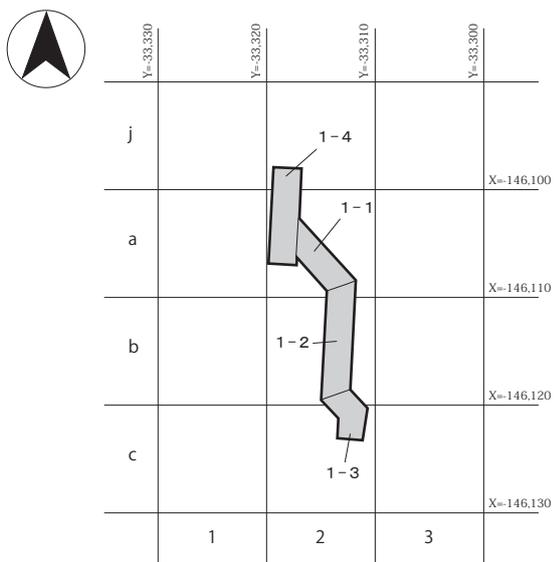
第1層 現代盛土・攪乱の層を除去して検出される層である。第0層の影響により調査区全体では検出していない。層厚は0.06~0.1mを測る。上面は削平を受けているが、この面を第1面とする。上面の高さはT.P.+2.3mである。122井路はこの層よりも上層に存在していたと考えられる。

第2層 層厚は0.05~0.1mを測る。黄褐色~オリーブ褐色2.5Y5/4~4/4シルト（粘性強。マンガ、鉄分沈着。粗砂、中砂、細砂混）である。第2層の上面を第2面とする。上面の高さはT.P.+2.16~2.23mである。

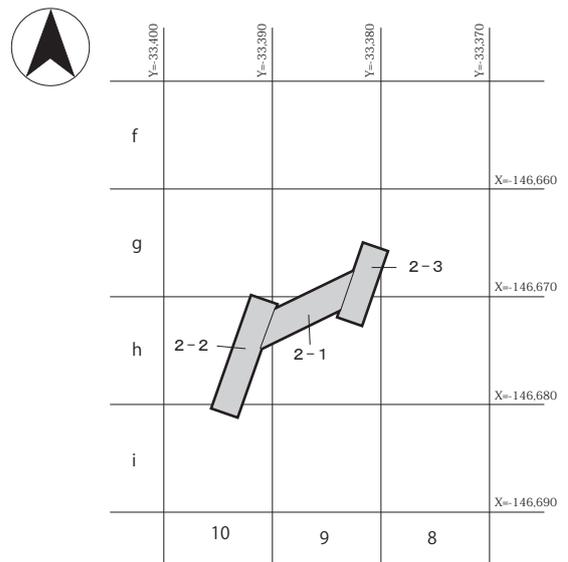
第3層 層厚は0.1~0.17mを測る。第3層は2層に分けられ、第3-1層はオリーブ褐色~灰色2.5Y4/4~10Y4/1粘土質シルト（鉄分、マンガ沈着。中、小、細礫、極粗砂混）層である。第3層の上面を第3面とする。上面の高さはT.P.+2.1~2.16mを測る。第3面では122井路が肩部を検出する。



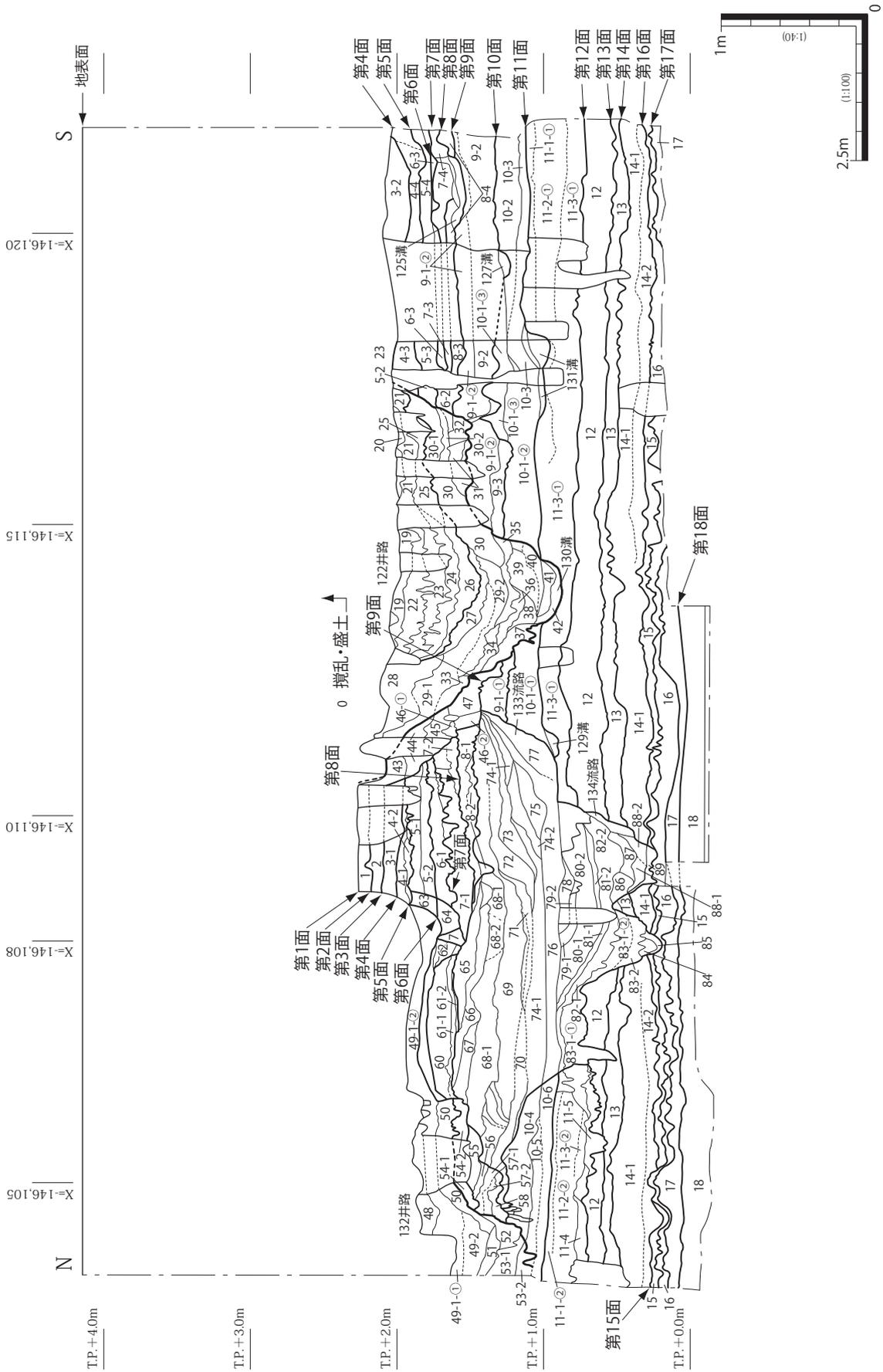
その 1 調査区



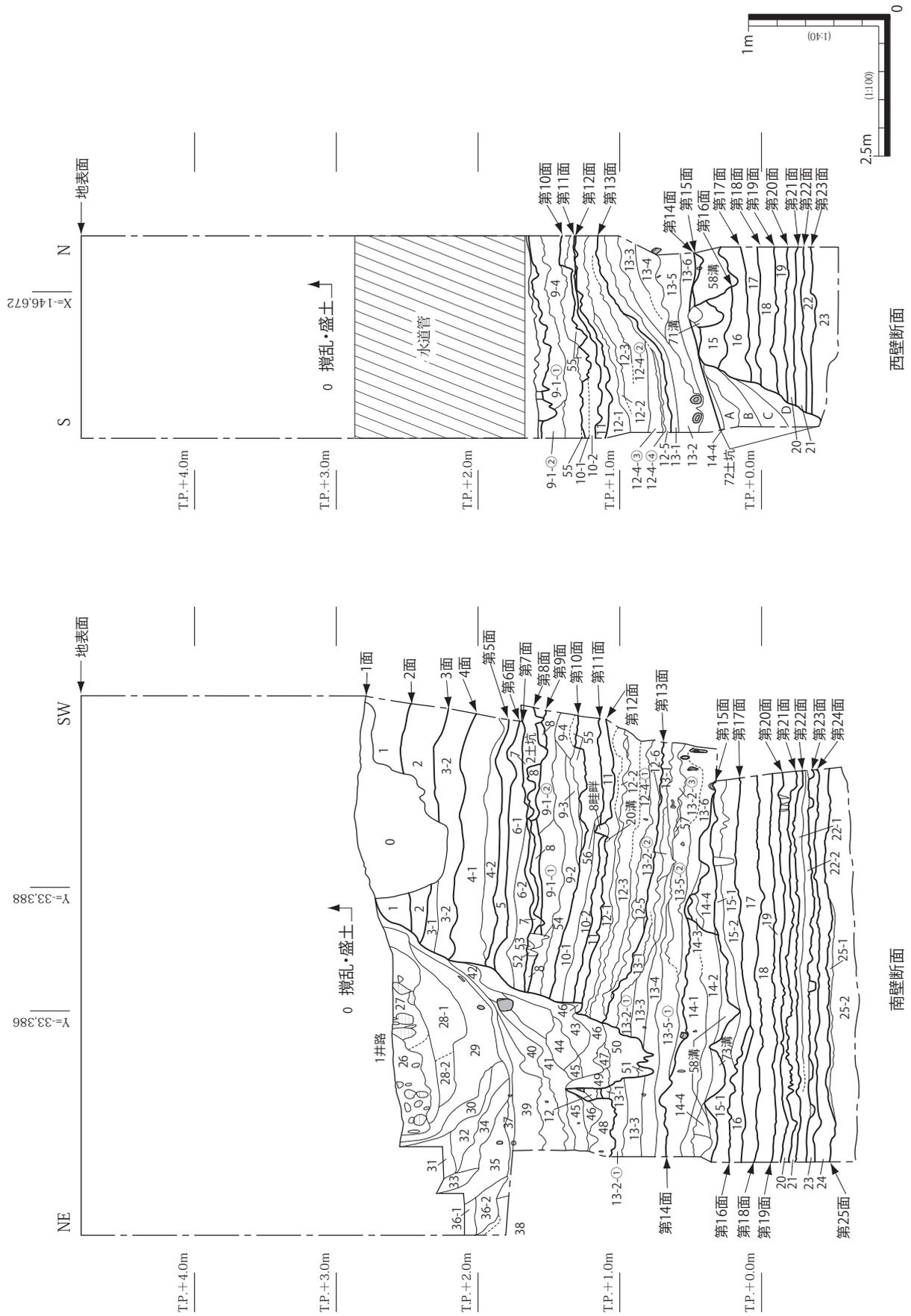
その 2 調査区



第 4 図 地区割図



第5図 その1調査区 東壁断面図



第6図 その2調査区 南壁・西壁断面図

その1区 東壁断面図土色

第0層	攪乱・盛土		第11-4層	オリブ黒～暗オリブ灰・緑灰 10Y3/1～2.5GY3/1・7.5GY5/1 粘土(オリブ黒 5Y3/1帯びる)
第1層	黄褐～灰オリブ 2.5Y5/3～7.5Y5/2 シルト(粘性強) マンガン沈着		第11-5層	暗オリブ灰～灰 2.5GY4/1～10Y4/1 シルト 粗砂～極粗砂多量混 暗オリブ灰 2.5GY3/1 シルト質粘土ブロック(径5～10cm)混
第2層	黄褐～オリブ褐 2.5Y5/4～2.5Y4/4 シルト(粘性強) マンガン、鉄分沈着 細砂、中砂、粗砂混 灰 10Y5/1 粘土質シルト混		第12層	暗緑灰～暗オリブ灰 10GY3/1～5GY3/1 粘土 (黒褐 2.5Y3/1帯びる) 腐植物混
第3-1層	オリブ褐～灰 2.5Y4/4～10Y4/1 粘土質シルト (灰 10Y4/1にオリブ褐 2.5Y4/4混じる)		第13層	暗緑灰～暗青灰 10GY4/1～10BG4/1 粘土 (暗青灰 5PB4/1帯びる)
第3-2層	鉄分、マンガン沈着 極粗砂、細礫混 土師器片混 暗緑灰～暗オリブ灰 7.5GY4/1～5GY4/1 粘土質シルト(粘砂質土) 粗砂、極粗砂、細礫多量混		第14-1層	暗緑灰～暗青灰 10GY3/1～5BG3/1 粘土 (青黒 5PB2/1帯びる)
第4-1層	オリブ灰～灰オリブ 5GY5/1～5Y4/2 粘土質シルト(暗灰黄 2.5Y4/2帯びる) 鉄分、マンガン沈着 粗砂、極粗砂混		第14-2層	暗青灰 10BG3/1～5BG3/1 粘土(青黒 5PB2/1帯びる) 黒色粘土(径1cm)若干混 14-1層よりやや暗い
第4-2層	暗緑灰 10GY4/1 粘土質シルト(暗灰黄 2.5Y5/2帯びる) マンガン、鉄分沈着 粗砂、極粗砂混		第15層	暗緑灰～暗オリブ灰 10GY3/1～2.5GY3/1 粘土 地震によって第16層の土が多量混
第4-3層	暗緑灰～暗オリブ灰 10GY4/1～5GY4/1 粘土質シルト 粗砂混		第16層	黒 10Y2/1～2.5Y2/1 粘土 地震によって土が動く 第17層の土混
第4-4層	暗緑灰 10G4/1～5G4/1 粘土質シルト (粘砂質土気味、粘性強) 極粗砂、細礫多量混		第17層	オリブ黒 10Y3/1～7.5Y3/1 粘土
第5-1層	暗緑灰 10GY4/1～5G4/1 粘土質シルト 粗砂～極粗砂混		第17-1層	暗緑灰 10GY4/1 粘土とオリブ黒 10Y3/1 粘土
第5-2層	オリブ灰～暗緑灰 2.5GY5/1～7.5GY4/1 シルト(粘性強) 粗砂、極粗砂第5-1層より多量混 やや粘土質		第17-2層	灰 5Y4/1 粘土
第5-3層	暗オリブ灰 5GY4/1～3/1 粘土質シルト (灰 7.5Y4/1帯びる) 粗砂、極粗砂混 細礫少量混		第17-3層	緑灰 7.5GY5/1～10GY5/1 粘土
第5-4層	暗オリブ灰～暗緑灰 5GY4/1～7.5GY4/1 粘土質シルト 細砂、粗砂混		第18層	黒 2.5Y2/1～10YR1.7/1 粘土
第6-1層	暗緑灰 5G4/1～10G4/1 粘土質シルト (粘砂質土、粘性強)		19	オリブ灰～灰 5GY5/1～10Y5/1 粘土 (灰 5Y5/1帯びる)
第6-2層	中砂、粗砂、極粗砂多量混 シルトに礫多量混 暗緑灰 10GY4/1～5G4/1 粘土質シルト(粘粗砂質土) 暗緑灰～暗オリブ灰 5G4/1～5GY4/1 シルト質粘土ブロック(径2～3cm)混		20	オリブ灰～緑灰 5GY5/1～5G5/1 粘土 粗砂混
第6-3層	暗緑灰 10G4/1 粘土質シルト(細砂、極粗砂混)		21	緑灰 5G5/1～7.5GY5/1 粘土 粗砂、極粗砂、細礫混 腐植物混
第6-4層	暗オリブ灰 5GY4/1 細砂～粗砂		22	暗オリブ灰 2.5GY4/1～5GY4/1 粘土 (灰 5Y5/1帯びる)
第7-1層	暗緑灰～暗オリブ灰 7.5GY4/1～5GY4/1 粘土質シルト 中砂、粗砂、細礫混		23	灰 10Y5/1～7.5Y5/1 粘土 地震の痕跡
第7-2層	緑灰 10GY5/1 粘土質シルト(第7-1層より粘性強)		24	暗オリブ灰～灰 2.5GY4/1～10Y4/1 粘土 (灰 5Y5/1帯びる) 腐植物混
第7-3層	暗緑灰 10GY4/1～10GY3/1 シルト(粘性強) 中砂、粗砂、極粗砂多量混		25	21と同色同質 粗砂、極粗砂混
第7-4層	暗オリブ灰 2.5GY4/1～5GY4/1 粘土質シルト (粘砂質土)		26	暗オリブ灰 5GY4/1 粘土 腐植物混
第8-1層	暗オリブ灰～オリブ黒 2.5GY3/1～7.5Y3/1 シルト (粘性強)		27	暗緑灰 7.5GY4/1 粘土 細砂、粗砂少量混 腐植物混 下層の土(径0.3cm)混
第8-2層	暗オリブ灰～オリブ黒 2.5GY3/1～7.5Y3/1 シルト 粗砂、極粗砂多量混		28	暗緑灰 7.5GY4/1～10G4/1 粘土 粗砂、極粗砂、細礫 混、腐植物混
第8-3層	灰 7.5Y4/1～10Y4/1 シルト(粘性強)		29-1	暗緑灰 7.5GY4/1～10G4/1 粘土(ややシルト質) 細礫少量混
第8-4層	暗オリブ灰 5GY4/1～5GY3/1 粘土質シルト (粘砂質土) 極粗砂、細礫混		29-2	粗砂、極粗砂28より多量混 暗オリブ灰～暗緑灰 2.5GY4/1～7.5GY4/1 粘土 29-1よりやや暗し 粗砂混 炭化物(径0.5～1cm)混 腐植物混
第9-1-①層	灰～オリブ黒 7.5Y4/1～7.5Y3/1 粘土 (暗緑灰 10G4/1気味)		30	暗オリブ灰～暗緑灰 5GY4/1～7.5GY4/1 粘土 細砂、粗砂混 腐植物混
第9-1-②層	暗オリブ灰～灰 5GY4/1～10Y4/1 シルト質粘土 下層の土ブロック(径0.5cm)混 腐植物混		30-1	緑灰 10GY5/1～10G5/1 粘土 粗砂、極粗砂多量混 腐植物多量混
第9-2層	緑灰～暗緑灰 10G5/1～10GY4/1 粘土 (黄灰 2.5Y5/1帯びる)		31	緑灰 7.5GY5/1 粘土 黒 5Y2/1～7.5Y2/1 粘土 (炭化ブロック)混
第9-3層	暗オリブ灰～灰 2.5GY4/1～7.5Y4/1 粘土 (黄灰 2.5Y4/1帯びる)		32	緑灰 7.5GY5/1 粘土 黒 5Y2/1～7.5Y2/1 粘土 (炭化ブロック)混
第10-1-①層	黄灰～灰 2.5Y4/1～5Y4/1 粘土(黒褐 2.5Y3/1帯びる) 腐植物混 暗オリブ 5Y4/3 微砂混		33	暗青灰～暗緑灰 10BG4/1～10G4/1 粘土 (灰 5Y4/1帯びる)
第10-1-②層	灰～黄灰 5Y4/1～2.5Y4/1 粘土		34	暗緑灰 7.5GY4/1～10G4/1 粘土 29-2よりやや明るい 粗砂多量混
第10-1-③層	灰 5Y5/1～5Y4/1 粘土(黄灰 2.5Y4/1帯びる)		35	暗オリブ灰 2.5GY4/1～5GY4/1 粘土(粘性強)
第10-2層	灰 7.5Y4/1 粘土(黄灰 2.5Y4/1帯びる)		36	34と同色同質(上層34より明るい)
第10-3層	黄灰～灰 2.5Y4/1～5Y4/1 粘土(褐灰 10YR4/1帯びる)		37	暗青灰～暗緑灰 5BG4/1～5G4/1 粘土 粗砂、 極粗砂多量混 下層の土(径0.5～3cm)ブロック混 腐植物混
第10-4層	灰～黄灰 5Y4/1～2.5Y4/1 シルト質粘土 腐植物少量混		38	暗オリブ灰～暗緑灰 5GY4/1～7.5GY4/1 粘土 腐植物混
第10-5層	灰～黄灰 5Y4/1～2.5Y4/1 シルト質粘土(粘性強)		39	緑灰 5G5/1～10G5/1 粘土
第10-6層	灰～暗オリブ灰 5Y4/1～5GY4/1 粘土質シルト～ シルト 腐植物、木混		40	緑灰 5G5/1～10G5/1 粘土
第11-1-①層	灰～オリブ黒 7.5Y4/1～7.5Y3/1 粘土 腐植物混		41	緑灰 5G5/1～10G5/1 粘土(黄灰～黒褐 2.5Y4/1～ 3/1帯びる)粘土ブロック(径4～7cm)混 130溝
第11-1-②層	暗オリブ灰 5GY4/1 粘土		42	暗緑灰 7.5GY4/1～10G4/1 粘土 (黄灰 2.5Y4/1帯びる) 130溝
第11-2-①層	暗オリブ灰 2.5GY4/1～2.5GY3/1 粘土 (褐灰 10YR4/1帯びる)		43	オリブ灰 2.5GY5/1 細砂(やや粘性)
第11-2-②層	暗オリブ灰 5GY4/1 粘土(黄灰 2.5Y4/1帯びる)		44	暗青灰 5BG4/1～10BG4/1 粘土 粗砂、極粗砂混 腐植物混
第11-3-①層	灰～暗オリブ灰 7.5Y4/1～2.5GY3/1 粘土 (黄灰 2.5Y4/1帯びる) 腐植物混 灰～オリブ灰 10Y5/1～2.5GY5/1 粘土塊(径2cm)混 木製品出土		45	暗青灰 10BG4/1～10BG3/1 粘土(暗灰 N3/0帯びる) 粗砂44より少量混
第11-3-②層	暗オリブ灰 5GY3/1 粘土(第11-2層よりやや暗い)		46-1	灰～緑灰 7.5Y6/1～5G5/1 細礫 粘土質シルトブロック(径2～3cm)混
			46-2	灰～暗オリブ灰 10Y5/1～2.5GY4/1 シルト質粘土 (灰 7.5Y5/1帯びる)

47 暗青灰～暗緑灰 10BG4/1～10G4/1 粘土
(灰 5Y4/1帯びる)

48 オリーブ黒～暗緑灰 10Y3/2～7.5GY4/1 粘土質シルト
(粘砂質土) 腐植物混

49-1-① 灰～暗オリーブ灰 5Y4/1～5GY4/1 シルト質粘土
腐植物混

49-1-② 暗青灰～暗緑灰 5BG4/1～10G4/1 シルト質粘土
(暗緑灰 5G4/1帯びる) 細砂、中砂、粗砂少量混

49-2 暗オリーブ灰 2.5GY3/1～5GY4/1 粘土
(やや灰オリーブ 5Y4/2帯びる)

50 暗緑灰 5G4/1～10GY4/1 シルト質粘土(灰 5Y4/1帯びる)
極粗砂混

51 暗オリーブ灰～暗緑灰 5GY4/1～7.5GY4/1 シルト質粘土
(灰 7.5Y4/1帯びる)

52 灰～オリーブ灰 7.5Y4/1～5GY5/1 粘土質シルト
(粘砂質土) シルト質粘土ブロック(径5cm)混

53-1 暗オリーブ灰～オリーブ黒 5GY4/1～5Y3/2 シルト質粘土
粗砂、腐植物混

53-2 灰～暗オリーブ灰 7.5Y4/1～2.5GY4/1 粘土質シルト
粗砂、極粗砂、細礫多量混

54-1 暗オリーブ灰～暗緑灰 5GY4/1～7.5GY4/1 シルト質粘土
(やや灰 5Y4/1帯びる) 粗砂、腐植物混

54-2 暗オリーブ灰～灰 2.5GY4/1～7.5Y4/1 粘土質シルト
(砂質土)
粗砂、極粗砂多量混 細礫少量混

55 灰オリーブ～灰 5Y5/2～10Y5/1 極粗砂、粗砂、細礫
シルトブロック(径1cm以下)混 やや暗い

56 灰 10Y5/1～7.5Y5/1 微砂～極細砂
(ややシルト質、灰 5Y4/1帯びる) 腐植物混

57-1 暗オリーブ灰 2.5GY4/1～5GY4/1 シルト
(やや粘質、灰 5Y4/1帯びる)

57-2 オリーブ灰 2.5GY5/1～5GY5/1 粘土質シルト 粗砂多量混

58 灰～オリーブ灰 10Y5/1～5GY5/1 細砂～細礫
灰 7.5Y5/1 極粗砂～細礫混 粘細砂ブロック

59 暗青灰 10BG4/1 シルト(粘性強) 極粗砂下位に多量混

60 暗緑灰～灰 7.5GY4/1～7.5Y5/1 極粗砂～細砂・細礫～
粗砂、極粗砂(中砂混)・極粗砂～粗砂(細礫混)

61-1 暗緑灰 10GY4/1～7.5GY4/1 シルト～微砂、極細砂、細砂

61-2 暗オリーブ灰～オリーブ灰 2.5GY4/1～10Y4/2
シルト(粘性強、灰 5Y4/1帯びる)

62 暗オリーブ灰～暗緑灰 5GY4/1～7.5GY4/1・2.5GY シルト
(粘性強)
粗砂、極粗砂、細礫多量混

63 暗緑灰～暗オリーブ灰 7.5GY4/1～5GY4/1 粘土質シルト

64 暗青灰～暗緑灰 5BG4/1～5G4/1 粘土(ややシルト質)
粗砂、極粗砂、細礫混

65 灰 10Y5/1～5Y6/1 粗砂～細礫

66 暗緑灰～灰 5G4/1～5Y4/1 粘土質シルト

67 暗緑灰～灰 10GY4/1～5Y4/1 シルトと細砂の互層

68-1 灰 10Y5/1～7.5Y5/1 粗砂～極粗砂、細礫混

68-2 灰 10Y5/1 中礫～大礫混(径0.5～2.5cm)

69 オリーブ灰～灰 2.5GY5/1～N6/0 粗砂～極粗砂、細礫

70 灰 7.5Y4/1～10Y4/1 微砂～細砂
(粘性強 ややシルト質、灰 5Y4/1帯びる)

71 灰 7.5Y4/1～5Y4/1 極細砂～細砂 シルト～微砂
腐植物混

72 灰 N6/0～7.5Y6/1 細砂～極粗砂

73 灰 10Y6/1～7.5Y6/1 微砂シルト～細砂 ラミナ

74-1 灰 5Y5/1～7.5Y5/1 微砂～シルト(やや粘性)

74-2 灰～オリーブ灰 10Y5/1～2.5GY5/1 シルト～微砂
(灰 5Y5/1帯びる) 腐植物少量混

75 74-2と同色同質(粘性)

76 灰 7.5Y5/1～10Y5/1 シルト

77 灰 7.5Y4/1～10Y4/1 粘土質シルト

78 灰 10Y4/1 細砂～粗砂(やや粘性)

79-1 灰 10Y4/1 極細砂～細砂

79-2 灰 10Y5/1 粗砂(やや粘質)

80-1 灰 7.5Y4/1 シルト 微砂混

80-2 灰 10Y4/1 粘土質シルトと粘土の互層(灰 5Y4/1帯びる)

81-1 オリーブ黒 10Y3/1 シルト(粘性強) 腐植物混

81-2 灰 5Y4/1 粘土質シルト

82-1 オリーブ黒 10Y3/1～7.5Y3/1 粘土

82-2 暗オリーブ灰～灰 2.5GY3/1～10Y4/1 粘土
(黄灰 2.5Y4/1帯びる) 腐植物、炭化物混

83-1-① 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 シルト質粘土(粘性強)
粘土ブロック、粗砂、極粗砂多量混 細礫混

83-1-② オリーブ黒 7.5Y3/1～10Y3/1 粘土 細砂、粗砂、極粗砂多
量混

83-2 83-1-②と同色同質 粗砂、極粗砂混83-1より少ない

84 暗オリーブ灰 5GY3/1～2.5GY3/1 粘土
暗緑灰 7.5GY4/1 粘土(径3cm)混

85 暗緑灰 7.5GY3/1～10GY3/1 粘土
下層の粘土ブロック径(1～10cm)混

86 灰 7.5Y4/1～5Y4/1 粘土(黄灰 2.5Y4/1帯びる)
極粗砂、細礫混

87 灰～オリーブ黒 10Y4/1～10Y3/1 粘土(灰 5Y4/1帯びる)

88-1 暗緑灰 10GY4/1～10G4/1 粘土(黄灰 2.5Y4/1帯びる)

88-2 暗青灰～暗緑灰 5BG4/1～10GY3/1 粘土

89 暗緑灰 10GY3/1 粘土

90 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 粘土 粗砂混 腐植物混

その2区 南壁断面土色

第0層 攪乱・盛土

第1層 暗緑灰 5G3/1～7.5GY4/1 粘土質シルト
(粘砂質土) 極粗砂、細礫混 オリーブ黒 5Y3/1
粘土質シルトブロック(径5cm)混

第2層 暗緑灰 10GY4/1～10G3/1 粘土質シルト
(粘砂質土、粘性強) 極粗砂、細礫混 第1層より
粘性強

第3-1層 灰～暗緑灰 10Y4/1～7.5GY4/1 粘土質シルト
粗砂、極粗砂混

第3-2層 灰～暗緑灰 10Y4/1～7.5GY4/1 粘土質シルト
(粘性強、やや灰 5Y4/1帯びる) 粗砂、極粗砂混

第4-1層 灰～暗オリーブ灰 10Y4/1～2.5GY4/1 シルト(粘性強)
粗砂少量混

第4-2層 灰～暗オリーブ灰 10Y4/1～2.5GY4/1 シルト
(粘性強、灰 7.5Y4/1帯びる) 粗砂、細礫多量混

第5層 灰～暗オリーブ灰 10Y4/1～5GY4/1 シルト
(灰 7.5Y4/1帯びる) シルトと細礫混合

第6-1層 灰～暗緑灰 10Y4/1～10GY4/1 砂礫 粗砂、極粗砂、
細礫混 土器(土師器・須臾器)混

第6-2層 灰～暗緑灰 10Y4/1～10GY4/1 細礫中心
礫(径3～5cm)混

第7層 緑灰～暗緑灰 5G5/1～5G4/1 粘土質シルト
中砂、粗砂混

第8層 暗青灰 5BG3/1～10BG3/1 粘土(粘性強)
ややシルト質粘土、粗砂微量混

第9-1-①層 暗緑灰～暗青灰 10G4/1～5BG4/1 シルト質粘土
中砂、極粗砂混 第8・9-2層より多量混

第9-1-②層 暗青灰 5BG4/1～10BG4/1 シルト質粘土(粘性強)
中砂～粗砂混 第8層より多量混

第9-2層 暗青灰 5BG4/1～10BG4/1 シルト質粘土 第9-1層より
やや暗い 中砂、極粗砂混 第9-1層より少ない

第9-3層 第9-2層とほぼ同色同質
(第9-2層より粘性強)

第9-4層 灰オリーブ～オリーブ灰 7.5Y5/3～10Y4/2
第9-2層とほぼ同質

第10-1層 暗オリーブ灰～暗緑灰 5GY4/1～10G4/1 粘土

第10-2層 暗緑灰 5G4/1～10G4/1 粘土(ややシルト質)
第10-1層よりやや明るい

第11層 暗緑灰 10G4/1 シルト～微砂

第12-1層 黒褐 10YR3/1～2.5Y3/1 粘土
粘土粒(径0.3～0.5cm)混

第12-2層 黄灰 2.5Y4/1 粘土

第12-3層 暗緑灰 10GY4/1 粘土(黄灰 2.5Y4/1帯びる)
オリーブ褐 2.5Y4/3 粘土粒、黒褐 2.5Y3/1 粘土粒混

第12-4-①層 黒 2.5GY2/1～10Y2/1 粘土 灰 10Y5/1
粘土粒、黒色 2.5GY2/1～10Y2/1 粘土粒、粗砂、炭化物混

第12-5層 緑黒～オリーブ黒 7.5GY2/1～7.5Y3/2 粘土
細礫、粗砂混 暗オリーブ・黒 7.5Y4/3・2.5GY2/1～10Y2/1
粘土粒混

第12-6層 暗オリーブ灰～オリーブ灰 5GY4/1～5GY5/1 粘土

第13-1層 黒 10Y2/1～N1.5/0 シルト質粘土 細砂、極粗砂、細礫
多量混 土器混 緑黒～暗緑灰 5G2/1～5G3/1
粘土粒(径0.2～1cm)混

第13-2-①層 第13-1層と同色同質 第13-1層よりやや黒色強し
礫(径0.5~1cm)混

第13-2-②層 黒 5Y2/1 粘土

第13-2-③層 黒 5Y2/1~10Y2/1 シルト質粘土 木混

第13-3層 第13-2-③層と同質 暗オリーブ灰 2.5GY3/1
粘土粒(径0.5~1cm) 多量混 土器混

第13-4層 第13-3層と同色同質(シルト質強 上層よりも黒色強し)
極粗砂、細礫 第13-3層より多量混 土器多量混
焼土(径1cm)混

第13-5-①層 第13-4層と同色同質 細礫多量混 小礫(径1~2cm)混
やや砂質

第13-5-②層 第13-5-①層よりも粘質強

第13-6層 黒 2.5GY2/1~10Y2/1 粘土質シルト 細礫多量混
土器混

第14-1層 黒 5Y2/1 シルト質粘土 粗砂、極粗砂、細礫多量混
土器混 黒 10Y2/1 粘土粒混

第14-2層 オリーブ黒 10Y3/1 粘土質シルト 炭化物混 下層の土
暗オリーブ灰 5GY4/1~3/1 粘土ブロック状(径2~3cm)混

第14-3層 黒 7.5Y2/1 第14-4層とほぼ同質 極粗砂、
細礫混 下層の土ブロック混

第14-4層 黒 7.5Y2/1 シルト質シルト 細礫多量混 第14-3層よりも
粘性強

第15-1層 暗緑灰~緑黒 7.5GY3/1~2/1 粘土(ややシルト)
粗砂、極粗砂多量混

第15-2層 暗緑灰 7.5GY3/1~10GY3/1 粘土 粗砂混
第15-1層より少量 オリーブ灰 5GY5/1粘土粒
(径0.3~0.5cm)混

第16層 暗オリーブ灰 5GY4/1~2.5GY4/1 粘土
(暗オリーブ灰 2.5GY3/1帯びる)

第17層 暗オリーブ灰 2.5GY3/1~5GY3/1 粘土 細砂微量混
オリーブ黒 5GY2/1気味
暗オリーブ灰 2.5GY3/1 粘土粒(径0.3~0.5cm)混

第18層 暗オリーブ灰 5GY3/1 シルト質粘土
(シルト質強、ややオリーブ黒 7.5Y3/2帯びる)

第19層 緑黒 7.5GY2/1~10GY2/1 粘土(黒 10Y2/1帯びる)
炭化物混 暗緑灰 7.5GY3/1粘土混

第20層 黒 2.5GY2/1~7.5Y2/1 粘土 地震痕と思われるもの有
液状化

第21層 暗オリーブ灰~オリーブ黒 2.5GY3/1~10Y3/2
粘土質シルト(粘性強)

第22-1層 黒 10Y2/1 粘土 暗緑灰 10GY4/1~5G4/1
粘土粒(径0.5~5cm)混

第22-2層 黒 10Y2/1 粘土(やや黒 5Y2/1帯びる) 暗オリーブ灰
5GY4/1 粘土粒混

第23層 オリーブ黒~暗オリーブ灰 10Y3/1~2.5GY4/1 粘土

第24層 黒 10Y2/1~7.5Y2/1 粘土(黒 5Y2/1帯びる)

第25-1層 黒 7.5Y2/1 粘土 灰 7.5Y4/1~5Y4/1
粘土粒(径0.5~3cm)混

第25-2層 黒 7.5Y2/1 粘土(オリーブ黒 7.5Y3/1帯びる)

26 暗緑灰 10GY4/1~5G4/1 粘土質シルト(粘砂質土)
オリーブ灰~緑灰 2.5GY5/1~7.5GY5/1 極粗砂~細礫
(径1.5~5cm)混

27 26と同質 暗緑灰~暗オリーブ灰 7.5GY4/1~5GY4/1
粘土質シルト(粘砂質土、粘性強) 暗緑灰 10GY3/1
粘土質シルト(粘性強) 粗砂、細礫混

28-1 暗緑灰~オリーブ黒 10GY4/1~5Y3/1 粘土質シルト
粗砂~細礫混

28-2 暗緑灰 10GY3/1~5G3/1 粘土質シルト(粘性強)
粗砂混 暗緑灰 7.5GY4/1 粘土質シルト
(粘砂質土、粘性強)と混合

29 暗緑灰 10G3/1~4/1 粘土質シルト
(粘性強、オリーブ黒 7.5Y3/1帯びる)
暗緑灰 5G4/1 粘土質シルト(粘砂質土)ブロック状
(径7cm)混 全体的に粗砂、極粗砂、大礫多量混

30 緑灰 7.5GY5/1 粘土質シルト(粘砂質土)
粗砂、極粗砂混 礫(径5cm)混

31 暗オリーブ灰~暗緑灰 5GY4/1~7.5GY4/1 粘土質シルト
(粘砂質土、灰 5Y4/1帯びる) 粗砂多く細礫
(径1~3cm)混

32 暗緑灰~オリーブ黒 10GY4/1~10Y3/1 粘土質シルト
(粘砂質土) 暗緑灰 7.5GY4/1 粘砂ブロック状混入

33 緑灰 7.5GY5/1~10GY5/1 粘土質シルト
(粘砂質土、砂質強) 粗、大礫混

34 緑灰~オリーブ灰 7.5GY5/1~5GY5/1 粘土質シルト
(粘性強) 粗砂、極粗砂多量混

35 暗緑灰~暗オリーブ灰 5G4/1~2.5GY4/1 粘土質シルト
(粘砂質土、粘性強) 極粗砂、細礫多量混

36-1 灰 10Y4/1 粘土質シルト(粘砂質土、細礫)

36-2 暗緑灰 7.5GY4/1 粘土質シルト(粘砂質土、粘性強)
極粗砂、細礫多量混

37 黒 10Y2/1~N1.5/0 粘土質シルト 腐植物混

38 緑灰~暗青灰 10G5/1~5BG4/1 粘土質シルト
(粘砂質土、粘性強)

39 黒 5Y2/1~7.5Y2/1 粘土質シルト

40 黒 5Y2/1~7.5Y2/1 粘土質シルト 極小礫混

41 暗青灰 10BG4/1 粘土混

42 灰 10Y4/1 粘土質シルトと粗砂~極小礫の混合

43 オリーブ黒 7.5Y3/1~10Y3/1 粘土質シルト
(粘砂質土) 極粗砂 緑灰~暗オリーブ灰
7.5GY5/1~2.5GY4/1 粘土質シルト 砂粒、極小礫混

44 暗緑灰 10G4/1 シルト質粘土 腐植物混

45 灰 7.5Y4/1 粘土質シルトと極小礫

46 灰 7.5Y4/1 粘土質シルト 粗砂~極小礫多量混

47 オリーブ灰 2.5GY5/1~5GY5/1 極粗砂

48 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 粘土質シルトと極粗砂との混合
灰 5Y4/1 シルト質粘土
(灰オリーブ~暗オリーブ 7.5Y5/3~7.5Y4/3帯びる)
黒 2.5Y2/1 シルト質粘土ブロック混

49 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 シルト質粘土 極粗砂、粗砂混

50 灰オリーブ~オリーブ灰 7.5Y5/3~10Y4/2 シルト質粘土
粗砂、細礫多量混 土器細片混

51 灰オリーブ 7.5Y5/3 シルト質粘土 粗砂混

52 オリーブ灰 5GY5/1 極粗砂~細礫 細砂、粗砂混

53 オリーブ灰 2.5GY5/1~5GY5/1 粘土質シルト

54 オリーブ灰 2.5GY5/1~5GY5/1 細砂

55 暗緑灰 5G4/1~10G4/1 粘土(ややシルト)と暗緑灰
10GY3/1帯びる 極粗砂~細礫の混合 全体的に粘砂混
粘土質シルト(粘砂質土) 暗オリーブ灰~暗緑灰
5GY4/1~7.5GY4/1 シルトと粘土質シルトと極粗砂、細礫混合
下位に多量混 6溝埋土

56 暗緑灰 10GY4/1 シルトに褐灰 10YR4/1 粘土質シルトに
下層12層の土混 8畦畔ぐずれ

57 黒 10Y2/1 シルト質粘土

その2区 西壁断面土色

第0層 攪乱・盛土

第12-1層 暗緑灰 5G3/1~10G3/1 粘土 5G4/1 粘土粒混
炭化物多量混

第12-2層 緑黒 5G1.7/1~10G1.7/1 粘土 暗緑灰 5G4/1
粘土粒混 炭化物混

第12-3層 青黒 10BG1.7/1~5B1.7/1 粘土 暗青灰 10BG4/1
粘土粒少量混

第12-4-②層 青黒 5B1.7/1 粘土 暗青灰 10BG4/1
粘土粒多量混 炭化物多量混

第12-4-③層 緑黒 10GY2/1 粘土

第12-4-④層 黒 N1.5/0 粘土

第12-5層 12-4-①と同質 青灰~暗青灰 5BG5/1~4/1
粘土粒(径0.5~1cm)混 炭化物多量混

第13-1層 緑黒~黒 5G1.7/1~10Y2/1 粘土 粗砂、細礫混
暗青灰 5BG4/1 粘土粒混

第13-2層 黒 10Y2/1~N1.5/0 粘土 粗砂、極粗砂、細礫多量

第13-3層 黒 N1.5/0~10Y2/1 粘土 粗砂、極粗砂、細礫
第13-2層より非常に多量混 炭化物混 土器多量混

72土坑埋土

A 黒 7.5Y2/1~10Y2/1 粘土質シルト 細礫混
極粗砂、粗砂、炭混

B オリーブ黒 10Y3/1~7.5Y3/1 粘土質シルト(粘性強)
極粗砂、粗砂混 腐植物、炭混 木、土器混

C Bとほぼ同色同質 腐植物、炭混 木、土器混

D 灰 7.5Y4/1~5Y4/1 粘土 極粗砂、粗砂混
腐植物、炭混 木、土器混

本井路はT.P.+2.4mから存在していた。本井路の北側と南側では土層が異なり、南側の第3-2層は暗緑灰色～暗オリーブ灰色7.5GY4/1～5GY4/1粘土質シルトである。

第4層 第4層は4層に分けられる。122井路の北側では2層に分けられ、上層を第4-1層、下層を第4-2層とする。第4-1層の層厚は0.02～0.11m、第4-2層の層厚は0.02～0.05mを測る。第4-1層はオリーブ灰色～灰オリーブ色5GY5/1～5Y4/2粘土質シルト層である。第4-1層の上面を第4面とする。第4面はT.P.+1.98～2.04mを測る。第4-2層は極粗砂、細礫が第4-1層よりも混じる暗緑灰色10GY4/1粘土質シルトである。

第4-3層、第4-4層は122井路の南側に堆積する層である。第4-3層は暗緑灰色～暗オリーブ灰色10GY4/1～5GY4/1粘土質シルト（粗砂混）、第4-4層は暗緑灰色10G4/1～5G4/1粘土質シルトである。層厚0.15mを測る。南側では第4-3層、4-4層の上面を第4面とする。T.P.+2.0mを測る。

第5層 層厚は約0.15mを測る。第5層は更に4層に分けられ、122井路の北側では上層を第5-1層、下層を第5-2層とする。第5-1層は暗緑灰色10GY4/1～5G4/1粘土質シルト、第5-2層はオリーブ灰色～暗緑灰色2.5GY5/1～7.5GY4/1シルトである。第5-1層の上面はT.P.+1.90～1.96mを測る。第5-1層の上面を第5面とする。

122井路の南側では第5-3層、第5-4層が堆積する。層厚0.1～0.15mを測る。第5-3層は、暗オリーブ灰色5GY4/1～3/1粘土質シルト、第5-4層は暗オリーブ灰色～暗緑灰色5GY4/1～7.5GY4/1粘土質シルトである。第5-3、5-4層の上面を第5面とする。T.P.+1.85～1.9mを測る。第5面では窪みがあるものの遺構は検出しておらず、遺物も出土していない。

第6層 122井路の北側では、層厚0.05～0.1mを測り、第6層は2層に分けられる。上層を第6-1層、下層を第6-2層とする。第6-1層は暗緑灰色5G4/1～10G4/1粘土質シルト、第6-2層は暗緑灰色10GY4/1～5G4/1粘土質シルトである。第6-1層の上面を第6面とする。

122井路の南側では2層に分けられ、第6-3層、第6-4層である。層厚0.04～0.06mを測る。第6-3層は10G4/1暗緑灰色粘土質シルトで、第6-4層は暗オリーブ灰色5GY4/1細砂～粗砂である。これらの層の上面を第6面とする。高さはT.P.+1.72～1.82mを測る。遺構、遺物は検出していない。

第7層 122井路の北側では、層厚0.16～0.18mを測る。第7層は第7-1層、第7-2層に分けられる。第7-1層は暗緑灰色～暗オリーブ灰色7.5GY4/1～5GY4/1粘土質シルト、第7-2層は緑灰色10GY5/1粘土質シルトである。第7-1層の上面を第7面とする。

122井路の南側では、第7-3層、第7-4層に分けられる。第7-3層は暗緑灰色10GY4/1～10GY3/1シルト、第7-4層は暗オリーブ灰色2.5GY4/1～5GY4/1粘土質シルトである。第7-3層、第7-4層の上面が第7面である。遺構は、123・124溝の2条の溝の他痕跡の3条の溝と人・動物の足跡を検出する。遺物としては、第7-1層中より土師器小皿の口縁部の細片が出土している。時期は中世と思われる。122井路の北側と南側で、土質が異なる原因は、下層の132井路によるものと考えられる。第7-1～7-4面の上面の高さはT.P.+1.64～1.78mを測る。

第8層 122井路の北側では、層厚0.03～0.15mを測る。第8層は第8-1層と第8-2層に分けられる。第8-1層は暗オリーブ灰色～オリーブ黒色2.5GY3/1～7.5Y3/1シルトで、第8-2層は第8-1層と同じシルトで粗砂・極粗砂多量に混じる。

南側では第8-3層、第8-4層に分けられる。第8-3層は灰色7.5Y4/1～10Y4/1シルトで、第8

- 4層は暗オリーブ灰色5GY4/1~5GY3/1粘土質シルトである。第8-1層、第8-3層、第8-4層の上面が第8面である。高さはT.P.+1.51~1.75mを測る。

第9層 層厚0.18~0.32mを測る。第9層は133流路の北側では存在せず、南側で存在する層である。122井路の北側と南側では土層の様相が異なり、土質もやや異なるが、同一の層として捉えることが出来る。第9-1-①層は、北側では灰色~オリーブ黒色7.5Y4/1~3/1粘土で、南側では第9-1-②層は暗オリーブ灰色~灰色5GY4/1~10Y4/1シルト質粘土である。第9-2層は緑灰色~暗緑灰色10G5/1~10GY4/1粘土である。第9-3層は暗オリーブ色~灰色2.5GY4/1~7.5Y4/1粘土である。第9-1-①、9-1-②、9-2層の上面を第9面とする。第9層では、122井路の北側でT.P.+1.45mを、南側でT.P.+1.6mを測る。遺構としては、1-3区で、125・126溝を検出した。遺物は土師器片が出土している(図版8-1-写7)。

第10層 層厚は約0.2~0.4mを測る。第9層と同様に122井路の北側と南側で、また133流路の北側でも土質が若干異なる。

第10-1層は、北側では第10-1-①層が黄灰色~灰色2.5Y4/1~5Y4/1粘土である。南側では、第10-1-②層が灰色5Y4/1~黄灰色2.5Y4/1粘土である。第10-1-③層は、灰色5Y5/1~5Y4/1粘土である。

第10-2層は、灰色7.5Y4/1粘土である。第10-3層は、黄灰色~灰色2.5Y4/1~5Y4/1粘土である。第10-1-①、10-1-②、10-1-③、10-2層の上面を第10面とする。上面の高さは、T.P.+1.25~1.3mを測る。遺構は127溝と動物の足跡を検出した。133流路の北側では、第10-4層より上の層は、132井路と133流路によって失われている。層厚は0.05~0.3mを測る。第10-4層は灰色~黄灰色5Y4/1~2.5Y4/1シルト質粘土、第10-5層は灰色~黄灰色5Y4/1~2.5Y4/1シルト質粘土、第10-6層は灰色~暗オリーブ灰色5Y4/1~5GY4/1粘土質シルト~シルトである。第10-4層の上面を第10面とする。高さはT.P.+1.1~1.32mを測る。

第11層 層厚は0.1~0.4mを測る。第11層は134流路によって壊されているものの、調査区のほぼ全体で検出した。第11層は大きく第11-1~第11-5層に分けられ、更に第11-1~第11-3層は2層に分けられる。

第11-1-①層は灰色~オリーブ黒色7.5Y4/1~7.5Y3/1粘土、第11-1-②層は、暗オリーブ灰色5GY4/1粘土である。第11-2-①層は暗オリーブ灰色2.5GY4/1~2.5GY3/1粘土、第11-2-②層は暗オリーブ灰色5GY4/1粘土である。第11-3-①層は灰色~暗オリーブ灰色7.5Y4/1~2.5GY3/1粘土、第11-3-②層は暗オリーブ灰色5GY3/1粘土である。第11-4層はオリーブ黒色~暗オリーブ灰色・緑灰色10Y3/1~2.5GY3/1・7.5GY5/1粘土である。第11-5層は暗オリーブ灰色~灰色2.5GY4/1~10Y4/1シルトである。第11-1-①、11-1-②、11-3-①層の上面を第11面とする。第11面の高さはT.P.+0.95~1.15mを測る。遺構は128土坑、129・130・131溝を検出した。

第12層 層厚は0.1~0.27mを測る。第12層から以下の層は調査区の全体に検出される層である。第12層は暗緑灰色~暗オリーブ灰色10GY3/1~5GY3/1粘土である。上面を第12面とする。高さはT.P.+0.7~T.P.+0.9mを測る。

第13層 層厚は0.05~0.15mを測る。第13層は暗緑灰色~暗青灰色10GY4/1~10BG4/1粘土である。上面を第13面とする。上面の高さはT.P.+0.6~0.65mを測る。

第14層 層厚は0.15~0.35mを測る。第14層は2層に分けられ、上層を第14-1層、下層を第14-2

層とする。第14-1層は、暗緑灰色～暗青灰色10GY3/1～5BG3/1粘土である。第14-2層は暗青灰色10BG3/1～5BG3/1粘土である。本層は下層の第15～16層の土が径1cmで地震による変形構造により、若干混入する。第14-1層の上面を第14面とする。上面の高さはT.P.+0.47～0.56mを測る。

第15層 層厚は0.05～0.14mを測る。第15層は暗緑灰色～暗オリーブ灰色10GY3/1～2.5GY3/1粘土である。本層は第16層堆積後の地震によって激しく変形構造を起し、下層の第16層の土が混じる。上面は不安定で起伏が激しい。上面を第15面とする。上面の高さはT.P.+0.2～0.37mを測る。

第16層 層厚は0.02～0.15mを測る。第16層は黒色10Y2/1～2.5Y2/1粘土である。第15層と同様に変形構造を起し、大きく波打った様で、層が途切れており、第17層の土が混じる。地震は本層が堆積した後に起きたと思われる。上面を第16面とする。高さは、T.P.+0.2～0.3mを測る。

第17層 層厚は0.07～0.2mを測る。第17層は、全体的にオリーブ黒色10Y3/1～7.5Y3/1粘土である。第17層は場所によって3層に分かれる。上位から第17-1層、17-2層、17-3層とする。17-1層は暗緑灰色10GY4/1粘土と、オリーブ黒色10Y3/1粘土との互層。第17-2層は灰色5Y4/1粘土、第17-3層は緑灰色7.5GY5/1～10GY5/1粘土である。第17-3層は薄く、0.01m未満を測る。層が途切れている箇所がある。第17層の上面を第17面とする。上面の高さは、T.P.+0.1～0.26mを測る。遺構は、2-4区で135溝を検出する。

第18層 層厚は0.15mを測る。第18層は黒色2.5Y2/1～10YR1.7/1粘土である。上面を第18面とする。上面の高さはT.P.+0.04～0.1mを測る。

2. その2調査区（第6図）

2-1・2-2・2-3区はT.P.+4.8～7.8mまで攪乱により大きく壊されている。水道管理設の為に2-2区はT.P.+1.6m、2-3区は約T.P.±0.0mまで掘削されており、遺構面を検出できなかった。第18・19層までが現在の盛土層である。2-2区では第8層の一部と第9層から以下の層が残り、2-3区では第18・19層以下の層が残されていた。本調査区の土層（遺構内の埋土を除く）は、大きく25層に分けられ、出土した遺物と北東の歩道部分を調査した(財)東大阪市文化財協会の調査成果を参考にしながら、土層を検討した。

第0層 現代の盛土層である。国道170号線建設時、ガス管理設、2ヶ所での水道管理設等の工事による攪乱盛土の層である。旧耕作土層は削平されている。地表面は、2-3区がT.P.+4.868m、2-2区がT.P.+4.812mである。

第1層 第0層と同様に攪乱の影響により調査区全体では検出出来ず、2-2区で検出した。層厚約0.15～0.25mを測る。現代の攪乱盛土層を除去して最初に検出する土層である。暗緑灰色5G3/1～7.5GY4/1粘土質シルトである。層の上面は攪乱で削平されている。上面の高さはT.P.+2.6～2.7mである。この面を第1面とする。遺構としては1井路があり、本層上面から確認した。1井路は現在の地表面から存在していたと考えられ、現在もその一部が調査区の南東に残されている。

第2層 第1層を除去して検出される層である。層厚0.09～0.15mを測る。暗緑灰色10GY4/1～10G3/1粘土質シルトである。本層の上面を第2面とする。高さはT.P.+2.47mを測る。遺構は検出していない。

第3層 層厚1.6～2.7mを測る。第3層は1井路側で2層に分けられ、上層を第3-1層、下層を第3-2層とする。西側では第3-1層は確認出来なかった。第3-1層は灰色～暗緑灰色10Y4/1～

7.5GY4/1粘土質シルトである。第3-2層は灰色～暗緑灰色10Y4/1～7.5GY4/1粘土質シルト第3-1層よりも粘性強で、灰色5Y4/1帯びる層である。第3-1、3-2層の上面を3面とする。高さはT.P.+2.3～2.4mである。遺構は検出していない。

第4層 層厚0.25～0.3mを測る。層は2層に分けられ、上層を第4-1層、下層を第4-2層とする。第4-1層は灰色～暗オリーブ灰色10Y4/1～2.5GY4/1シルトで、第4-2層は粗砂、細礫が第4-1層よりも多い。第4-1層、第4-2層の上面を第4-1面、第4-2面とする。第4-1面の高さはT.P.+2.0～2.2m、第4-2面はT.P.+1.95mを測る。それぞれの面では遺構を検出していないが、遺物は土師器・須恵器片が出土しており（第19図-5、図版8-4-写16）、須恵器は瓶の底部である。

第5層 層厚は0.07～0.12mを測る。灰色～暗オリーブ灰色10Y4/1～5GY4/1シルトである。第5層の上面を第5面とする。高さはT.P.+1.77～1.94mを測る。第5面は第6層起伏の影響により高低差が見られる。遺構は検出していない。遺物は（図版8-4-写17）が出土している。須恵器底部である。

第6層 層厚は0.02～0.22mを測る。第6層は2層に分けられる。上層は第6-1層、下層を第6-2層とする。第6-1層は灰色～暗緑灰色10Y4/1～10GY4/1砂礫である。第6-2層は灰色～暗緑灰色10Y4/1～10G4/1細礫である。第6-1、6-2層は流水堆積層である。第6-1層の上面を第6面とする。高さはT.P.+1.68～1.88mを測る。遺構は検出していない。層の中からは土師器、須恵器片が出土している（第19図-4、図版8-4-写13～15・18）。第19図-4は須恵器杯の底部で、内面には白～灰色の付着物が見られる。

第7層 層厚は0.02～0.05mを測る。本層は緑灰色～暗緑灰色5G5/1～5G4/1粘土質シルトである。上面は第7面である。高さはT.P.+1.6～1.67mを測る。遺構は2・4土坑と3溝を検出した。

第8層 層厚は0.03～0.1mを測る。第8層は暗青灰色5BG3/1～10BG3/1粘土である。第7面の2土坑の下では粗砂が混入していない。第8層の上面を第8面とする。上面の高さはT.P.+1.57～1.6mを測る。遺構は5ピットと足跡を検出した。

第9層 層厚は0.16～0.34mを測る。第9層は4層に分けられ、第9-1、第9-2、第9-3、第9-4層とする。

第9-1層は2層に分けられ、第9-1-①層は暗緑灰色～暗青灰色10G4/1～5BG4/1シルト質粘土、第9-1-②層は暗青灰色5BG4/1～10BG4/1シルト質粘土である。調査区の南西部で確認した。第9-2層は暗青灰色5BG4/1～10BG4/1シルト質粘土、第9-3層は第9-2層とほぼ同色同質であるが、第9-2層より粘性強のシルト質粘土である。第9-4層は第9-2層とほぼ同質であるが灰オリーブ色～オリーブ灰色7.5Y5/3～10Y4/2を呈し、第9-2層よりも粘性強である。同層は下位にいくほど粘性が強い。第9-1-①、9-1-②層の上面を第9面とする。上面の高さは南東でT.P.+1.65m、南西端でT.P.+1.5mを測る。高低差は0.15mである。

また、2-2区境では南北方向の高さが北側でT.P.+1.65m、南側でT.P.+1.55mを測る。高低差は0.1mである。遺物は第9-1層より第19図-2、図版8-4-19-2が出土している。須恵器杯蓋である。

第10層 層厚は0.14～0.17mを測る。第10層は2層に分けられる。上層を第10-1層とし、下層を第10-2層とする。第10-1層は暗オリーブ灰色～暗緑灰色5GY4/1～10G4/1粘土、第10-2層は暗緑灰色5G4/1～10G4/1粘土である。Y=-33.386～Y=-33.388で見られる。第10-1層上面を第10面とする。高さはT.P.+1.24～1.5mである。Y=-33.388ライン上で、南側が最も低く、除々に北東へ向って高

くなる。遺構は西端で6溝を検出した。6溝は幅約2.1~2.15m、深さ0.12mを測る。埋土は暗緑灰色5G4/1~10G4/1粘土と、暗緑灰色10GY3/1細礫~極粗砂の混合層である。2-2区側の西北端では遺構面が高くなる。

第11層 層厚は0.01~0.19mを測る。暗緑灰色10G4/1シルト~微砂である。第11層の上面を第11面とする。遺構は検出されていない。上面の高さはT.P.+1.24~1.45mを測り、東側が高く、西側が低い。その高低差は0.21mである。西端の南北ではT.P.+1.31~1.17mを測り、高低差は0.14mである。

第12層 層厚は0.15~0.45mを測る。南側では、Y=-33,386附近が0.2m、西端で0.45mになる2-2区側では、北側が0.15m、南側が0.45mとなる。第12層は6層に細分され、上層より第12-1、12-2、12-3、12-4、12-5、12-6層である。第12-4層は2-2区との境で、更に3層に分けられる。第12-4-②、12-4-③、12-4-④層である。

第12-1層は黒褐色10YR3/1~2.5Y3/1粘土である。2-2区の境では暗緑灰色5G3/1~10G3/1粘土である。第12-2層は黄灰色2.5Y4/1粘土、2-2区側では緑黒色5G1.7/1~10G1.7/1粘土である。第12-3層は、暗緑灰色10GY4/1粘土、2-2区側では青黒色10BG1.7/1粘土、第12-4-①層は黒色2.5GY2/1~10Y2/1粘土である。第12-4-②層は青黒色5B1.7/1粘土、第12-4-③層は緑黒色10GY2/1粘土、12-4-④層は、黒色N1.5/0粘土である。第12-5層は緑黒色~オリーブ黒色7.5GY2/1~7.5Y3/2粘土である。2-2区側では第12-4-①と同質で、青黒色5B1.7/1径0.5~1cmの、青灰色~暗青灰色5BG5/1~4/1粘土粒、炭化物が混じる層である。第12-6層は第12-5層の下位にあって部分的に確認される層である。層厚も0.02~0.03mと薄く、暗オリーブ灰色~オリーブ灰色5GY4/1~5GY5/1粘土である。

遺構面は、第12-1層の上面が第12面である。高さはT.P.+1.03~1.3mを測る。調査区の北東部が最も高く南西部が低くなる。遺構は、畦畔、溝、ピットを検出した。遺物は甕・土製有孔円板が出土している(第19図-6・7、図版8-5・6)。

第13層 第13層の層厚は南側のY=-33,386附近で0.59mを、Y=-33,388附近で0.3mを、西端で0.37mを測る。2-2区との境では、X=-146,719附近で0.7mを、X=-146,722附近で0.32mを測る。層を全体的に見ると、北西から南東方向にかけて高くなる。高い箇所は、上層に大きく影響を与えており、第9層にまで影響が及んでいる。第13層は更に大きく6層に分けられ、各層も細分される。各層は自然堆積層ではなく、人為的に盛られた土であるので、その堆積の仕方は複雑である。本層の全体的な特徴としては、大きな石、多量の礫(大~小・極小)、極粗砂~細砂が混じるシルト質粘土で黒色2.5Y2/1を帯び、層中には炭(炭化物、焼けた木片)、土器、石器、動物遺体(獣骨)を多量に含んでいる(第20~27図、図版9~11・17~21・23)。

第13-1層は、南側で層厚0.06~0.12mを測る。黒色10Y2/1~N1.5/0シルト質粘土で、2-2区側で、層厚0.03~0.06m、緑黒色~黒色5G1.7/1~10Y2/1粘土である。土器、石器、動物遺体等含む(第20図-9~17・19~22・21図、図版17-1~7)。

第13-2層の層厚は、南側で0.06~0.1m、西側で0.06~0.14mを測る。南側では更に3層に分けられ、上層を第13-2-①層とし、下層を第13-2-②層とする。第13-2-①層は、第13-1層とほぼ同色同質である。第13-1層よりも黒色が強く、径0.5~1cm礫が混じる。第13-2-②層は、黒色5Y2/1粘土である。第13-2-③層は黒色5Y2/1~10Y2/1シルト質粘土である。2-2区側では、黒色10Y2/1~N1.5/0粘土である。遺物は第22図-1・2・4・8・9・12~14、図版9-7・8、図版10

- 1、17-8・9、18-1~3、23-4-写77である。

第13-3層の層厚は南側で0.05~0.14mを測り、第13-2-①層と同じ黒色10Y2/1~N1.5/0粘土で、2-2区側の層厚は、0.05~0.12mを測る。黒色N1.5/0~10Y2/1粘土で、遺物は第22図-3・5・6・10・11・15、第23図-1、図版10-5・18-4・5・7・9、図版23-3-写59・61・62・図版23-4-写76がある。第22図-15は磨製石鏃で、第23図-1は柱状片刃石斧である。

第13-4層の層厚は、南側で0.05~0.12m、西側で0.03~0.17mを測る。第13-3層と同色同質のシルト質粘土である。遺物第24図-1・3・10・11~13、第25図-4、図版18-6・8、図版20-7-写36、図版23-4-写69・71・72がある。写36は柱状片刃石斧である。

第13-5-①層は層厚が南側で0.05~0.12m、西側で0.05~0.12mを測る。第13-4層とほぼ同色同質であるが、細礫を多く混入、小礫(径1~2cm)混じる。第13-5-②層は第13-5-①層よりも粘質が強い(遺物は第25図-1~3、図版19-2、23-1-写51)。

第13-6層の層厚は南側で0.04~0.1mを測る。黒色2.5GY2/1~10Y2/1粘土質シルトである。第13層を6層に分け各上面を第13-1~13-6面とする。南側では第13-1面はT.P.+0.7~1.13m。第13-2面はT.P.+0.65~1.08m、第13-3面はT.P.+0.72~0.99m、第13-4面はT.P.+0.68~0.85m、第13-5面はT.P.+0.54~0.76m、第13-6面はT.P.+0.4~0.65mである。その2区との境の西側では、第13-1面はT.P.+0.63~1.16m、第13-2面はT.P.+0.58~1.1m、第13-3面はT.P.+0.66~1.0m、第13-4面はT.P.+0.67~0.88m、第13-5面はT.P.+0.44~0.76m、第13-6面はT.P.+0.4~0.6mを測る。

遺構は、第13-1面では西端で28落込み、東端で26溝を検出する。第13-2面では西端で落込み、27ピットを検出するが、落込みは第13-1面の28落込みが深く及んだものである。第13-3面~第13-6面では、土器、石器、動物遺体、木、礫、炭(炭化物、焼けた木片含む)が多量に出土している(第24図-4・5・7~9、第25図-5・6、図版20-3、23-1-写41)。

また、第13層から第14層では、土器・石器・動物遺体が多量に出土している(第26・27図、図版11-1・2・3、図版20-5・6・7、図版21-1、図版23-1-写43・68・74)。

第14層 層厚は南側で0.03~0.34m、2-3区境では0.02~0.05mを測る。本層はY=-33,388から東側にかけて厚く堆積しており、4層に分けられる。

第14-1層の層厚は、0.04~0.25mを測り、黒色5Y2/1シルト質粘土である。第14-2層は、層厚0.08~0.12mを測る。オリーブ黒色10Y3/1粘土質シルトである。第14-3層は層厚0.05~0.08mを測る。黒色7.5Y2/1粘土質シルトである。第14-4層は南側の層厚が0.03~0.16m、西側では、0.02~0.06mを測り、黒色7.5Y2/1粘土質シルトである。

各層の上面が第14-1、14-2、14-3、14-4面となる。第14-1面はT.P.+0.38~0.72m、西側でT.P.+0.34~0.46mである。第14-2面はT.P.+0.38~0.48mである。第14-4面ではY=-33,386附近と西端で下層の第15-1面の遺構と重なるように確認される。第14-1層、第14-2層は自然地形の谷(大きな落込み)の埋土の可能性がある。遺構は43・48~57ピット、121落込みを検出した。本層の遺物は第13層と同様に、土器、石器、骨、炭、石、礫等が多量に出土している(第26・27・28・29図、図版11・12-1~5、20-5~8、21-1~4、23-1-写43・44・50・68・74)。

第15層 層厚は南側で0.05~0.18m、西側で約0.1~0.2mを測る。第15層は2層に分けられ、上層を第15-1層、下層を第15-2層とする。

第15-1層は層厚0.04~0.13mを測る。暗緑灰色~緑黒色7.5GY3/1~2/1粘土である。第15-2層は南

側で層厚0.04～0.13mを測る。暗緑灰色7.5GY3/1～10GY3/1粘土である。第15-1層の上面は第15-1面とし、第15-2層の上面は第15-2面とする。第15-1面は南側でT.P.+0.3～0.4mを測る。西側でT.P.+0.42mを測る。

遺構は70・72土坑、29・58・59・68・71・73溝、30～47・62～67・69ピット、60・61落込みを検出した。遺物は各遺構から、土器、石器、骨（動物遺体）、石、礫、炭（炭化物）等、多量に出土している（第30・31・32・33・34図、図版21-5～7、22、23-1-写39・40・47～49・52～55）。第15-2面では遺構・遺物は検出していない。

第16層 Y=-333,860から東側と、西側2-2区境で確認される。層厚は南側で0.04～0.1m、西側で0.14～0.23mを測る、東側では薄く、西側では厚く堆積している。本層は暗オリーブ灰色5GY4/1～2.5GY4/1粘土である。上面は第16面である。高さは、東側でT.P.+0.07～0.23mで、Y=-33,386で第17面と同一面になる。西側ではT.P.+0.2～0.3mである。遺構、遺物は検出していない。

第17層 本層より下層にかけて徐々に水平堆積になる。層厚は0.09～0.17mを測り、暗オリーブ灰色2.5GY3/1～5GY3/1粘土である。上面は第17面である。高さは、T.P.+0.06～0.18mを測る。遺構、遺物は検出していない。

第18層 層厚は0.06～0.1mを測り、水平堆積である層は、暗オリーブ灰色5GY3/1シルト質粘土である。上面は第18面でT.P.-0.03～+0.05mを測り、ほぼT.P.0mの高さである。遺構、遺物は検出していない。

第19層 層厚は0.06～0.1mを測る。層は緑黒色7.5GY2/1～10GY2/1粘土である。上面は第19面で、高さはT.P.-0.07～0.12mである。遺構、遺物は検出していない。

第20層 層厚は0.05～0.1mを測る。層は黒色2.5GY2/1～7.5Y2/1粘土である。地震の痕跡があり、液状化が見られる。下層の第21層の土が上がっている。上面は第20面である。高さは南側でT.P.-0.13～0.18m、西側ではT.P.-0.18～0.20mを測り、西側がやや低くなる。遺構、遺物は検出していない。

第21層 層厚は0.03～0.08mを測る。層は暗オリーブ灰色～オリーブ黒色2.5GY3/1～10Y3/2粘土質シルトである。第20層の液状化の地震痕跡は、本層の時に起きたものと思われ、層が乱れている。上面は第21面でT.P.-0.2～0.27mを測る。遺構、遺物は検出していない。

第22層 層厚は0.05～0.12mを測り、場所によって2層に分けられる所がある。上層を第22-1層、下層を第22-2層とする。第22-1層は黒色10Y2/1粘土である。本層は第21層時の地震による影響で、上面は平坦ではない。

上面は第22-1層が第22-1面で、第22-2層は第22-2面である。上面の高さは第22-1面でT.P.-0.24～0.32mを測る。第22-2面はT.P.-0.3～0.34mである。各面で遺構、遺物は検出していない。

第23層 層厚は0.03～0.1mを測り、オリーブ黒色～暗オリーブ灰色10Y3/1～2.5GY4/1粘土である。上面の高さはT.P.-0.32～0.4mを測り、西側がやや低くなる。遺構は75～118ピットと74溝を検出した。遺物は出土していない。

第24層 層厚は0.06～0.15mを測る。層は黒色10Y2/1～7.5Y2/1粘土である。上面の高さは、T.P.-0.38～-0.43mを測り、第24面となる。遺構は2-3区で、119ピットと120溝を検出した。

第25層 本層は2層に分けられ、上層を第25-1層、下層を25-2層とする。第25-1層は東端とY=-33,388から西側では検出されない。第25-1層は黒色7.5Y2/1粘土である。第25-2層は黒色7.5Y2/1

粘土である。第25-1面の高さはT.P.-0.46~0.48mを測り、第25-2面はT.P.-0.48~0.52mを測る。各面では遺構、遺物の検出はない。

第2節 遺構と遺物

1. その1調査区

第1・2面 攪乱が深く大きく及んでおり、遺構は検出出来なかった。

第3面 (第7図) 2層を除去して122井路の北側肩部を検出する(図版1-7)。122井路は(財)東大阪市文化財協会の調査によるとT.P.+2.1~2.16mから検出される。なお、南の肩部は第5-3層、上面で検出した122井路は東西方向に主軸を置き、現状の肩部の幅は6.2~7.2mを、深さは約1.3mを測る。土層観察により、少なくとも3~4回の掘直しが行なわれている(第5図、図版1-4~6、2-4)。第11面で検出した130溝は井路築造期の底部か、もしくは以前の溝と推測される(図版3-1・4)。

第4面 第4層の上面である。遺構は検出していない。

第5面 (第7図) T.P.+1.85~1.9mを測る。第4-2層を除去すると検出される面である。土層観察で、122井路よりも以前の井路もしくは流路の肩部を確認した。132井路は第5面よりも上層から存在していた可能性があり、幅6.5m以上、深さ8.5m以上を測る。井路は3回掘り直されている。

第6面 第5層を除去して見られ、第6層の上面である。基盤層は粘性強のシルト(粘土質)に礫、極粗砂、粗砂、中砂が多く混じる層である。遺構は検出していない。

第7面 (第8図) T.P.+1.64~1.78mを測る。第6-1層を除去すると、第6-2層が残り、この土を除去すると、122井路の北側で、123・124溝と人・動物の足跡を検出した(図版1-8)。

123・124溝はほぼ東西方向に主軸を置く。123溝は幅が0.23~0.56m、深さ0.06~0.09mを測る。124溝は幅約0.4~0.5m、深さ約0.1~0.15mを測る。土層観察により、これらの溝の北側にも同様な窪みが3ヶ所あり、極粗砂、粗砂を含む。第6-2層が堆積する。3条の窪みと先の2条の溝は畝溝と推測される。123溝の南側では動物と思われる足跡を検出した。遺物は須恵器・土師器片が出土している(図版8-1-写2・3)。

第8面 第8面はある時期に、面として形成された可能性が高い。第7-1層、第7-2層を除去して検出されるが遺構は確認していない。

第9面 (第8図) 第8層を除去して検出され、9層の上面である。T.P.+1.45~1.6mを測る。遺構は133流路と、125・126溝を検出した(図版2-1)。

133流路は現代の攪乱の影響で大半が壊されており、面的な調査は出来なかったが、土層観察により幅8.5m以上、深さ約0.6mを測る(図版1-1)。主軸は東西方向に置く。埋土は中礫~粗砂、粘土質シルト、細礫~細砂(中礫混)、細礫、極粗砂~粗砂、極粗砂、粗砂~中砂、細砂、粗砂~細砂、細砂微砂~シルト(ラミナ)の流水堆積である。下層の134流路と一つであった可能性は否定できないが、133流路以前のものとしておく。遺物は土師器片が出土している(図版8-1-写1・9)。

125・126溝は、1-3区に位置する。125溝は主軸をほぼ東西方向に置き、幅0.8~0.9m、深さは0.05~0.09mを測り、東から西へ流れている。埋土はオリブ灰色2.5GY3/1極粗砂~細礫である。126溝は125溝に近接して位置する。主軸は南北方向に置き、幅0.4m、深さ0.06mを測る。埋土は125溝とほぼ同じである。これら遺構の埋土は133流路からオーバーフローしたものと考えられる。遺物は出土してい

ない。

第10面（第9図） 第10層の上面である。T.P.+1.1～1.32mを測る。122井路の南側で127溝と足跡を検出した（図版2-2）。127溝は幅0.5～0.66m、深さ0.04～0.06mを測る。主軸を北東-南西方向に置く。溝の北側で動物の足跡を確認した。127溝の埋土は暗緑灰色～暗オリーブ灰色7.5GY3/1～5GY3/1粘土質シルト（炭化物、粗砂混）である。

第11面（第9図） 第11層の上面である。T.P.+1.0～1.1mを測る。遺構は128土坑、129～131溝、134流路を検出した（図版3-1）。

128土坑は129溝から約6m離れて位置する。長さ1.34m以上、幅0.3m以上、深さ0.13m以上を測る（第11図、図版3-5）。埋土は黄灰色～黒褐色2.5Y4/1～3/1粘土である。遺物は出土していない。

129溝は幅0.5～0.76m、深さ0.08～0.13mを測る（第11図、図版3-2）。溝内からは木製品が2点出土する。1点は角材である。長さ約30cm、幅3cmを測る。もう1点は細い枝で表面の樹皮が削られたものである。埋土は黄灰色～黒褐色2.5Y4/1～2.5Y3/1粘土である。

130溝は129溝の南側へ約2m離れて位置する。幅1.1～1.6m、深さ0.11～0.14mを測る（第11図、図版3-4）。主軸は東西方向に置く。遺物は出土していない。埋土は緑灰色5G5/1～10G5/1粘土である。

131溝は130溝の南側に約2m離れて位置する。主軸はほぼ東西方向に置く。幅1.16～1.26mを測る。本溝は、段状に掘られ、北側が0.01～0.05mと浅く、南側で0.1～0.13mと深くなる。埋土は灰色～灰オリーブ色7.5Y6/1～6/2極粗砂～粗砂である（第11図）。遺物は出土していない。他の遺構としては、129溝の北側で人の足跡を検出した。またこの面では、木製品が2点出土している（図版8-2-写10）。

134流路は、第9面（第9層）での133流路と一連の遺構とも考えられるが、下層の遺構として記述しておく。幅約4.7m、深さ約0.7mを測る。主軸を東西方向に置く。埋土は大きく6層に分けられて、上層より灰色10Y5/1粗砂～極粗砂、灰色10Y4/1シルト（微砂混、灰色粘土質シルトと粘土の互層、オリーブ黒色10Y3/1シルト（腐植物混）、灰色5Y4/1粘土質シルト、オリーブ黒色7.5Y3/1～10Y3/1粘土（粗砂、極粗砂、細礫混）、暗オリーブ灰色～灰色2.5GY3/1～10Y4/1粘土、暗オリーブ灰色5GY3/1～2.5GY3/1粘土（暗緑灰色7.5GY4/1粘土径3cm混）・暗緑灰色7.5GY3/1～10GY3/1粘土（径1～10cm、第16層の粘土混）、暗緑灰色10GY4/1～10G4/1粘土・暗青灰～暗緑灰色5BG4/1～10GY4/1粘土、暗オリーブ灰色2.5GY4/1粘土（粗砂混、腐植物混）である。流路の底部には、細礫～粗砂や第16層の土がブロック状に混入するので、埋め戻しをされていると推測される。

第12面 第12層の上面である。土層観察によりX=-146,105付近で暗オリーブ灰色～灰色2.5GY4/1～10Y4/1極粗砂～粗砂が入る落込みを確認している。

第13・14面 第13層、第14層の上面である。遺構・遺物は検出していない。

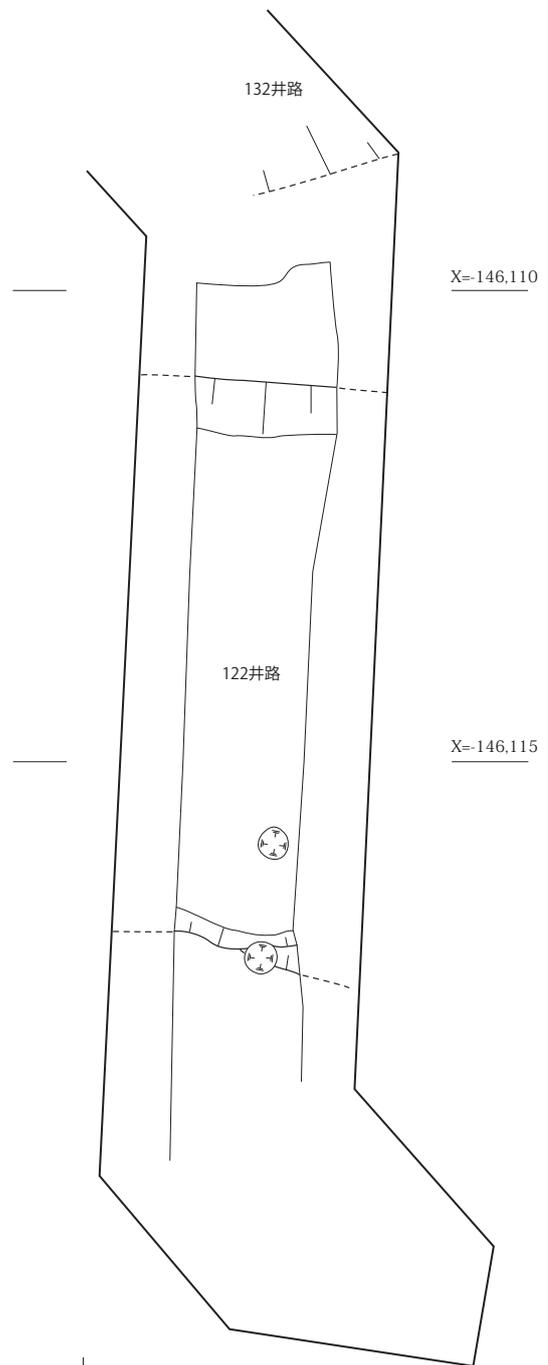
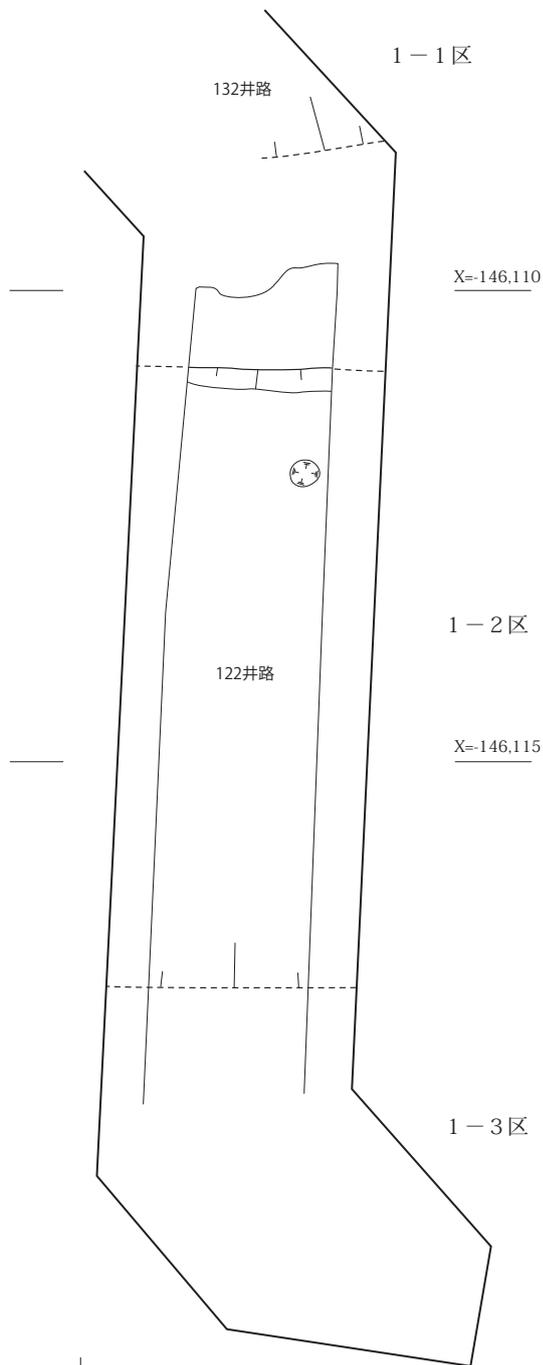
第15面 第15層の上面である。T.P.+0.2～0.37mを測る。地震による変形構造が著しく。下層の土が見えている箇所がある。X=-146,118から南側では、第15面と第16面が同一面となる。

第16面 第16層の上面である。変形構造が非常に著しく、面の起伏が激しい。第16層は途切れている箇所があり、17層の土が見えている。遺構・遺物は検出されていない。

第17面（第10図） 第17層の上面である。T.P.+0.14～0.26mを測る。1-4区で溝と思われる135溝を検出した。長さ2.8m、深さ0.05～0.09mを測る。埋土は緑灰色～暗緑灰色7.5GY5/1～4/1粘土である（第11図）。

Y=33,315

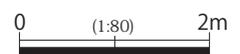
Y=33,315



※1-1～1-3区の区名は
第8図以降の平面図も同じ

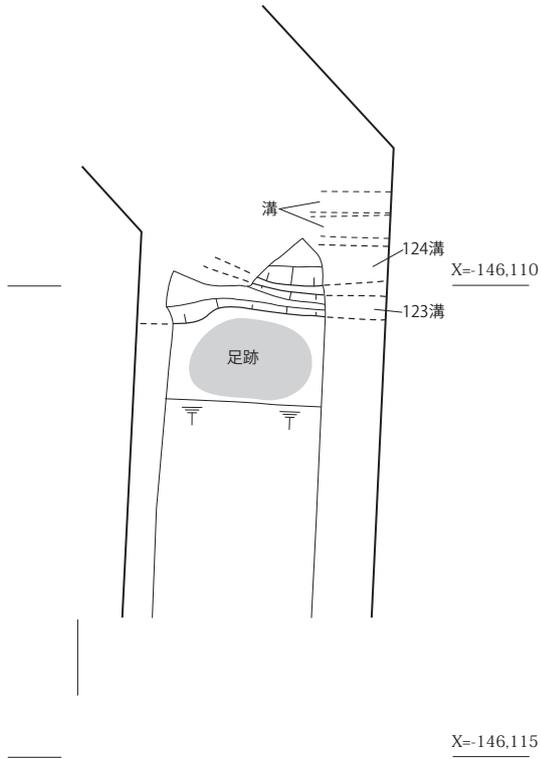
第3面平面図

第5面平面図



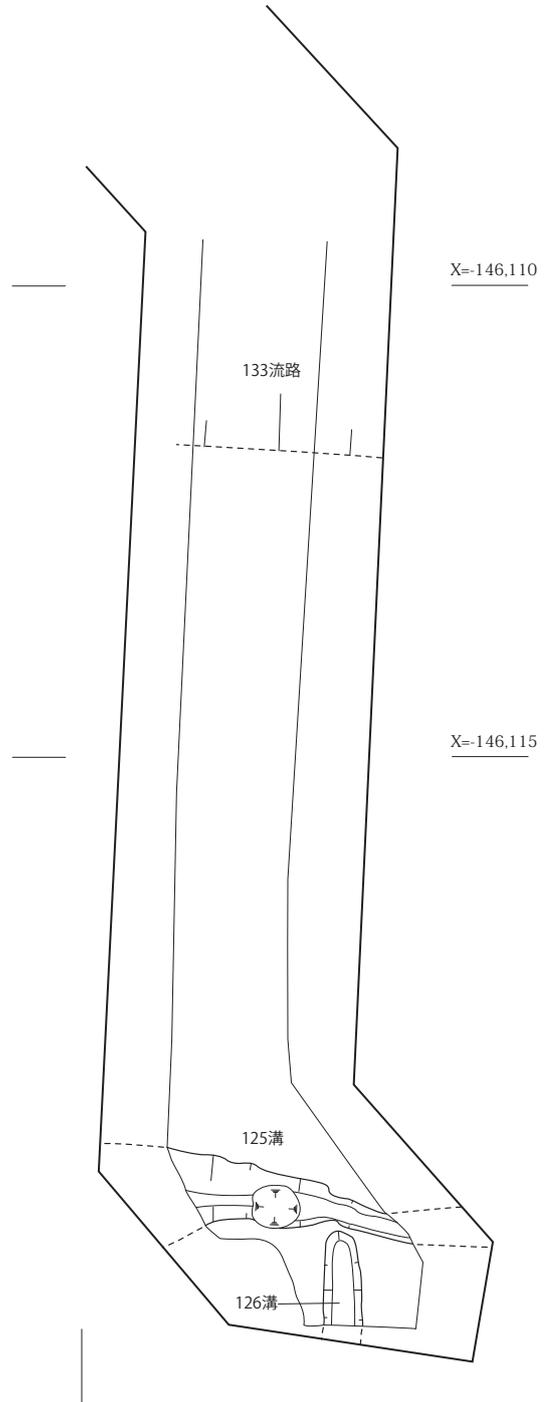
第7図 その1調査区 第3・5面平面図

Y=33,315

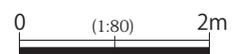


第7面平面図

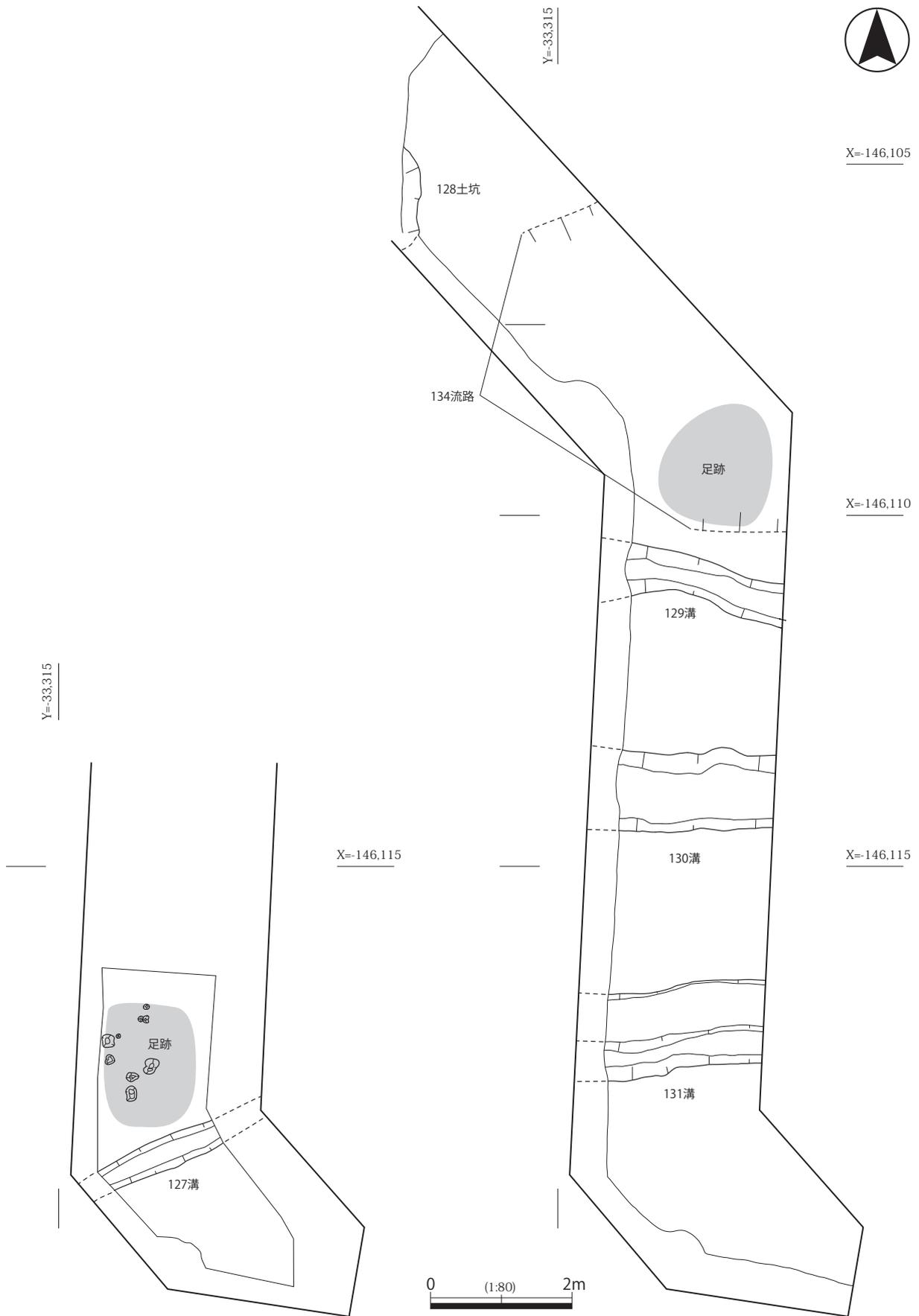
Y=33,315



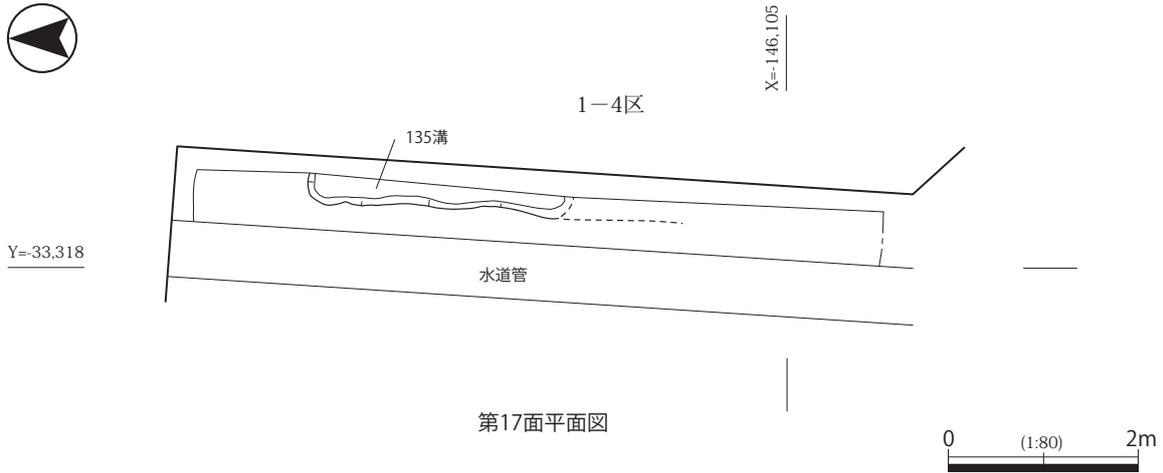
第9面平面図



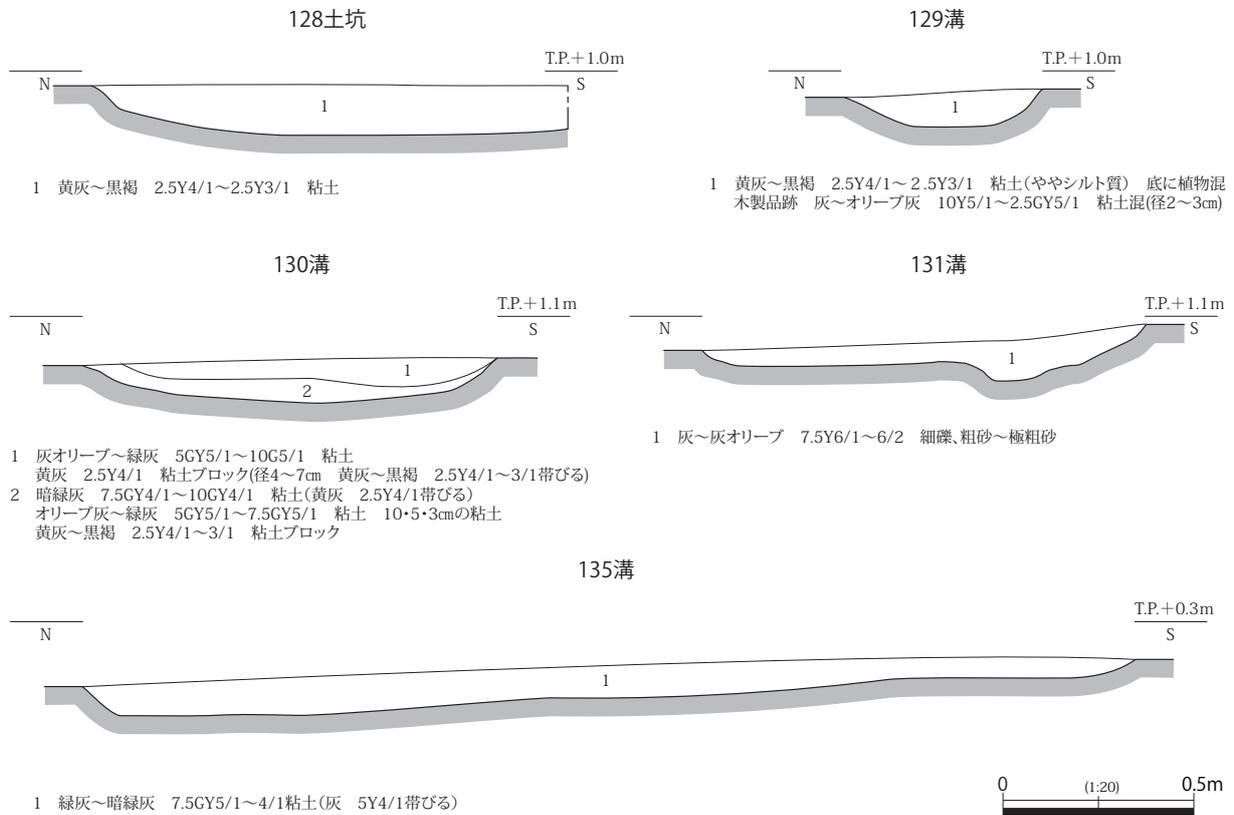
第8図 その1調査区 第7・9面平面図



第9図 その1調査区 第10・11面平面図



第10図 その1調査区 第17面平面図



第11図 128土坑、129・130・131・135溝遺構断面図

第18面 第18層の上面である。遺構・遺物は検出していない。

2. その2調査区

第1面 2-1区で攪乱土、現代盛土を除去して、1井路を検出した(第12図、図版4-1)。1井路の幅は6m以上、深さは、1.45mである。現在の地表面からすると深さは約3.5mある。1井路は土層観察によると少なくとも5回は掘り直されている。なお、第7面時で検出した1井路直下の流路の肩部は、その1調査区の第11面130溝と同様に1井路以前の溝の肩部と考えられたが、深さ等を考慮すると

築造当初の井路と推測される。埋土の下層からは中世、古代、古墳時代、弥生時代の土器が出土している（第19図-1、図版8-3-写11・12）。写11は須恵器壺、写12は円筒埴輪である。

第2面 第1層を除去して検出した。遺構は見られない。遺物は円筒埴輪（第19図-3、図版8-3-19-3）が出土している。

第3面 第2層を除去して見られる面である。井路の護岸の杭を確認する。井路以外は検出していない。下層の第3-2面も同様である。

第4面 第3-2層を除去して検出される。井路以外は検出していない。

第5面 第4-2層を除去して検出される。井路以外は検出していない。

第6面 第5層を除去して検出される。井路以外は検出していない。

第7面（第12図、図版4-5・6） 第6層を除去して検出される。T.P.+1.64~1.78mを測る。第7面は、3溝と4土坑の東側で下層の第8面と同一の面となる。遺構は2・4土坑、3溝を検出した。

2土坑は西端に位置し、長さ0.9m以上、深さ0.065~0.068mを測る。埋土は暗緑灰色5G4/1粘土質シルト（極粗砂混）、暗緑灰色10G4/1粘土質シルト（細礫、極粗砂混）である。遺物は須恵器・土師器・弥生土器片が出土している。4土坑は2土坑の北東約2.6m離れて位置する。長さ1.8m、幅1.04m以上、深さ0.1mを測る。埋土は暗緑灰色5G4/1~10G4/1粘土質シルト（極粗砂、粘土質シルト、オリブ灰色2.5GY5/1~5GY5/1細砂）である。3溝は2土坑と4土坑のほぼ中間に位置し、主軸を西北西~東南東方向に置く。幅0.17~0.2m、深さ0.08~0.15mを測る。埋土はオリブ灰色5GY5/1極粗砂、細礫とオリブ灰色5GY5/1、粗砂、細砂の混合、オリブ灰色2.5GY5/1~5GY5/1粘土質シルトである。

第8面（第13図、図版4-6） 第7層を除去して検出される面である。T.P.+1.51~1.75mを測る。Y=-33,387東側で第7面と同一の面となる。第8層がY=-33,388から東へ徐々に高くなり、第7層がなくなる。遺構は5ピットと足跡を検出した。5ピットは調査区のほぼ中央、北端に位置し、径0.3m、深さ0.046mを測る。埋土はオリブ灰色2.5GY5/1~5GY5/1粘土質シルト（粗砂、細砂混）である。足跡は5ピット附近と南端で見られ、人間のものである。オリブ灰色2.5GY5/1~5GY5/1微砂~シルトである。遺物は弥生土器甕の口縁部片が出土している。

第9面 第8層を除去して検出される面であるが、遺構は検出していない。

第10面（第13図、図版4-7） 第9-2層、第9-3層、第9-4層を除去して検出される面である。T.P.+1.24~1.5mを測る。本遺構面はY=-33,388から東と、2-2区境の北西端にかけて高くなり、2-2区境の南西端から南側にかけて低くなる。その高低差は約0.2mを測る。遺構は6溝を検出した。Y=-33,388に位置する。幅は2.1~2.2mを測る。深さは0.13mを測る。埋土は暗緑灰色5G4/1~10G4/1粘土（ややシルト）と暗緑灰色10Y3/1細礫~極粗砂の混合（粘性強）である。遺物は弥生土器細片が出土している。

第11面 第10-1、第10-2層を除去して検出される面で、暗緑灰色10G4/1シルト~微砂を基層とする面である。第2層は南側では層厚0.04~0.08mを測る。2-2区との境では層厚0.01mを測り、非常に薄くなり、下層の第12面の遺構の上面が確認される。第11面での遺構は検出していない。

第12面（第13図、図版4-8） 第11層を除去して検出される面で、上層の遺構面と同様に調査区の南側がY=-33,388から2-2区境まで低くなる。その高低差は約0.2mを測る。

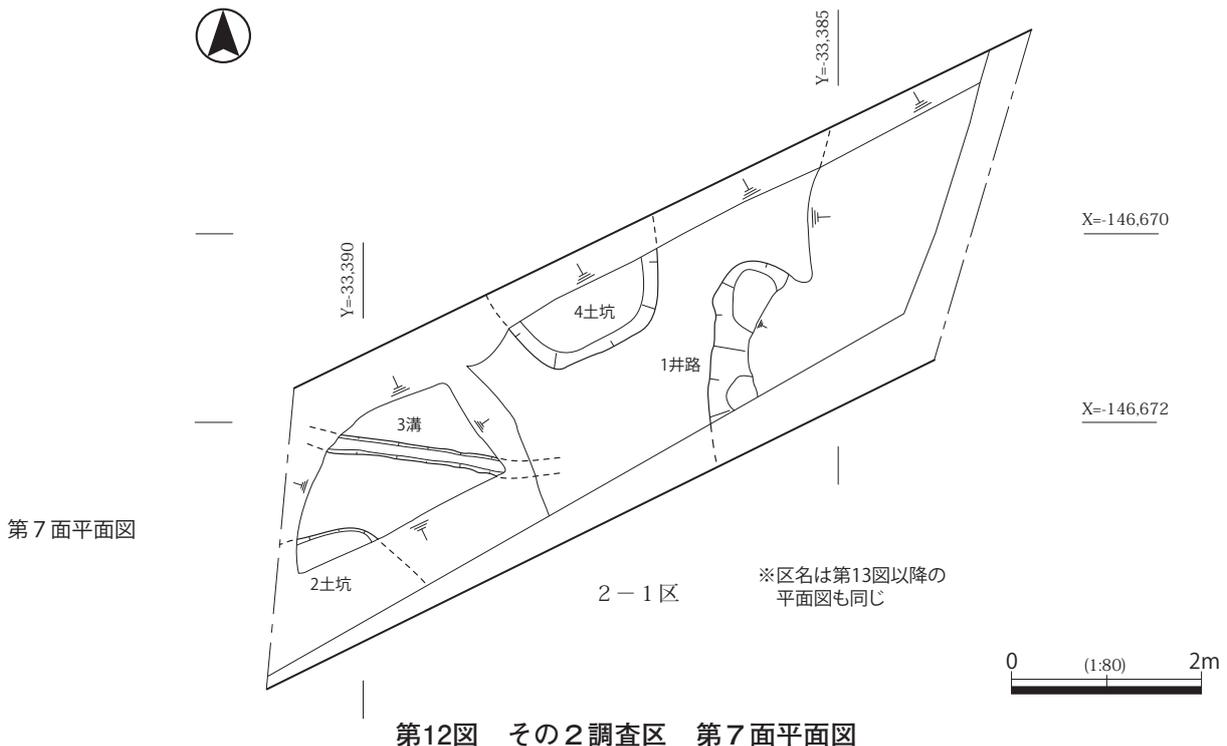
遺構は畦畔、ピット、溝がある。畦畔は7~11畦畔で、特に8畦畔は基底の幅が0.36m、上面の幅約

0.15m、高さ約0.2mを測り、暗緑灰色10GY4/1～5G4/1シルト質粘土（やや黒色帯びる。下層の土混）が盛られている。8畦畔は主軸を北北東－南南西に置く。7畦畔は8畦畔と同一方向に主軸を置くと考えられる。9畦畔は8畦畔よりも幅が広く、主軸は8畦畔に対して、ほぼ直角である。10畦畔は9畦畔より西へ約1.2m離れて位置する。畦畔の基底幅は約0.3m、高さ0.03～0.06mを測る。主軸は北西－南東方向に置き11畦畔にほぼ直角に接している。11畦畔の幅は約0.2m、高さ0.02～0.03mを測る。

溝は7～9畦畔と10畦畔に隣接して位置する。前者は20～24溝で、後者は25溝である。20溝は8畦畔の東側に沿って位置し、幅0.2～0.3m、深さ0.02mを測る。溝の埋土は暗緑灰色7.5GY4/1～3/1シルト～粘質微砂である。25溝は10畦畔の西側に近接して位置する。幅約0.1m、深さ約0.01～0.02mを測る。埋土は20溝と同様である。なお22溝と23溝の間、21溝と24溝の間が畦畔かどうかは現状では不明であるが、畦畔である可能性が高い。

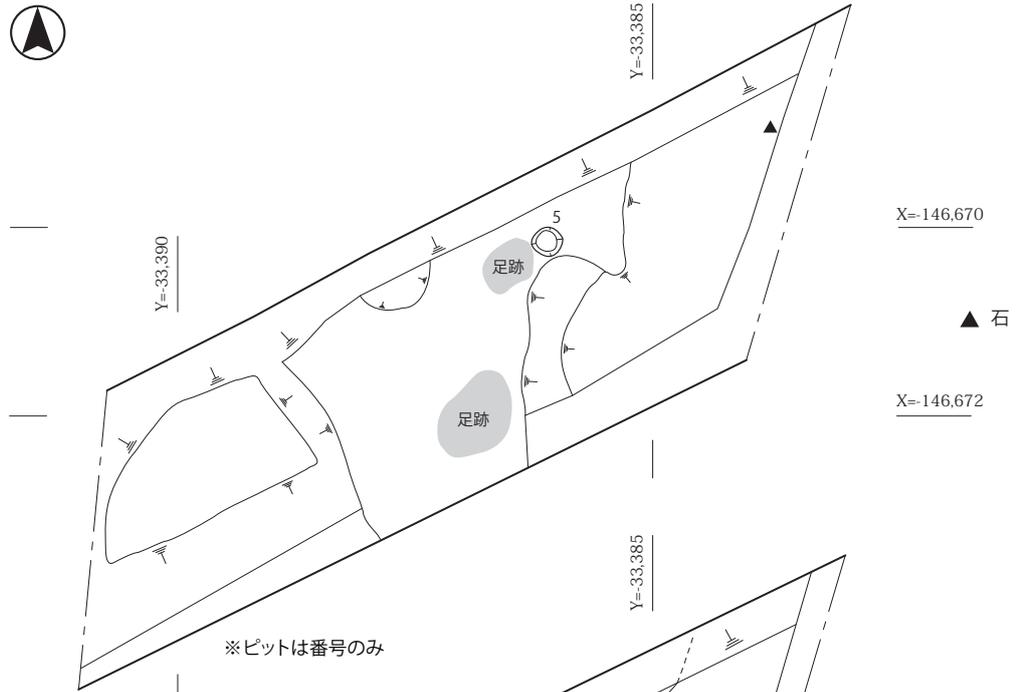
12ピットは24溝と25溝の間に位置し、平面形は円形である（第16図）。径0.19m、深さ0.03～0.05mを測る。ピットは柱の痕跡が認められ、径0.1mを測る。埋土は暗緑灰色7.5GY3/1～4/1シルト～粘質微砂（緑黒色7.5GY2/1粘シルト混）である。13～19ピットは7畦畔、9畦畔に隣接している。径約0.1m、深さ0.03～0.04mを測る。埋土は暗緑灰色7.5GY4/1シルトである。14～19ピットは直線上に並び、隣接するピットの距離（ピット中心間）は約2.5mと同じである。ピットは杭の痕跡と考えられる。以上の遺構は水田に伴うものと思われる。出土遺物に古墳時代前期の古式土師器甕（第19図－7、図版8－5）と土製有孔円板（第19図－6、図版8－6）がある。

第13面（第14図） 第13面は第13層の上面であり、第12－1層～第12－5層を除去して検出される。第13層は0.6～0.7mと厚く堆積しており第13－1層～第13－6層に分けられる。各層の上面を第13－1面～第13－6面とする。第13層で遺構を検出した面は、第13－1面、第13－2面である。各層・各面からは多量の遺物が出土する（第20～26図、図版9～11・17・18、19－1・2・4～6、20－1～7、21－1・4、23）。第13－1面では東端で26溝を、西端で大きな28落込みを検出した（第14図）。

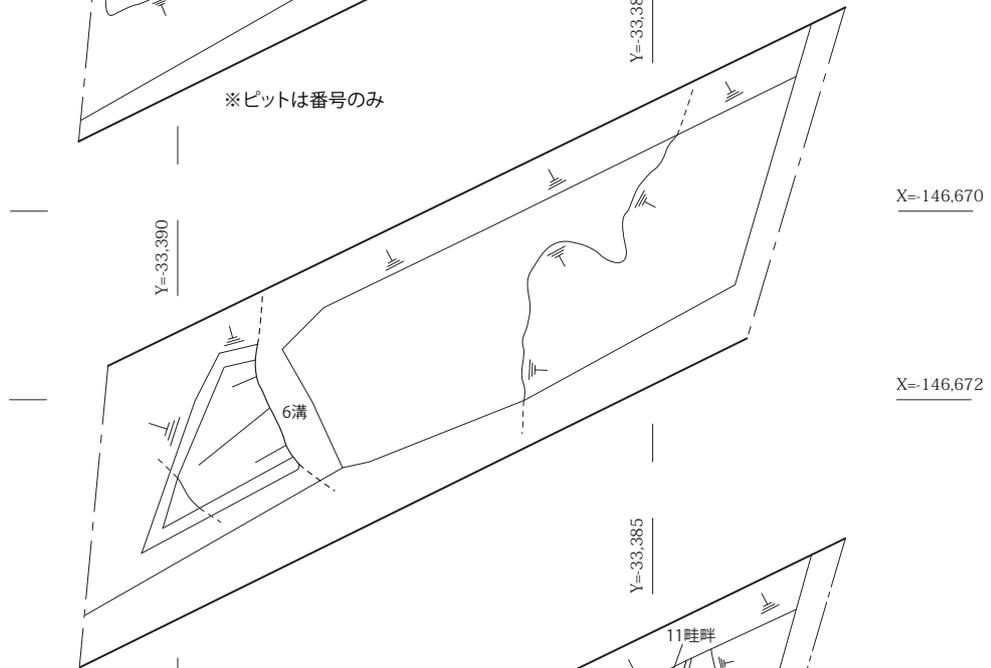




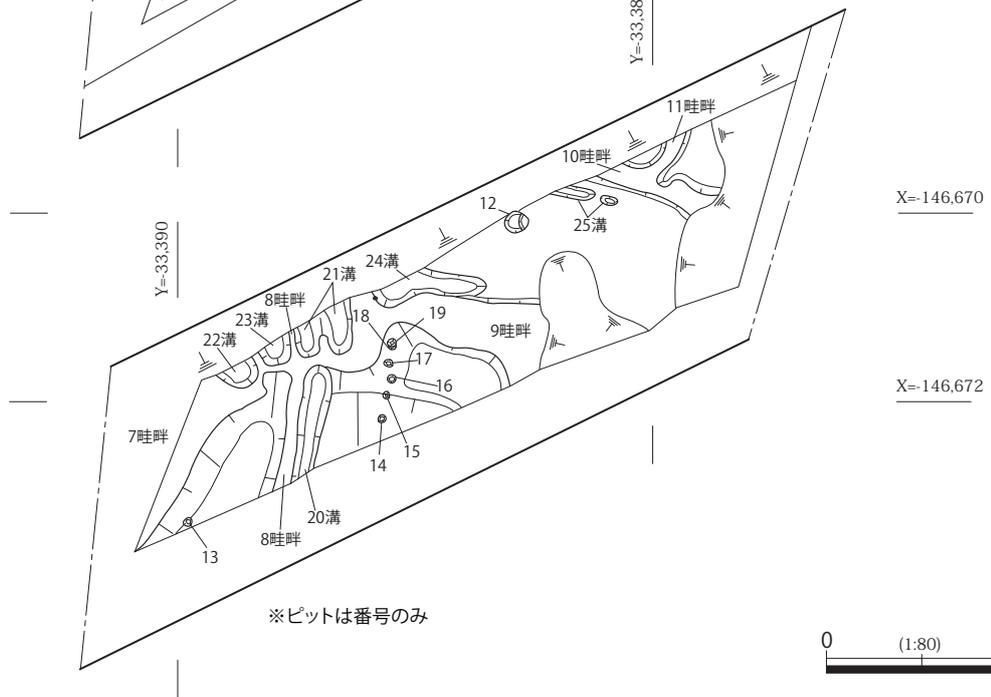
第8面平面図



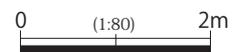
第10面平面図



第12面平面図

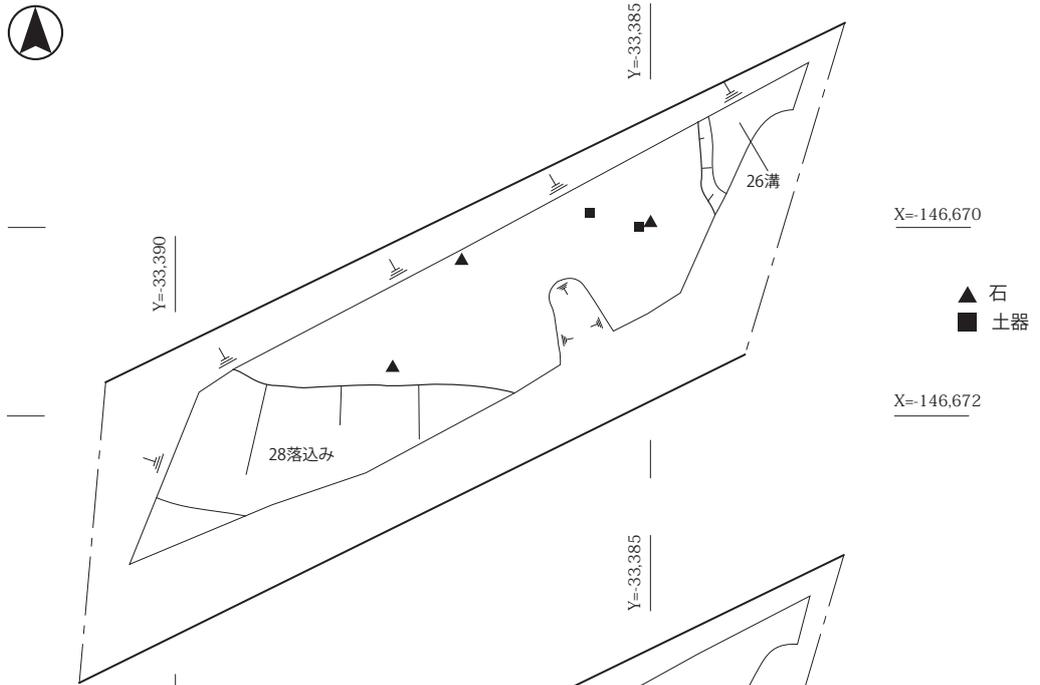


第13図 その2調査区 第8・10・12面平面図

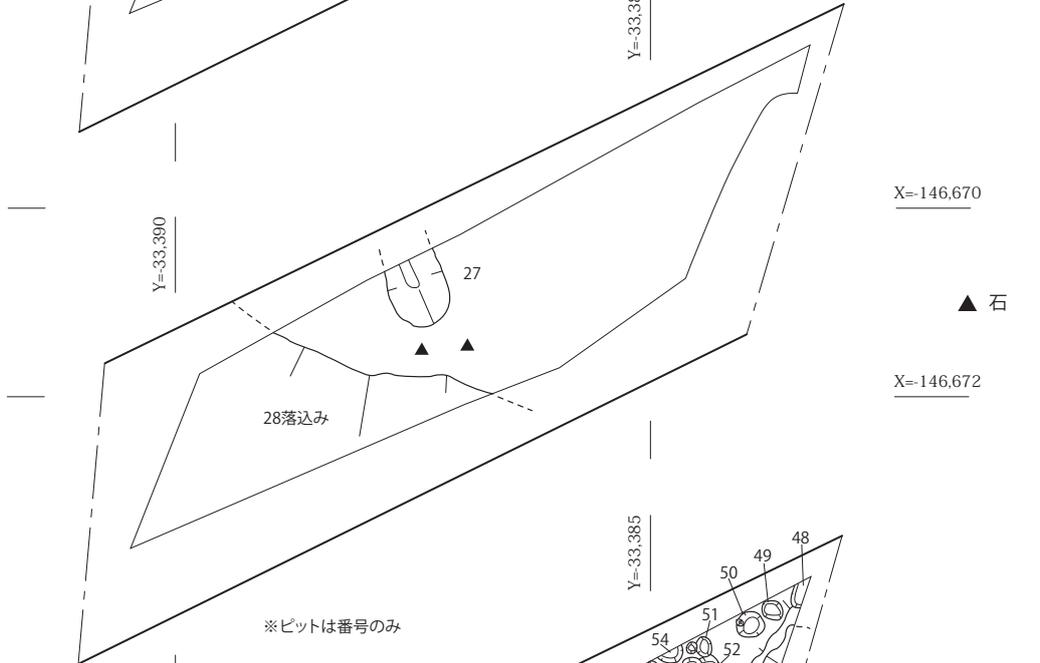




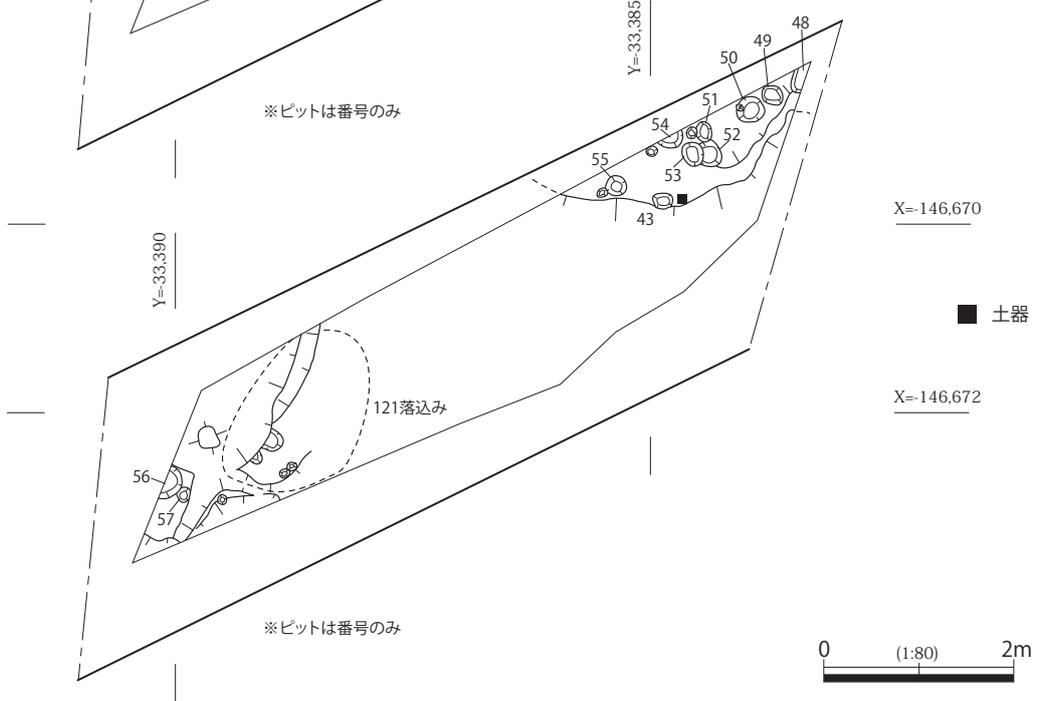
第13-1面平面図



第13-2面平面図



第14面平面図

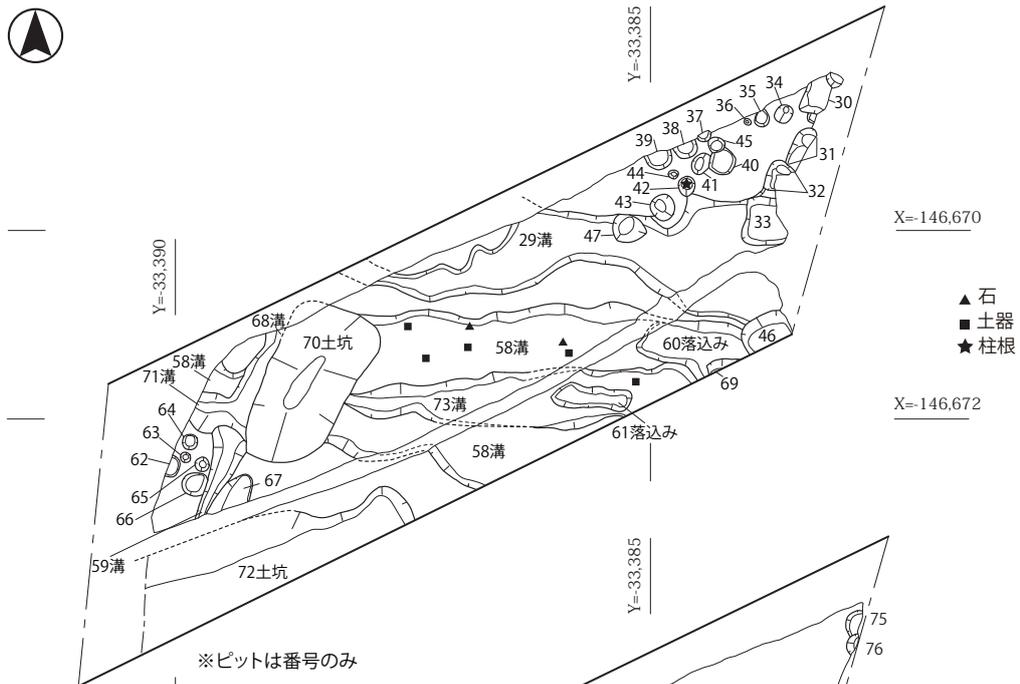


第14図 その2調査区 第13-1・13-2・14面平面図

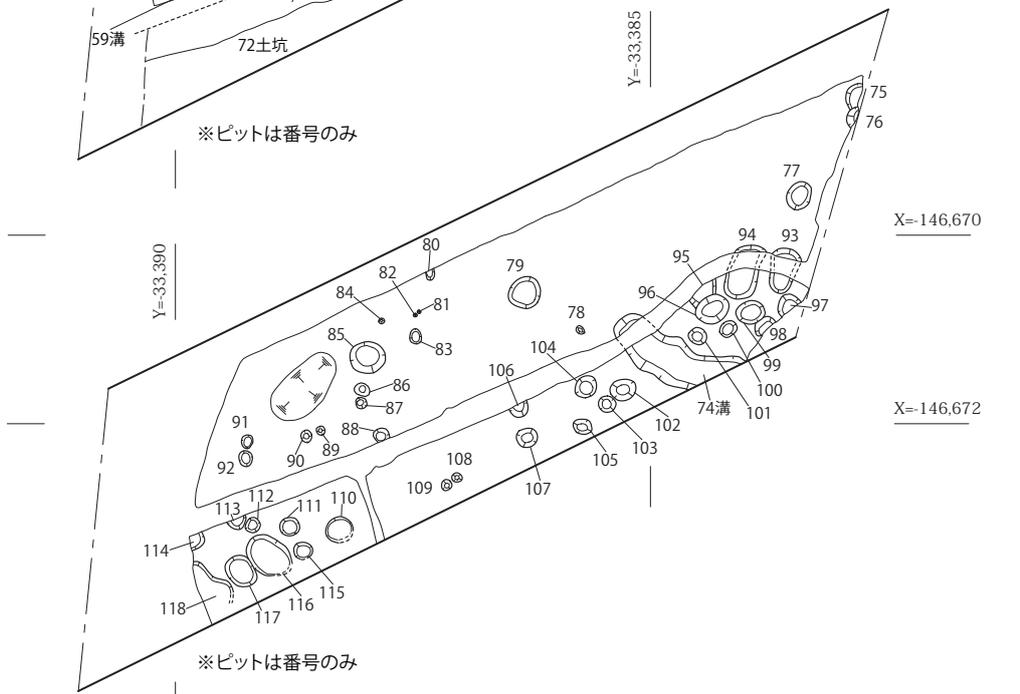




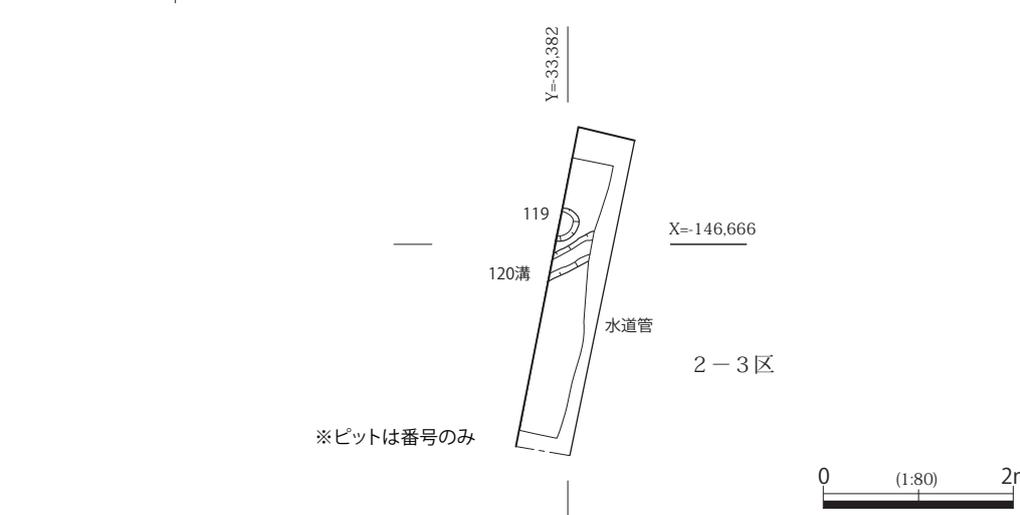
第15面平面図



第23面平面図



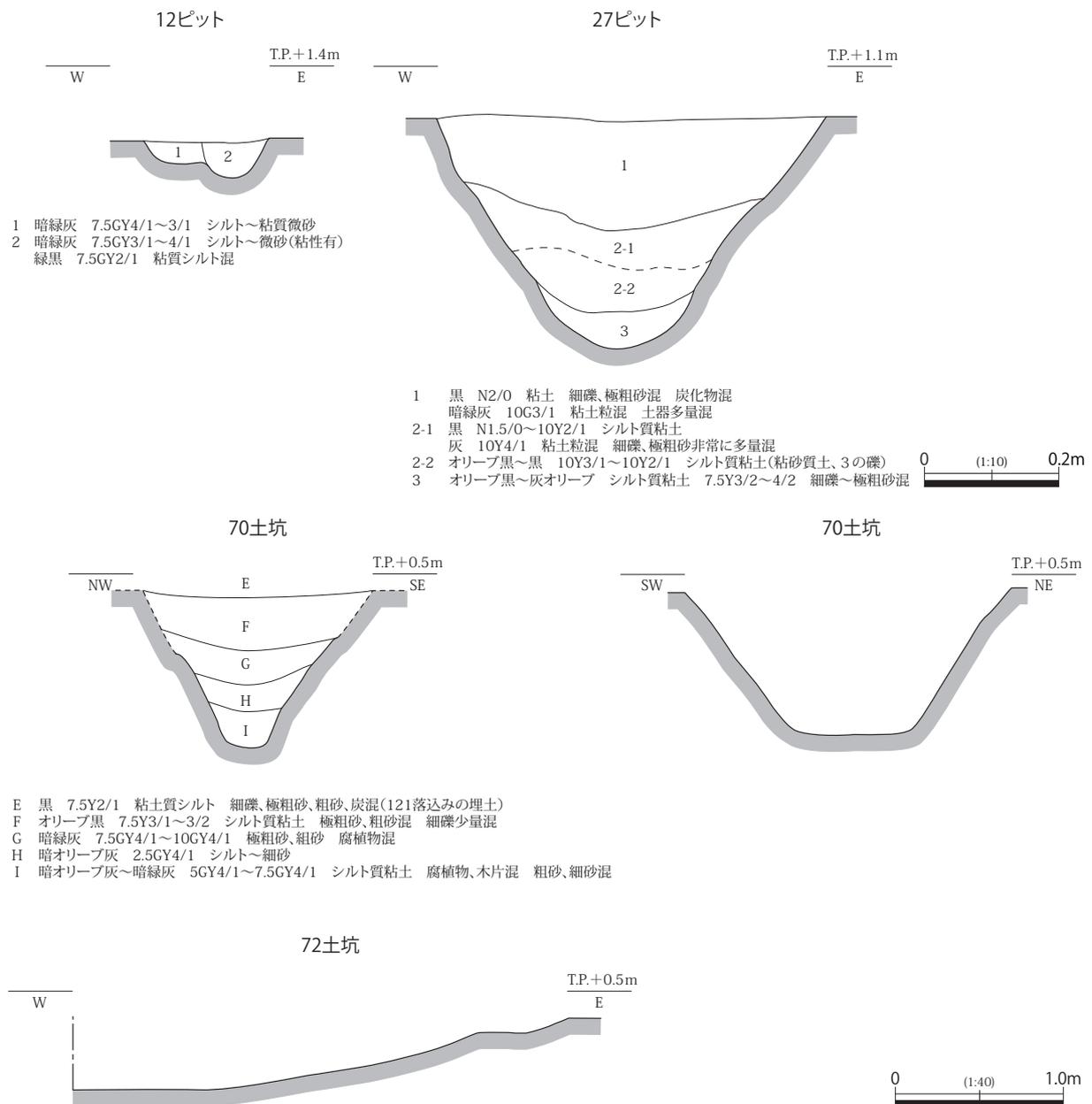
第24面平面図



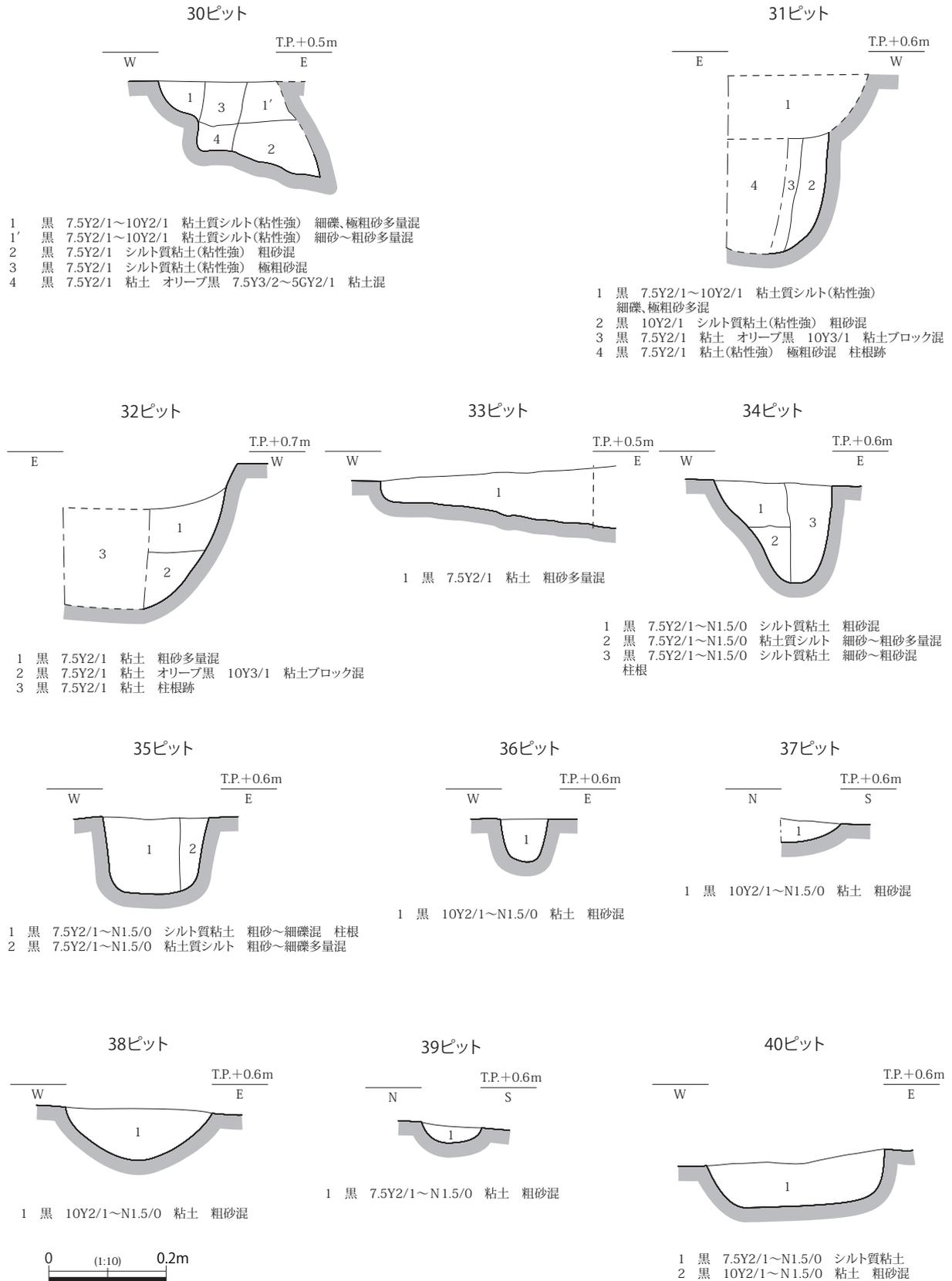
第15図 その2調査区 第15・23・24面平面図

26溝は幅1.2m以上、深さ0.23mを測り、主軸を南北方向に置く、埋土は暗オリーブ灰色2.5GY4/1～5GY4/1粘土（ややシルト質）である。遺物は弥生土器の破片が出土している。西端の28落込みの肩部は主軸をほぼ東西方向に置く。高低差は0.29mを測る。埋土は暗オリーブ灰色5GY4/1～5/1粘土である。遺物は弥生土器、石器（第21図-1、図版17-7）、動物遺体（焼成痕一部あり）を検出した。

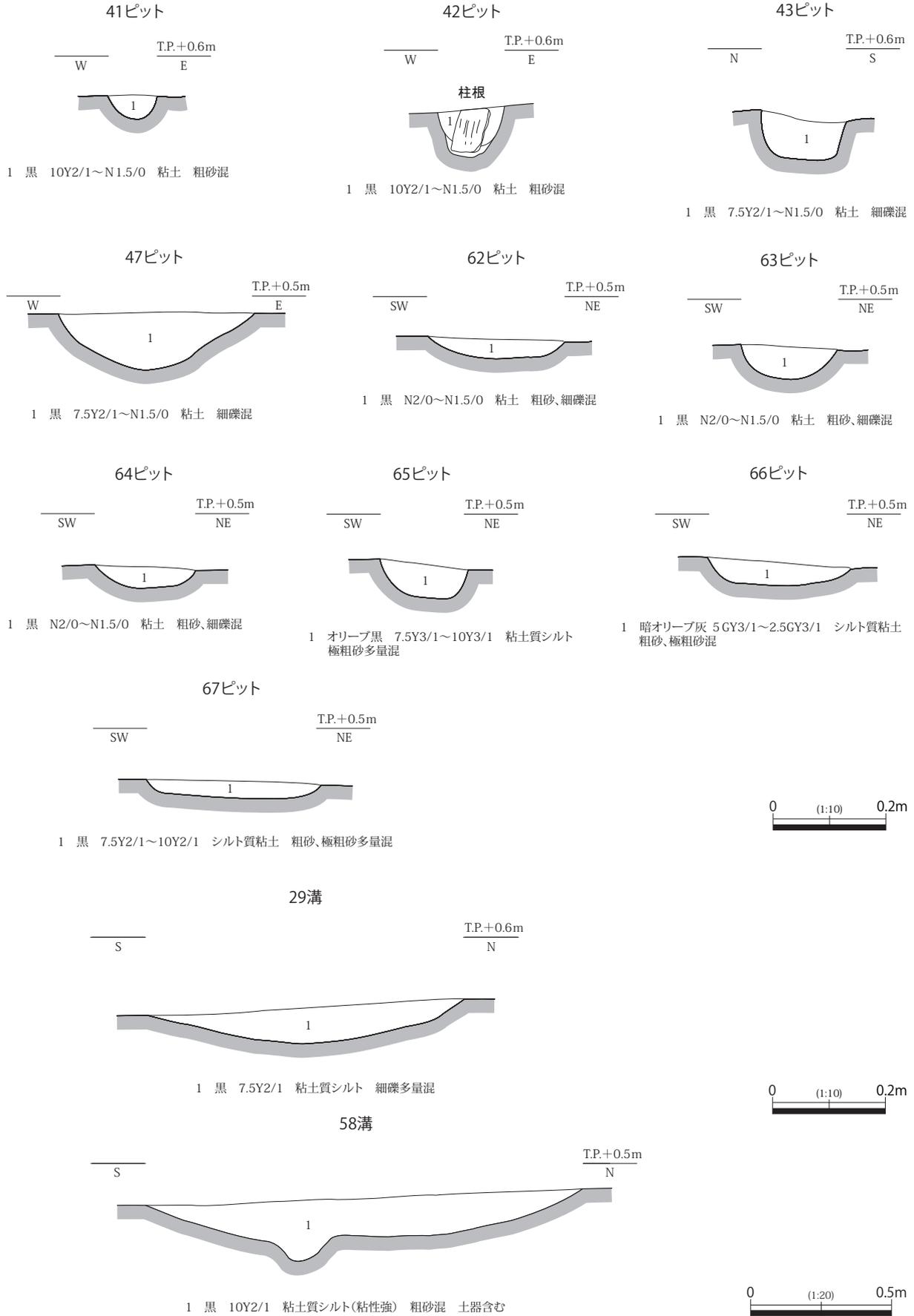
第13-2面は南側でT.P.+0.6～1.0m、2-2区境でT.P.+0.6～1.1mを測る。第13-1面の大きな28落込みは同じ位置にほぼそのまま残り、落込みの肩部は北西～南東方向に主軸を置く。他の遺構としては27ピット（土坑）がある（第16図、図版6-5）。28落込みの北東側に位置する。上面の平面形は楕円形を呈し、埋土は上層から黒色N2/0粘土、黒色N1.5/0～10Y2/1シルト質粘土、オリーブ黒色7.5Y3/2～4/2シルト質粘土（細礫～極粗砂混）である。ピットの近くで高杯脚部（第22図-6、図版10-1）が出土している。時期はⅢ～Ⅳ様式である。本遺構周辺では遺物が多く出土している。なお27ピットの南側には2個の石が存在するが、第13-2層からのものと考えられる。大きさは15～20cmで表面に光沢がある。



第16図 12・27ピット、70・72土坑断面図



第17図 30~40ピット断面図



第18図 41～43・47・62～67ピット、29・58溝断面図

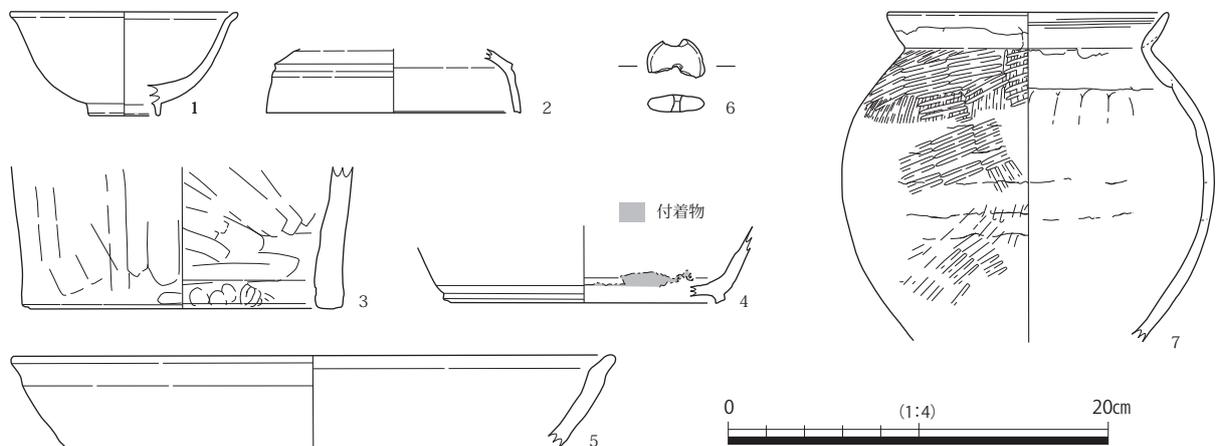
第13-3面はT.P.+0.72~0.9mを測り、西半部では第13-2面と同一面になる。2-2区境ではT.P.+0.66~1.0mを測る。遺構は検出していない。遺物としては土器・石器・動物遺体が多く出土している。27ピット付近で柱状片刃石斧（第23図-1、図版18-4）が出土している。頁岩製で完形である。動物遺体は図版23-3-写59・写61がある。写59はイノシシの下顎骨で、写61は歯である。これらが出土した付近では焼けたものもある。調査区の東端より多孔土器が出土する（第22図-7、図版10-3）。本遺物の周辺では炭化物を多く確認し、焼けた木片、動物遺体の破片、土器、石器が多く検出される。

第13-4面は南側でT.P.+0.64~0.8mを測り、南半部で第13-5面と同一面となる。遺構は検出していない。遺物は弥生土器（第24図）、石器（第24図-10・11・13、図版18-6・8）、動物遺体（図版23-4-写69・写71・写72）が出土している。また土製品も出土している（第24図-1・2・3、図版10-4・5・6・7）。

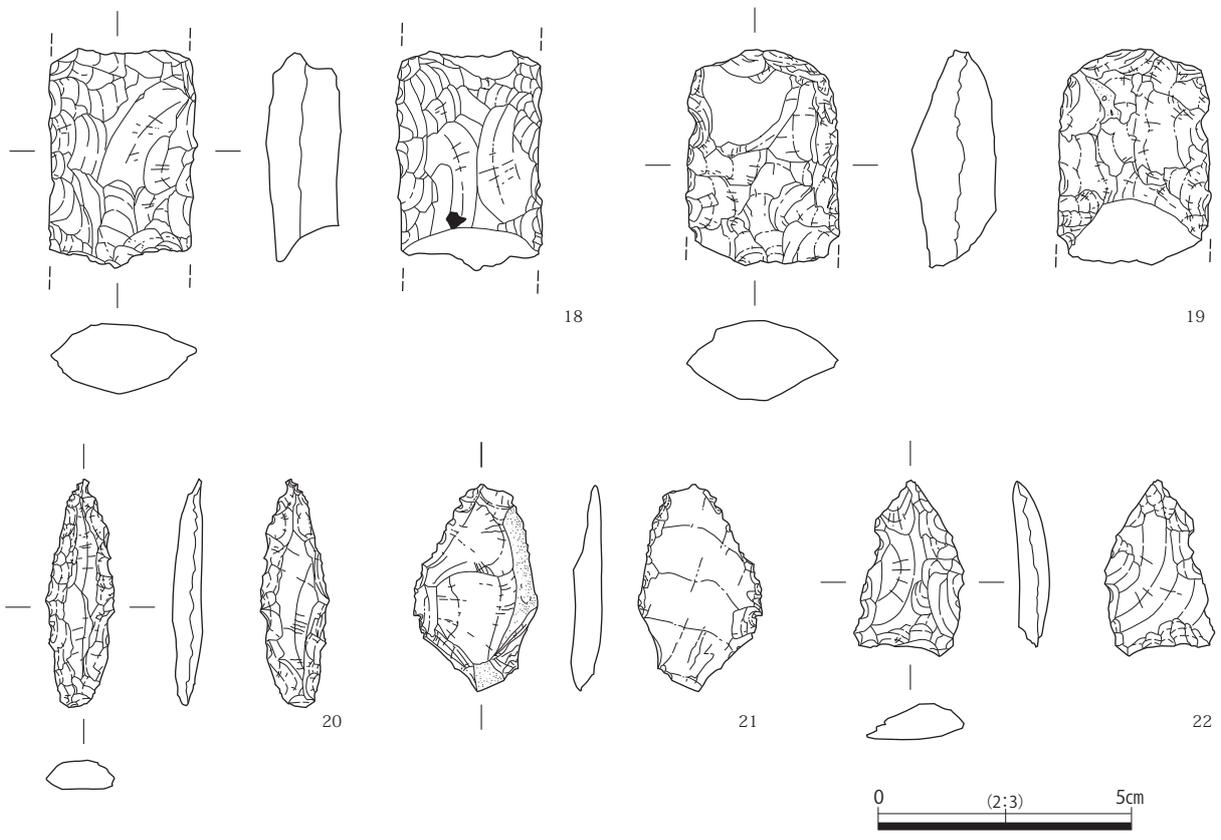
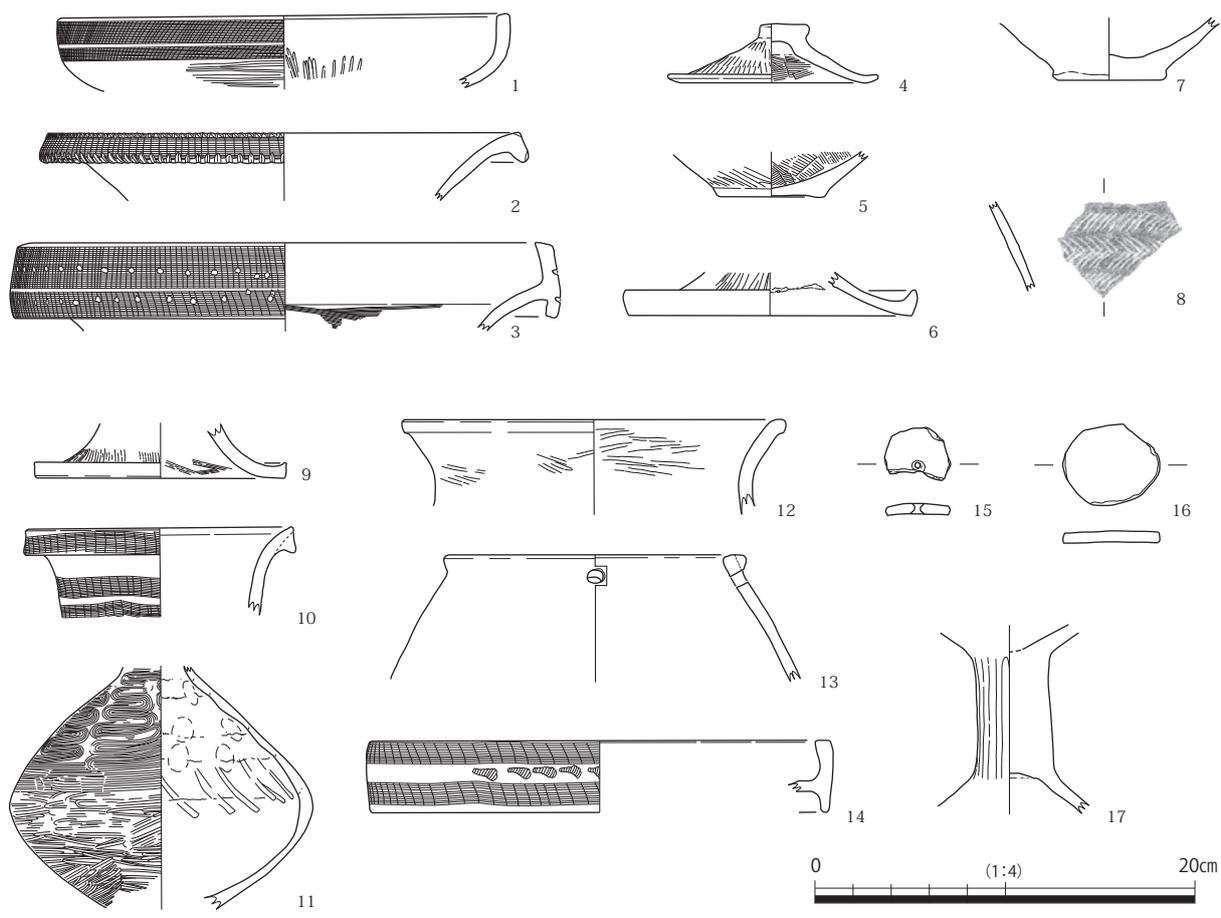
第13-5面は南側でT.P.+0.52~0.76m、2-2区境でT.P.+0.44~0.73mを測る。上層の第13-1面~第13-3面で見られた大きな落込みはなくなり、調査区の全体はほぼ平坦な面となる。遺構は検出していないが、2-2区境の南側で2本の自然木を確認した。径0.3mを測る。遺物は土器・石器・動物遺体がある。第24図-6は壺口縁部で非生駒西麓産、Ⅱ様式である。第24図-12~15はサヌカイトの石鏃で未製品と思われる。

第13-6面は南側でT.P.+0.42~0.6m、2-2区境でT.P.+0.44~0.6mを測る。南側では東端の箇所第14-1面と同一面になる。遺構は確認していない。第13-1層から第13-6層まで、遺物は弥生土器、石器、動物遺体（骨角製品含む）、木片（焼けた木片含む）、石、礫等、多量に出土した（第20~27図、図版9~11・23）。土器は生駒西麓産のものが多く、時期はⅢ~Ⅳ様式が中心であるが、Ⅰ様式、Ⅱ様式のものも含まれる。壺・甕が多く、鉢・高杯・無頸壺も見られる。石器はサヌカイト製の打製石器が主だが、磨製石器も見られる。石剣・石鏃・石錐がある他、未製品もある。剥片も多量に検出している。動物遺体は、大型~小型の動物・魚骨があり、色々な部位が見られる。中には焼けたものも見られる。また、加工品（図版23-4-写67）があり6面に加工痕が見られる。

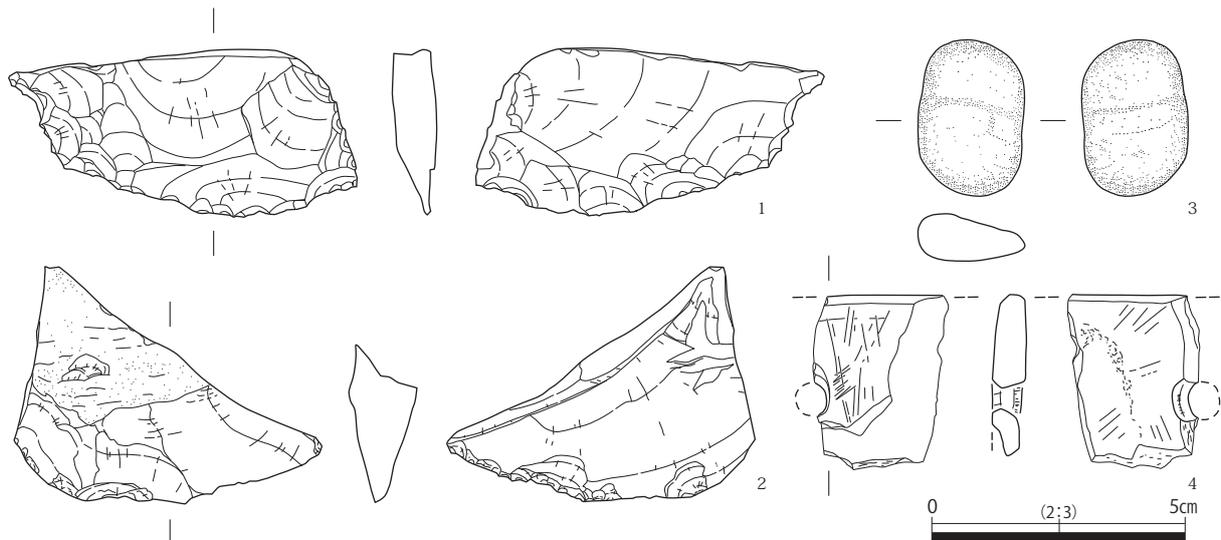
第14面（第14図） 第14面は第13-5層、第13-6層を除去して検出された第14層の上面である。第14層は4層に分けられ、各層の上面を第14-1面~第14-4面とする。遺構は第14-1層の上面のみで検出した。第14-1面はT.P.+0.32~0.72mを測り、Y=-33,386から東側が高く西へ低くなり、中央



第19図 1井路、第1~14層出土遺物



第20図 第13-1面、第13-1層出土遺物



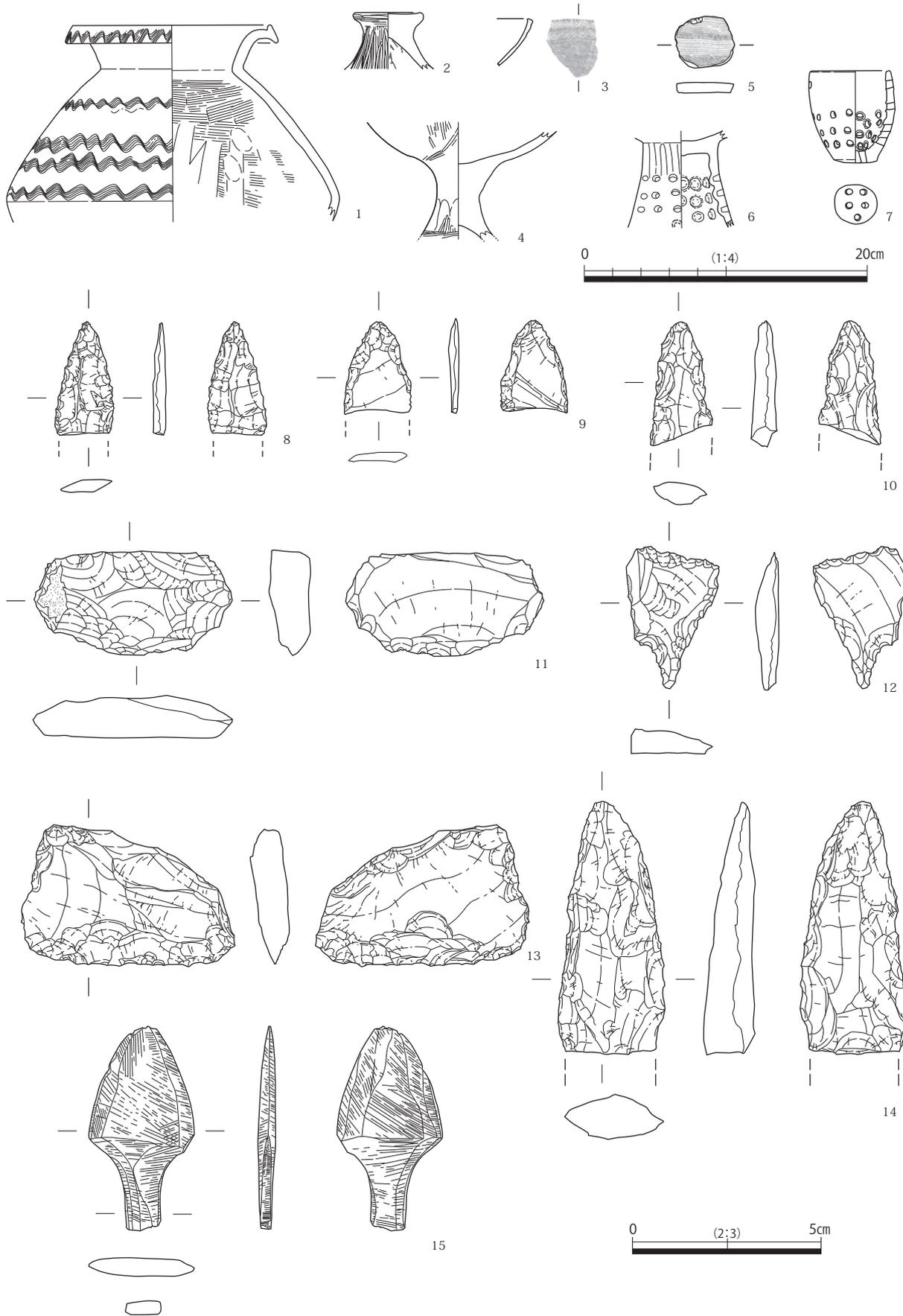
第21図 第13-1層出土遺物

では更に低くなる。西端で56、57ピットと121落込み、北東端で43、48～55ピットが存在する。北東端のピットは径0.1～0.25m、深さ0.03～0.1mである。121落込みは下層の第15面70土坑の上に位置しており、自然地形の大きな落込みと思われるが、遺構として遺物を取り上げた。落込みは径約2mで深さは0.07～0.1mを測る。埋土は黒色7.5Y2/1粘土質シルト（細礫、極粗砂、粗砂、炭混）である。土器、石器、動物遺体等の多くの遺物を含んでおり、第15面の70土坑の遺物と接合するものがある。弥生土器は壺、甕、蓋（第29図、図版12-5）等がある。石器（第28図-10、図版20-8）はサヌカイトの打製石剣である。第14面の遺物では土器・石器・土製品・動物遺体がある（第28図、図版11-4・12-1～5・23）。1・3・4は弥生土器壺である。第28図-1はⅡ様式と思われるがⅠ様式の傾向がある。2は甕である。第28図-6、図版11-4は手捏のミニチュアの土器である。7は鉢で外面に線刻が施されており、邪視文と思われる。8は石包丁でひもずれと使用の痕跡がある。黒色片岩である。これら遺物の時期はⅡ様式・Ⅲ～Ⅳ様式である。

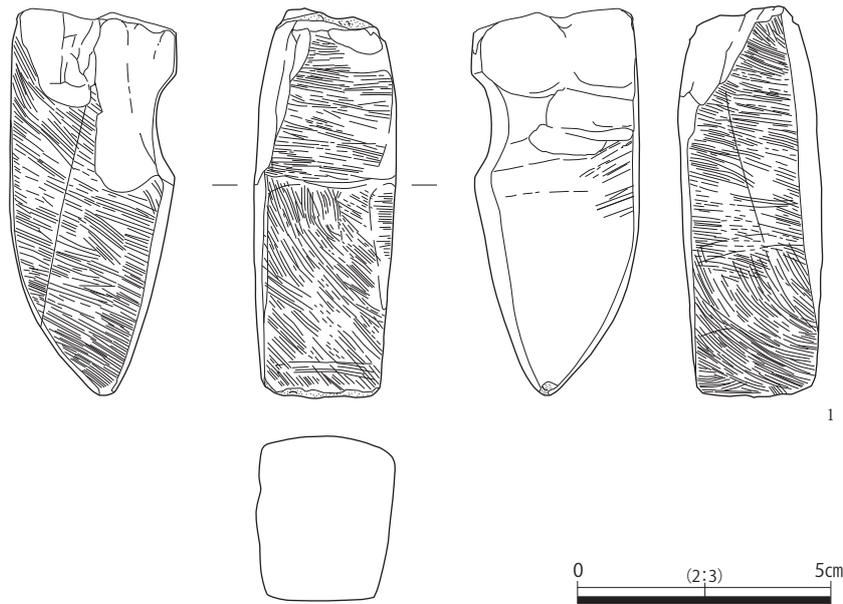
第14-2面はY=-333,860から東側のみで第14-3面はY=-333,386のみで検出した。第14-4面はT.P.+0.3～0.48mを測る。面的には自然な窪みが見られる。

第15面（第15図、図版5-7） 第15面は、第14-4層を除去して見られ、遺構面はT.P.+0.32～0.36mを測る。遺構面は全体的に平坦な面である。遺構は70、72土坑、29、58、59、68、71、73溝、30～47、62～67ピット、60・61落込みを検出した。70土坑は72土坑と約0.5m離れて北東に位置する（図版6-1・2）。規模は、長さ1.8m、幅0.8～0.9m、深さ約0.9mを測る。平面形は不整形な隅丸長方形、横断面形はV字型を呈する（第16図）。長辺の主軸は北北東-南南西に置く。土坑の埋土は5層に分けられ、上層より黒色7.5Y2/1粘土質シルト、オリーブ黒色7.5Y3/1～3/2シルト質粘土、暗緑灰色7.5GY4/1～10GY4/1極粗砂～粗砂、暗オリーブ灰色2.5GY4/1シルト～細砂、暗オリーブ灰色～暗緑灰色5GY4/1～7.5GY4/1シルト質粘土である。

遺物は土坑内より、弥生土器（第30図、図版12-6・7、13-1・2・3）、石器、動物遺体（図版23-1-写52、図版23-2-写56）、木片、炭、石、礫等が出土している。第30図-1、2、10、15～22は壺、4は無頸壺である。3、5、8、9、11、23、26～28は甕である。6は蓋である。12、13、14は底部である。13は穿孔されており、14は底面に布の圧痕が見られる。7は多孔土器である。大きさは



第22図 第13-2層、第13-3面、第13-3層出土遺物



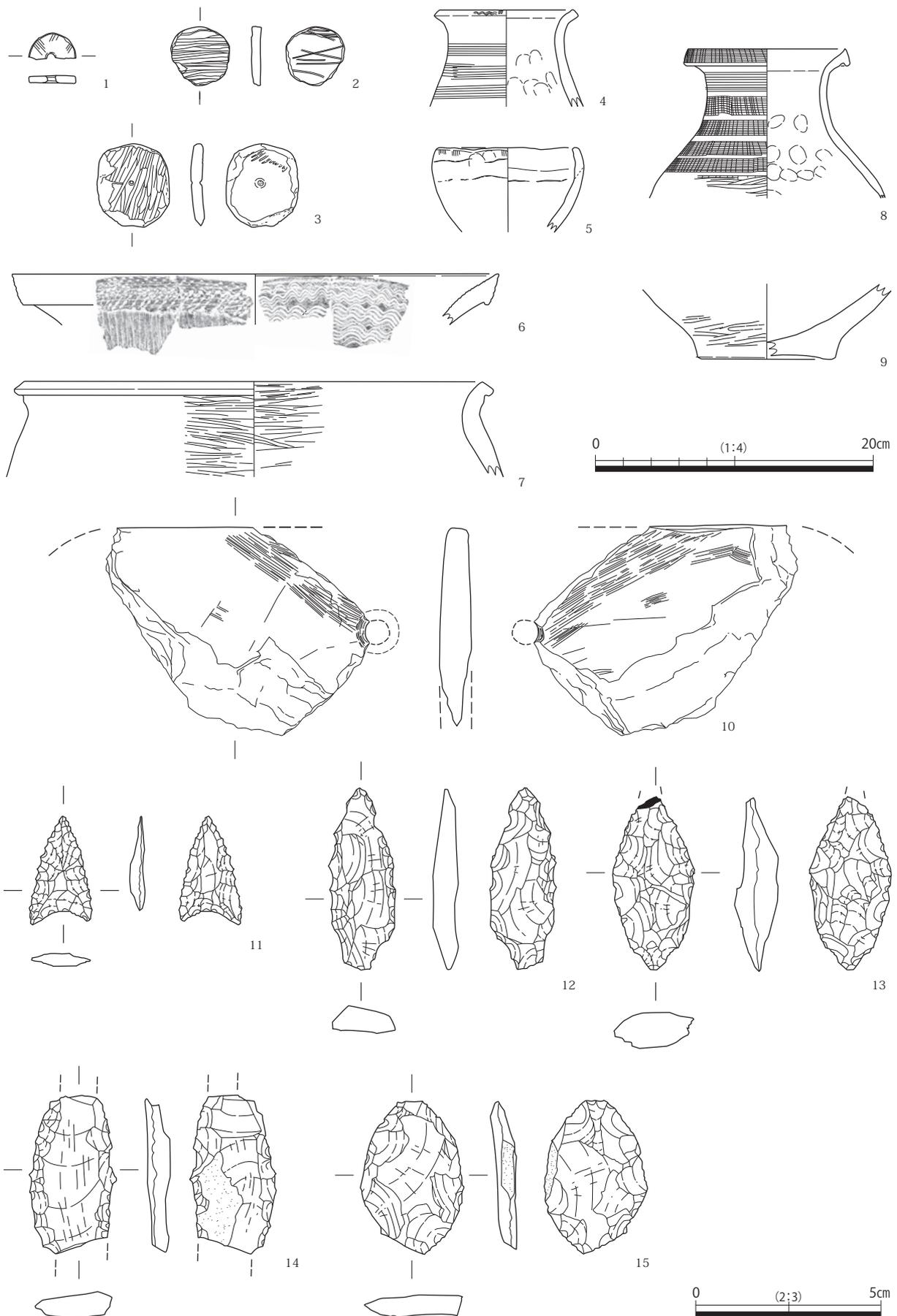
第23図 第13-3層出土遺物

口縁部径8.3cm、器高7.95cmを測る。口縁部から体部の一部は破損しており、現状では口縁部に1個、体部に12個、底部に1個の小孔が残存している。内面には繊維状のものの上に灰白色の付着物がほぼ全面に残されており、外面の孔の周囲にも及んでおり、孔の中で黄変している。胎土は生駒西麓産である。時期はⅢ～Ⅳ様式と考えられる。26・27はⅠ様式、3・9～11はⅡ様式、1・2・4・5・6はⅢ～Ⅳ様式である。石器はサヌカイトの剥片が多数出土している。動物遺体は多数出土している。図版23-1-写49は中足骨、写52は上腕骨と思われる。他には、イノシシの下顎骨で歯の抜けたものが出土している。植物遺体は焼けた菱の実、桃の種核が出土している。

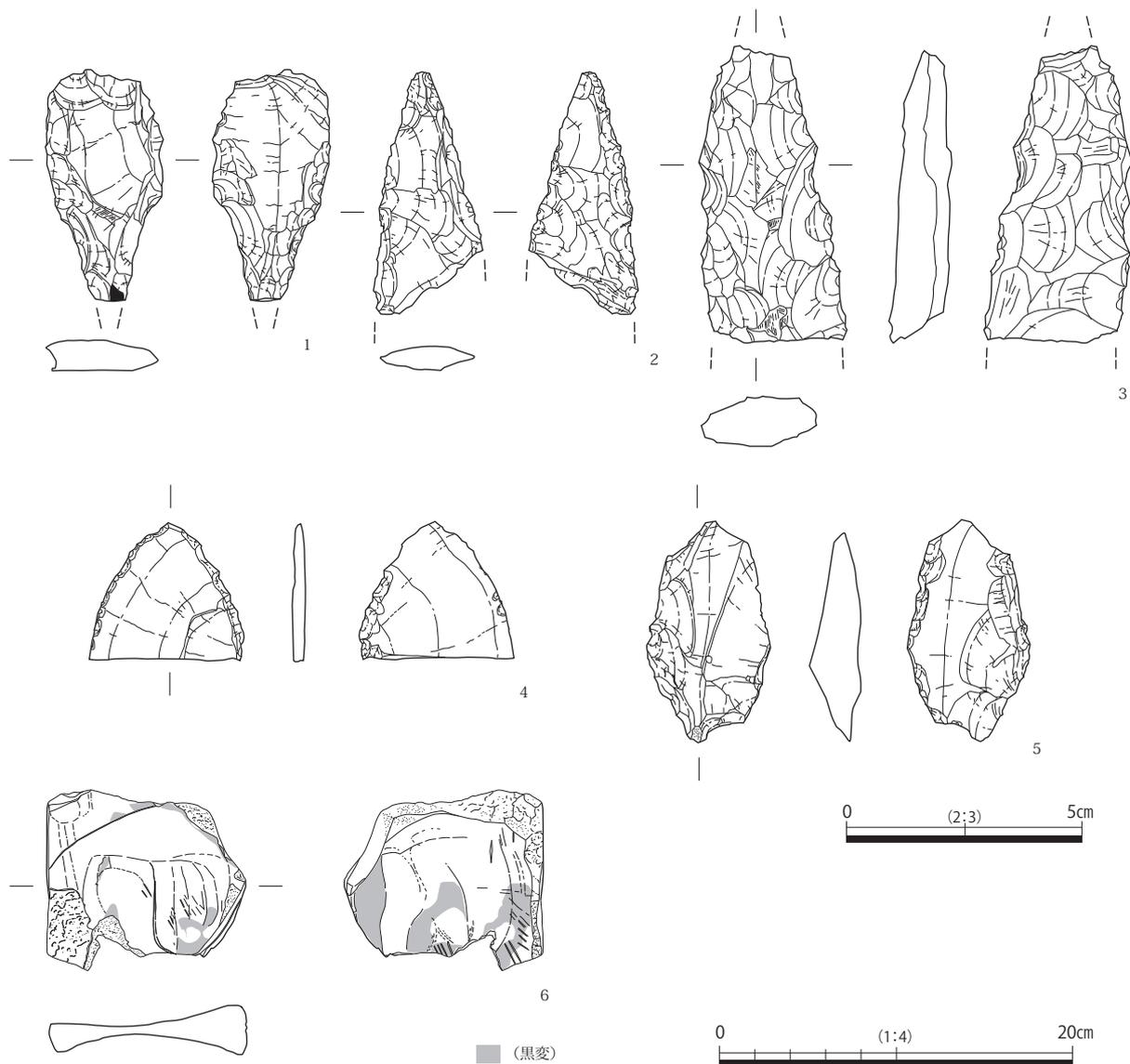
72土坑は70土坑の南側に約0.5m離れて位置する(第15図、図版6-1)。平面形は不整形な長方形と推測される。規模は長さ3m以上、幅0.9m以上を測る。深さは約0.5mを測り、2-2区境では約0.8mを測り、西から深くなる様である(第16図)。主軸は北東～南西方向に置く。埋土は4層に分けられ、上層より黒色7.5Y2/1～10Y2/1粘土質シルト(細礫、極粗砂、粗砂、炭混)、オリーブ黒色10Y3/1～7.5Y3/1粘土質シルト(粘性強。極粗砂、粗砂混。腐植物、炭、木、土器混)、オリーブ黒色10Y3/1～7.5Y3/1粘土質シルト(腐植物、炭、木、土器混)、灰色7.5Y4/1～5Y4/1粘土(極粗砂、粗砂混。腐植物、炭、木、土器混)である。

遺物は、弥生土器(第31図、図版13-4、14-1・2・3)、石器(第32図、図版21-6・7、22-1～3)、動物遺体(図版23-1、23-4)、木、炭、石、礫等が出土している。第31図-1・15は無頸壺、2・6・7・8は壺、10・11は甕、5・9は鉢、3・4は底部である。1・2・3・4・15・18は生駒西麓産である。1～4はⅢ～Ⅳ様式である。第32図-3・4・5は打製石器で3は石剣、5は石剣の先端部か。4は石鏃の未成品と思われる。第32図-1・2は磨製石器で緑色片岩の石庖丁である。1は背部と刃部に鋭い状痕が残存していた。2は刃部に細かい線状痕が残存する。動物遺体の図版23-1-写49は中足骨で、図版23-4-写66は前臼歯と思われる。図版23-4-写70・写73は小動物の骨と思われる。

29溝は58溝の北側に、0.1～0.5m離れて位置する(第18図)。全長3.5m以上、幅0.15～1.0mを測る。



第24図 第13-4面、13-4層、第13-5面、第13-3~6層出土遺物

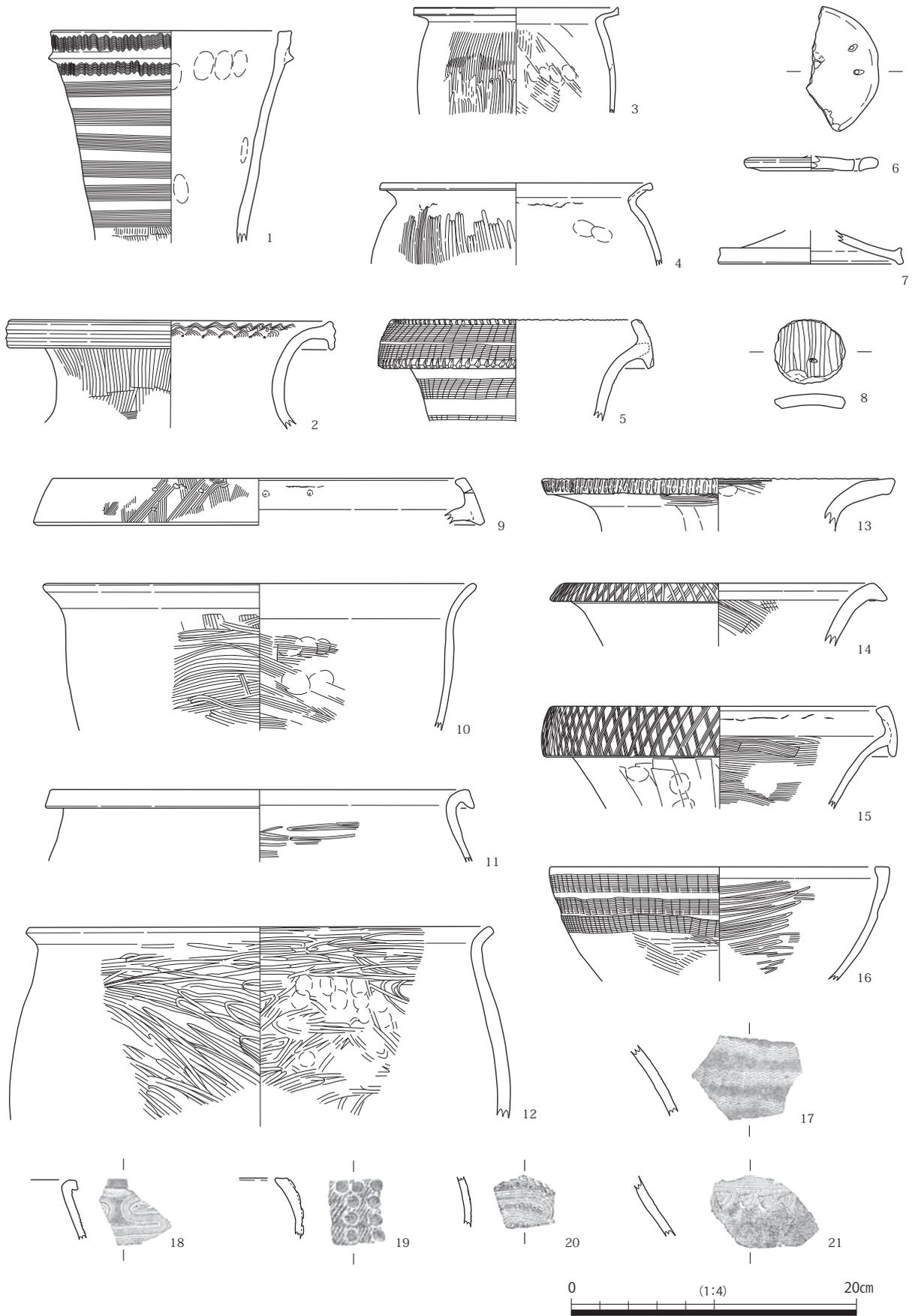


第25図 第13-4層、第13-5層、第13-3～6層出土遺物

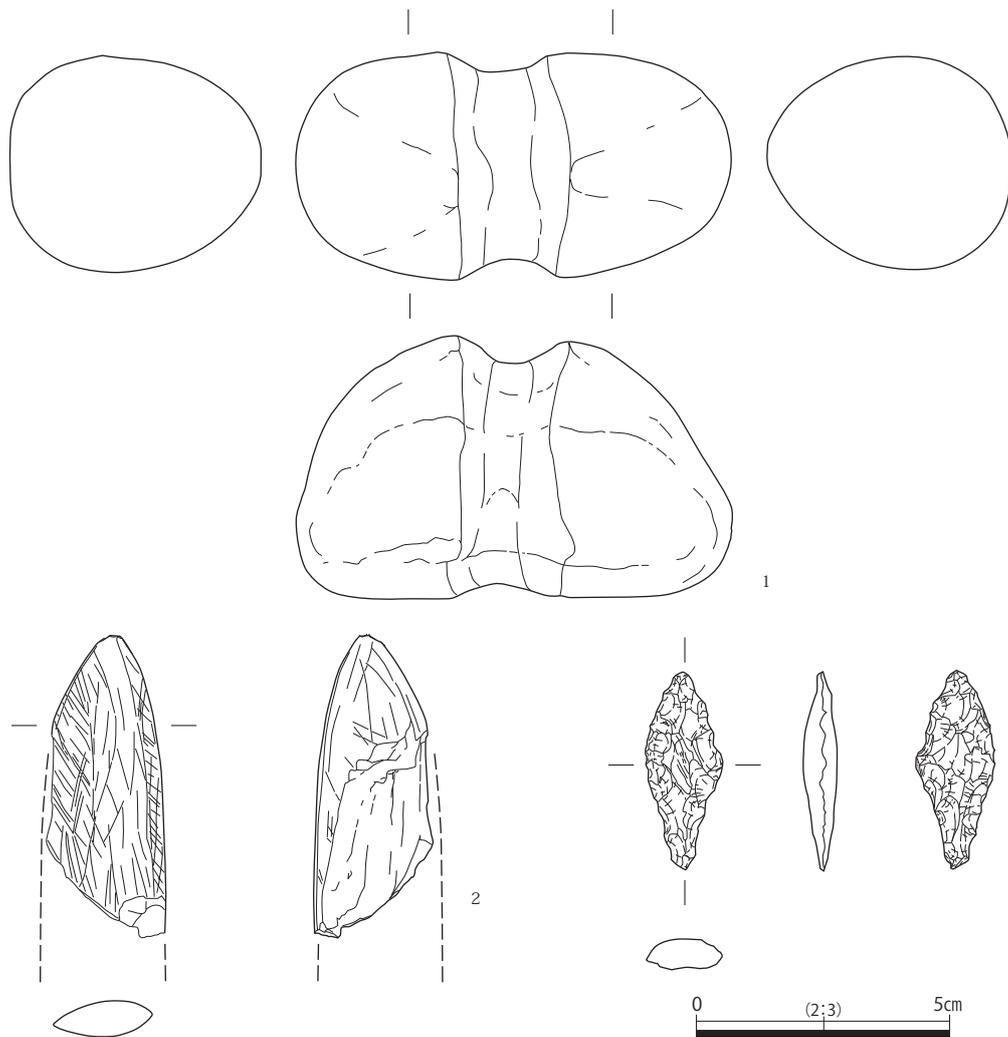
深さ0.05～0.2mを測る。遺物は、弥生土器（図版14-4～7）、土製品（図版14-7）、動物遺体（図版23-2-写56・57、3-写58）などが出土している。図版14-4-写28は壺、5-写30・31は甕である。写31はI様式、他はII様式である。写56・57はイノシシの下顎骨で歯が残存しており、写58は後臼歯と思われる。

58溝は29溝の南側に隣接して位置する（第18図、図版6-3）。全長4.5m以上、幅約1.7m、深さ0.15～0.2mを測る。埋土は黒色10Y2/1粘土質シルト（粘性強、粗砂混、土器含む）である。

なお、本遺構の底部中心には73溝がある。同じ主軸方向で、幅0.15～0.7m、深さ0.02～0.2mを測る。埋土はオリーブ黒色10Y3/1シルト質粘土（極粗砂、砂礫多量混）である。溝の東南東側では、長さ0.85m、幅約0.2m、深さ0.09mを測り、平面形は不整な長方形の61落込みがある。埋土は、オリーブ黒色10Y3/1粘土質シルト（極粗砂、砂礫混）である。60落込みは61落込みの北東約0.5m離れて隣接して位置する。58溝では、弥生土器（第33図、図版15・16）、土製品（図版14-8）、石器（第34図-12・13）、動物遺体等が出土している（図版23-1-写39・写40・写47、写53～55）。第33図-3は蓋、9



第26図 第13～14層出土遺物

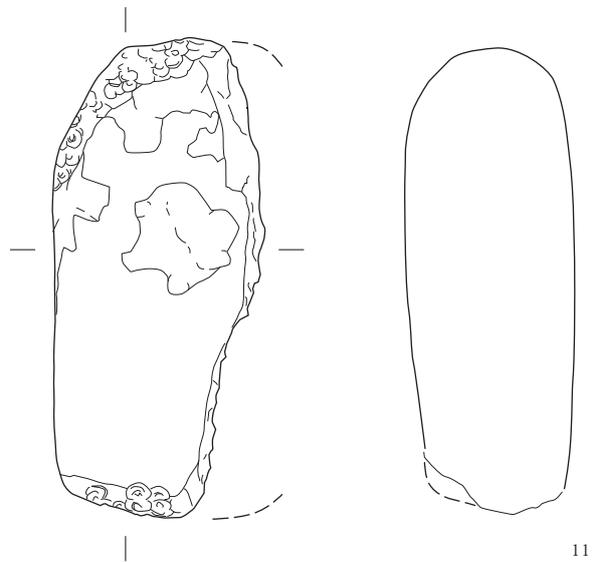
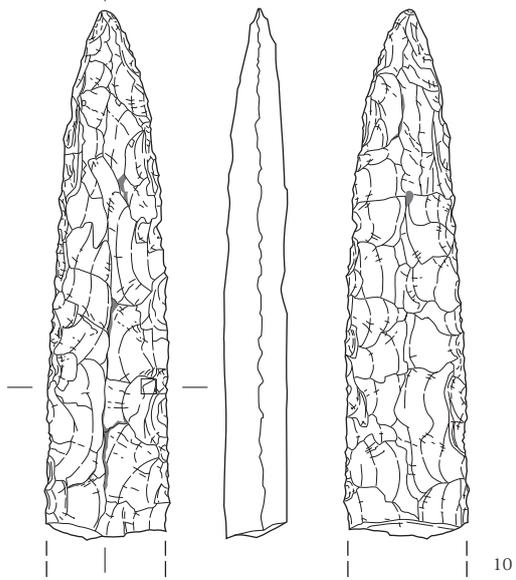
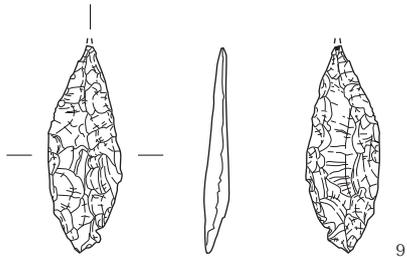
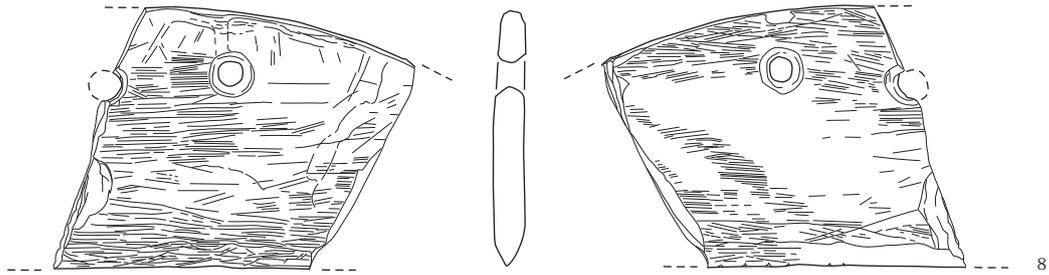
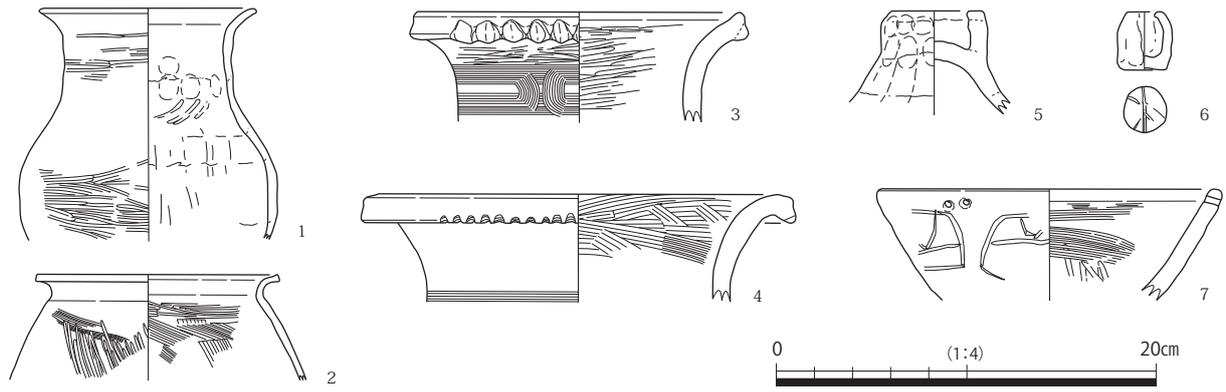


第27図 第13～14層出土遺物

は把手付鉢、15は鉢、13・16は壺、12・17・18は甕、4は高杯脚部である。乾燥時に2つに割れた脚部に粘土を貼って補修し、焼成をしている。生駒西麓産である。時期は中期である。5・7・10はI様式、それ以外はII様式である。図版14-8-写33・34は土器転用の円板である。第34図-12は溝の上位で出土。石剣である。13は70土坑の近く、上位で出土する。突起を有する尖頭器である。12・13はサヌカイト製である。73溝では第34図-14が出土している。石鏃である。写39は環椎、写40は距骨。写47は脛骨、写53～55は軸椎である。

59・68溝は70土坑の西側に接して位置する。70土坑と同じ主軸方向である。59溝と68溝は同一のものと考えられる。幅0.1～0.4m、深さ0.02～0.1mを測る。埋土は黒色7.5Y2/1粘土質シルト（細礫多量混）である。59溝では石製品が出土している。第34図-15、図版22-6は緑色片岩製の有孔円板である。両面に孔を穿つが未貫通である。第34図-16は棒状製品で、表面に光沢があり黒色に変化した箇所を有する。先端は叩かれている。71溝は、調査当初は73溝と同一と思われたが、埋土や、溝底の高さに違いがあるので、別のものと考えた。幅0.45m、深さ約0.25mを測る。埋土は黒色～緑黒色2.5GY2/1～7.5GY2/1シルト質粘土（粗砂、細礫混）である。

ピットは59溝の西側と29溝の北東側で検出した。59溝の西側では、62～66ピット（第18図）が、29溝



■ (磨滅)

第28図 第14面、第14層121落込み出土遺物

の西側では30～45、47ピットが位置する（第17・18図、図版6-7・8、7-1・2）。62～66ピットは平面形が円形のものと同方形のものに分けられる。方形は62ピットである。長さ0.25m、深さ0.03mを測る。63～66ピットは径0.15～0.25m、深さ0.05～0.06mを測る。埋土は黒色2.5G2/1シルト質土（粗砂混）である。30～45、47ピット中で平面形が円形なのが34～39、41～45ピット、方形なのが30～33、40、46ピットである。前者は径が0.1～0.3mを測る。30～33は北東-南西方向に並んでいる。これらのピットでは柱根の痕跡を確認している。なお、41ピットでは第14面から続くピットで、柱の材が残されていた。径0.05mを測る（第18図、図版6-6）。ピットでは、土器・石器・動物遺体が出土している。第15面では他に弥生土器（第34図-1～11）、石器（図版21-5-写38）が出土している。第34図-3・5・6・9はI様式である。

第16面 第16面は、第15-1、第15-2層を除去して見られ、第16層の上面である。第16層は全体にはなく、Y=-33,386～東と、2-2区境において見られる。この間は、第17層の上面と同一の面になる。上面の高さはT.P.+0.14～0.3mを測る。遺構、遺物は検出していない。

第17面 第15-2層、第16層を除去して見られ、第17層の上面である。高さはT.P.+0.07～0.18mを測る。第17層は暗オリーブ灰色2.5GY3/1～5GY3/1粘土で土壌化しており、遺構・遺物を確認出来るような層であったが、検出はしていない。

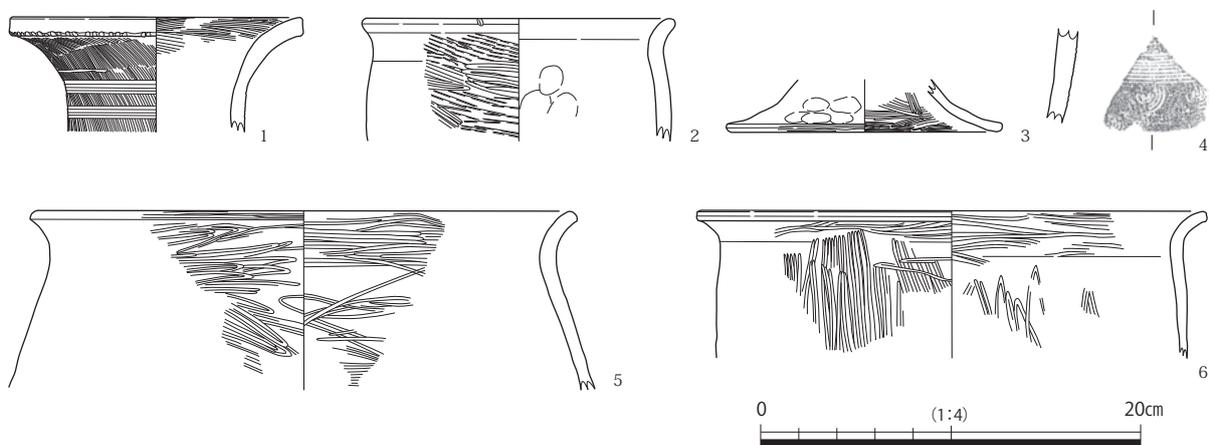
第18面 第17層を除去して見られ、第18層の上面である。上面の高さはT.P.±0.0～+0.06mを測る。遺構、遺物は検出していない。

第19面 第18層を除去して見られ、第19層の上面である。T.P.-0.06～0.1mを測る。第19層は緑黒色7.5GY2/1～10GY2/1粘土（黒色10Y2/1含む。炭化物混。暗緑灰色7.5GY3/1粘土混）で、一見すると土壌化した層であるが、遺構、遺物は検出していない。

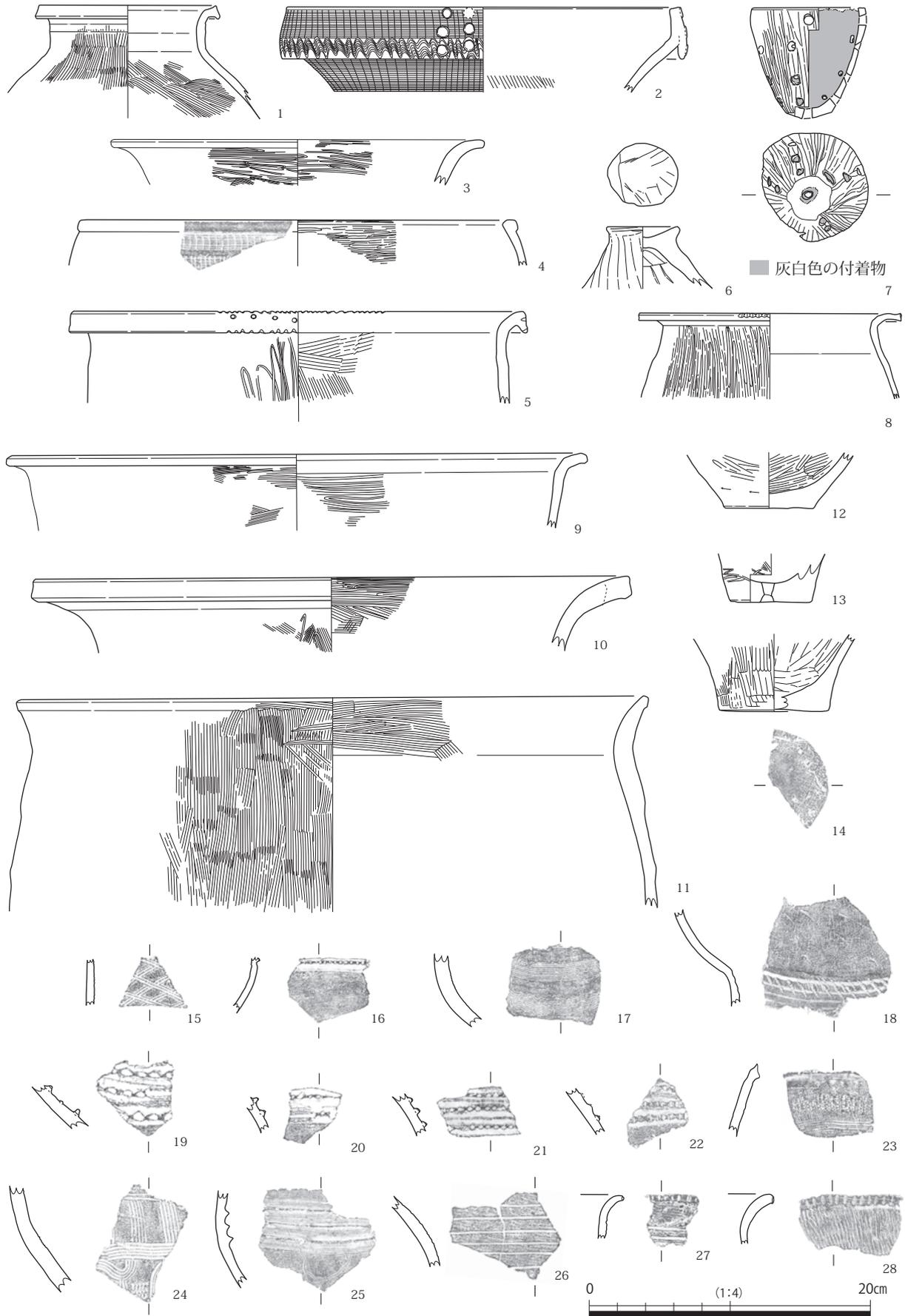
第20面 第19層を除去して見られ、第20層の上面である。上面の高さはT.P.-0.15～0.17mを測る。第20面では、調査区の南西側で液状化現象の痕跡を確認した。遺構・遺物は確認していない。

第21面 第20層を除去して見られ、第21層の上面である。高さはT.P.-0.2～0.27mを測る。遺構、遺物は検出していない。

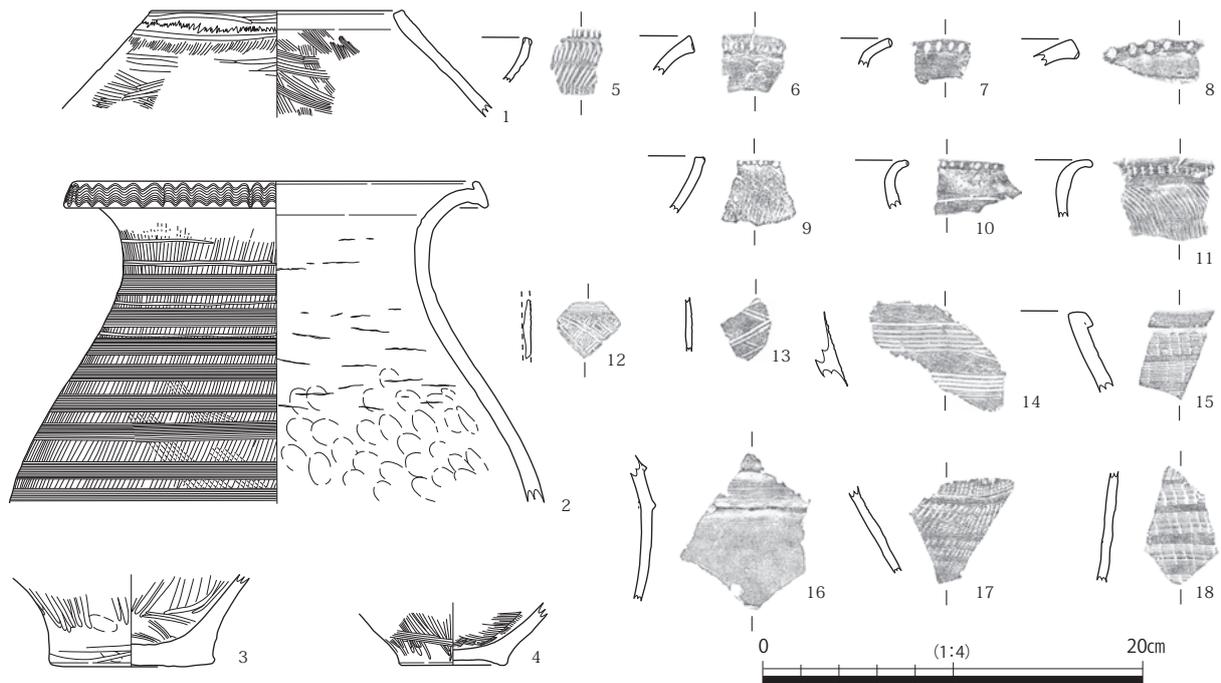
第22面 第21層を除去して見られ、第22層の上面である。第22層は上層が第22-1層、下層が第22-2層の2層に分かれ、各上面を第22-1面、第22-2面とする。第22面の高さはT.P.-0.24～0.3mを測る。両面とも、遺構も遺物も検出していない。



第29図 第14面121落込み出土遺物



第30図 第15面70土坑出土遺物

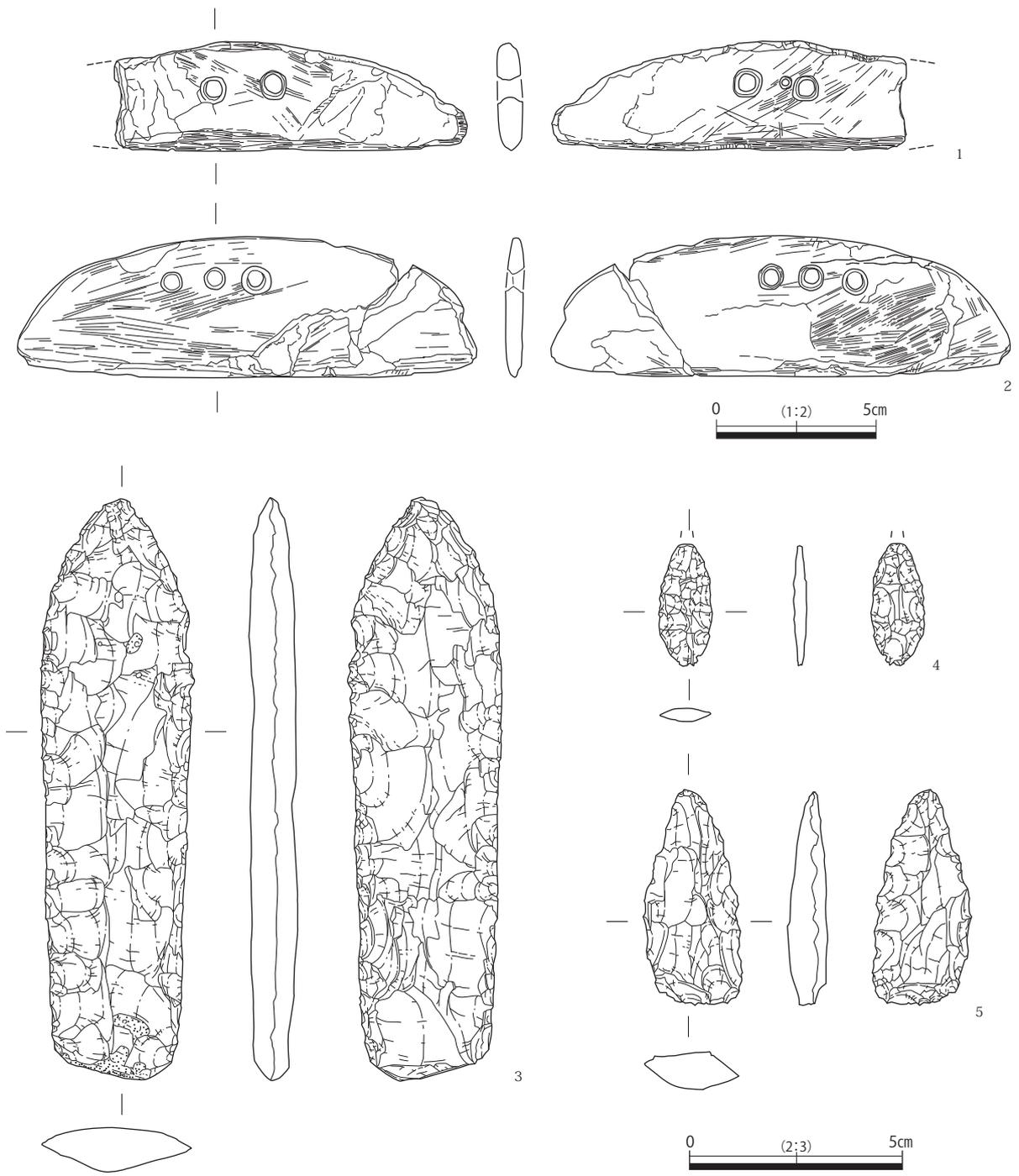


第31図 第15面72土坑出土遺物

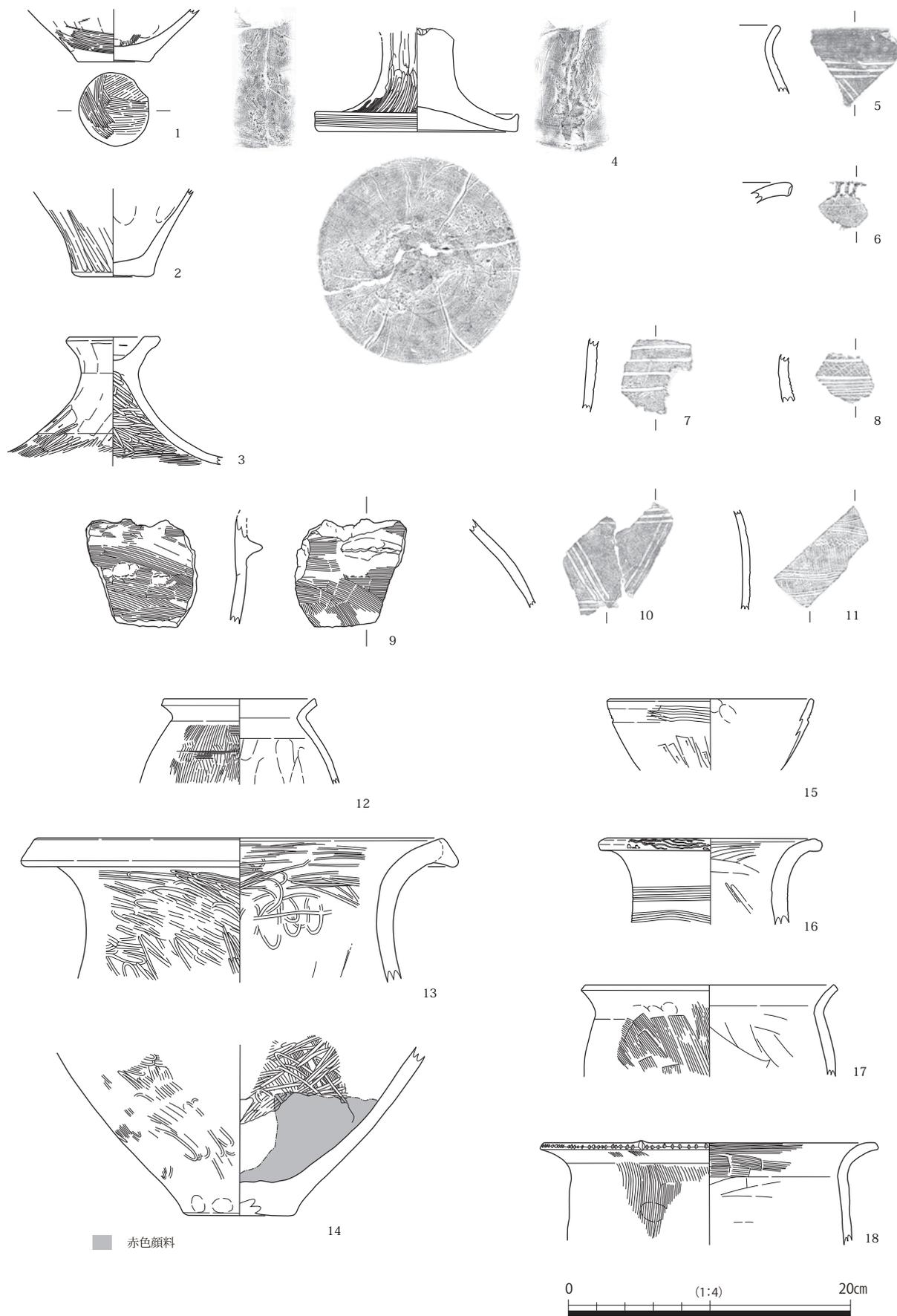
第23面（第15図） 第22-2層を除去して見られ、第23層の上面である。高さはT.P.-0.32~0.40mを測る。遺構としては、74溝、75~118ピットを検出した（図版7-3・4・5）。74溝は幅が約0.5m、深さ約0.03~0.04mを測る。主軸を北西-南東方向に置く。埋土は暗オリーブ灰色2.5GY3/1粘土（炭化物混）である。ピットは平面形が円形のもの、長方形のものに大きく分けられる。長方形のものは93・94ピットである。118ピット以外はほぼ円形である。

93・94ピットは、74溝の北東約0.7~1.0m離れて位置する。主軸を北北東-南南西に置く。大きさは、93ピットは長さ0.47m、幅0.36mで、94ピットは長さ0.66m、幅0.34mである。深さは0.02~0.04mを測る。75~118ピットは大きさが0.06~0.5mを、深さは0.01~0.04mを測る。埋土は暗オリーブ灰色2.5GY3/1粘土（炭化物混）である。これらのピットでは柱根の痕跡を確認していない。第23面では、遺物は全く出土していない。2-1区の調査はこの面までである。

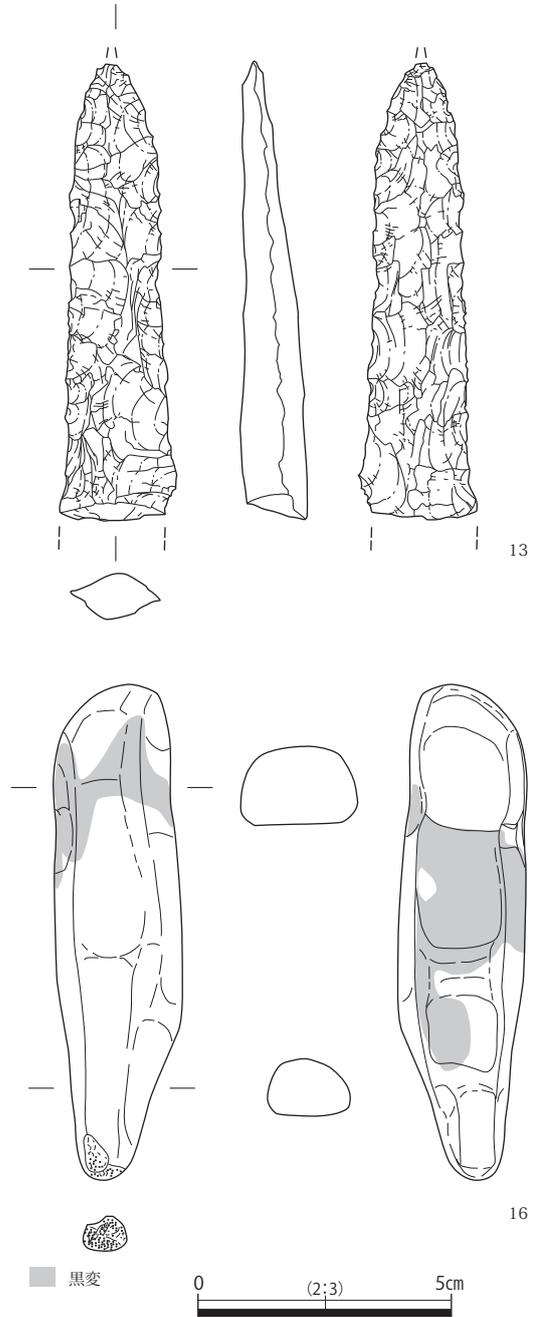
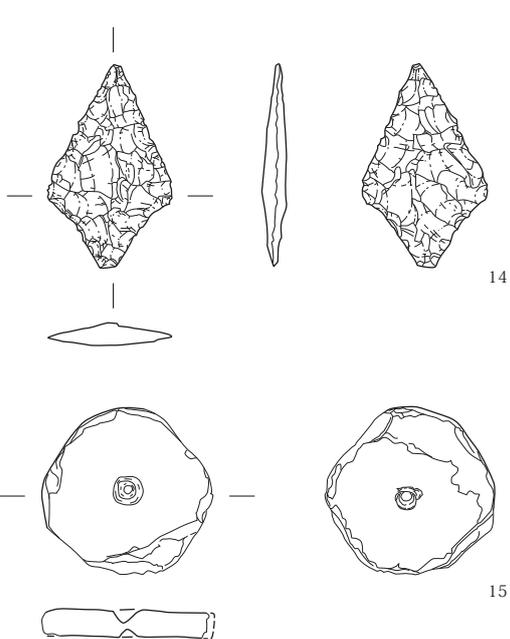
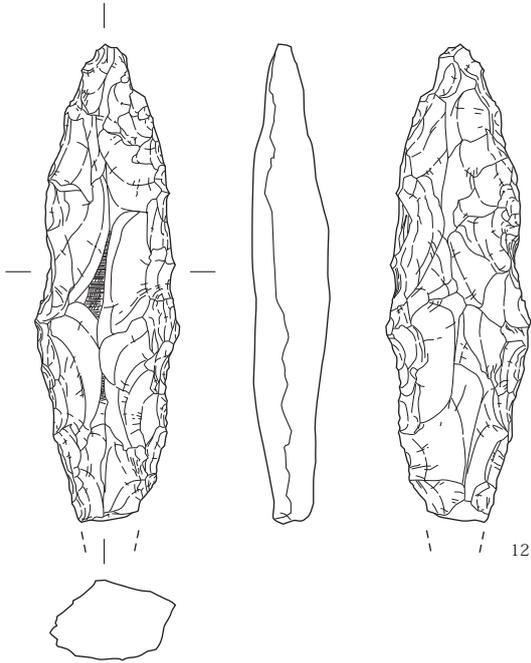
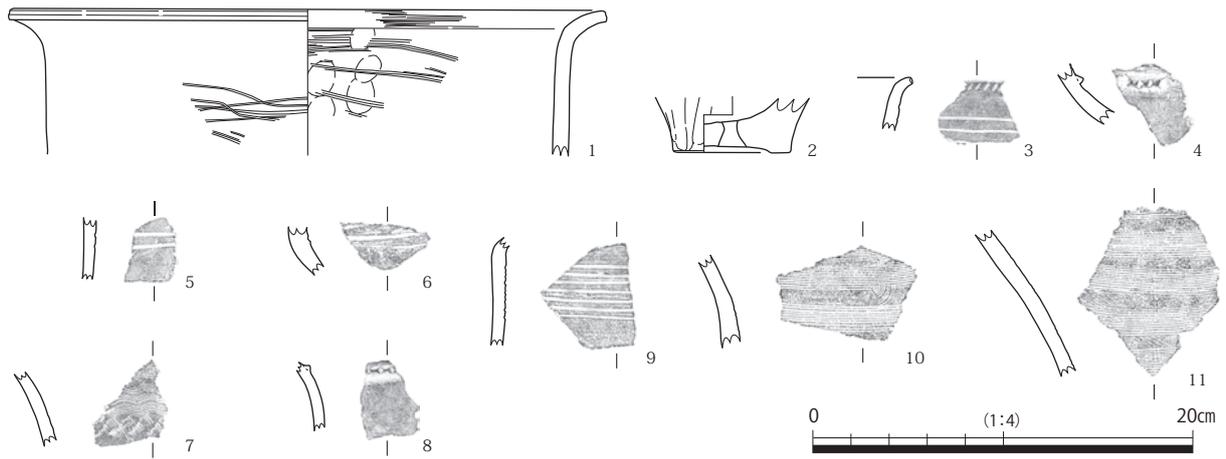
第24面（第15図） 第24面は第23層を除去して見られる面で、第24層の上面である。T.P.-0.36~0.4mを測る。遺構は2-3区で119ピット・120溝を確認した（図版7-7）。2-3区では、119ピットは径0.36m、深さ0.03mを測る。120溝は幅0.25m、深さ0.03mを測る。ピットと溝の埋土は黒色7.5Y2/1粘土（灰色7.5Y4/1粘土粒。炭化物混）である。



第32图 第15面72土坑出土遺物



第33図 第15面58溝出土遺物



第34図 第15面、第15面58・59溝・73溝出土遺物

第V章 まとめ

第1節 調査のまとめ

1. その1 調査区の成果

1-3・4区では国道170号線（大阪外環状線）建設工事と、水道管埋設工事により、また1-1・2区では、建物の基礎杭や歩道橋脚部の工事、攪乱坑等で遺構面が壊されていた。

土層は18層を確認し、面として18面を確認した。その中で、遺構を検出した面は上層より、第3・5・7・9・10・11・17面の7面である。第1面から第11面、また1面から10面、9面から16面と、井路が掘削され、流路が流れている。

第1面～第3面では、122井路と132井路を確認する。122井路は大きく2回、細かく見れば3～4回掘り直されている。2回は井路を拡張していると考えられる。122井路の北側に132井路が存在するが、122井路と同様に少なくとも2回掘り直しが行われている。122井路と132井路の間の箇所が「掘上田」、または「掘田」と呼ばれる田畑の施設である。井路は明治41年にこの地域一帯を耕地整理が行われ、井路には土を入れられて、更に当時の地表面よりも高く盛られたということである。122井路・132井路の時期の下限は明治時代である。上限については不明であるが、第11面で検出した130溝は丁度122井路の下にあたり、この面で検出された。129溝と131溝の埋土と異なり、人為的な土がブロック状に混入しているので、122井路が掘り直された時の一連の井路の底と考えられる。

（財）東大阪市文化財協会（以後、協会と略称）の調査では122井路は井路Ⅲに相当し、133井路は井路Ⅱに相当すると思われる。

第7面では123・124溝を検出した。土層断面の観察で同じ埋土が入り、幅・深さも同じ規模をもつものが存在することを確認した。123溝の南側では人・動物の足跡を検出した。溝は畝溝と考えられる。時期は中世と思われる。

第9面では南端1-3区で125・126溝・133流路を検出した。溝はほぼ東西南北の方向に置いている。133流路は125溝より約7.4m離れている。流路は土層断面で南の肩部を確認した遺構である。協会の調査では流路1に相当する。この面の時期は中世と思われ、13世紀後半から14世紀と考えられている。

第10面では、1-3区で127溝を検出した。溝の北側では人と動物の足跡も検出する。協会の調査では、ほぼ同じ高さで黒色土器が出土した平安時代の遺物包含層が確認されているので、第10面は平安時代と考えられる。

第11面では129溝・130溝・131溝・134流路・128土坑を検出した。129溝の北側では134流路が走行している。129溝の北側で検出した人の足跡や木製品は、133流路の底部での遺構・遺物か、134流路廃絶後の遺構・遺物と推測される。130溝は先述した様に122井路の底部と推測される。第11面の時期は出土遺物がないので決め難いが、古代と推測される。

第17面では、1-4区で135溝を検出した。人工的な溝かどうか不明である。協会調査では第17面を弥生後期・古墳時代前期と考えられている。なおこの面では上層で起きた地震の影響により面の起伏が激しい。

なお地震については122井路内でも観察できた。

2. その2 調査区の成果

その2 調査区も、その1と同様に国道170号線（大阪外環状線）建設工事、水道管埋設工事、ガス管埋設工事で大きく壊されている。土層は大きく25層確認でき、面としても大きく25面数えられるが、その中でも細分される箇所もある。25面の中で遺構を検出した面は第3・5・7・8・10・12・13-1・13-2・14・15・23・24の計12面である。

第1面で1井路を確認する。井路は5回掘り直されている。第1面で検出した1井路直下の流路は、その1調査区と同様の溝の肩部と考えられる。井路内からは弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の土器が出土している。第3面では1井路の護岸の杭を、第5面では井路築造期の肩部を確認した。

第7面では、2・4土坑と3溝を検出する。この面では1井路直下で流路の肩部を確認する。その1調査区と同様な流路と考えられる。第7面での遺物は土師器・弥生土器の破片が出土している。時期は平安時代と思われる。

第8面では、5ピット、人の足跡を検出する。時期は平安時代から奈良時代と思われる。

第10面では、6溝を検出した。時期は奈良時代と推測される。

第12面では、7～11畦畔、20～25溝、12～19ピットを検出する。この附近で水田面が広がっていたものと思われる。古墳時代前期から弥生時代後期の甕が12層の上で出土している。

第13面は第13層上面にあたり、第13層は大きく6層に分けられて、上層より、第13-1～第13-6面となる。その中で、第13-1・13-2面で遺構を確認した。第13層は北西-南東方向に土が厚く堆積し、南西に傾斜して低くなる。北東と東側では0.7～0.6m堆積している。その高低差は約0.5mを測る。第13層は土壌化しており、土器・石器・石器剥片・動物遺体・木片・炭化物・石・礫が多量に含まれている。協会の調査では「整地土」とされている。

第13-1面では、28落込み、26溝を検出した。この面では別に15～20cmの石がいくつか出土した。第13-2面では、27ピットを検出した。27ピットの南側に近接して径20cm未満の石が2個位置している。調査区の南西端側へ傾斜する。なお、遺構は検出していないが、第13-3面で、2-1区の東端で多孔土器（第22図-7）が出土している。土器の周囲は炭が多く、焼けた動物遺体も多く出土した。20cm未満の石が近接している。第13-1・2面の時期はⅢ～Ⅳ様式の土器が中心であるが、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ様式の土器も含んでいる。

第14面は、2-1区の中央に大きな落込みがあり、その中で更に窪んでいる箇所がある。121落込みである。その南西隅にピット、また2-1区の北東側でピット群も検出した。ピット41は第15面に続き、柱材が残っていた。121落込みは第15面70土坑の直上にあたり、埋土は大きく下がる。遺物では邪視文が線刻された鉢、ミニチュアの手捏の土器、石剣、石鎌、石庖丁、叩石等が出土している。土器ではⅡ様式の傾向が強い。

第15面では、遺構面はほぼ平坦な面となる。遺構は70・72土坑、29・58・59・68・71・73溝、30～47・62～67ピット、60・61落込みを検出した。

70・72土坑は調査当初、土壙墓・木棺墓を想定していたが、埋葬の施設、痕跡は検出できなかった。70土坑は断面形がV字形となり、調査当初から水が湧くことから、これら土坑は井戸を考えたい。東側のピット群はなんらかの構造物が建てられていたと思われる。遺物では70土坑で多孔土器（第30図-7）が出土している。多孔土器は第13-2面で出土したものより大きい。内面に灰白色の付着物が残存し、孔の内面より外面に流れ出ている箇所が見られる。口縁部の孔は表面周囲が光沢をおびており、ひ

もでつり下げられた可能性がある。72土坑で磨製石庖丁、打製石剣（第32図-1～3）が出土している。58溝ではサヌカイトの打製石剣、尖頭器（第34図-12・13）が出土している。ピット42では柱材が残っていた。

58溝では、高杯脚部（第33図-4）が出土している。脚部は乾燥時に二つに割れ、その後に粘土で厚く盛り上げて焼成し直している。第15面の時期は、Ⅲ～Ⅳ様式の遺物もあるが、Ⅱ様式の土器が上層よりも多く見られ、Ⅰ様式の土器片も多く出土する傾向にある。これら以外に今回掲載していないが、強く熱を受けて発泡した土器片や粘土塊がある。

第23・24面では、多くのピットと溝を検出した。遺物は全く出土していない。ピットは柱根の痕跡はない。第23面の時期は弥生時代前期～縄文時代晩期、第24面は縄文時代晩期以前と推測される。

<参考文献>

1. 全章を通じて参考にした、既往の調査成果を以下に挙げた。中でも、その1調査区については第42次の、その2調査区については第56次の調査報告を参考にした。

（財）東大阪市文化財協会 1982 『鬼虎川の金属関係遺物』

（財）東大阪市文化財協会 1983 『鬼虎川遺跡第16次発掘調査概要』

（財）東大阪市文化財協会 1984 『鬼虎川遺跡第7次発掘調査報告3-遺構編-』

東大阪市教育委員会・（財）東大阪市文化財協会 1984 『鬼虎川遺跡第29・30次発掘調査報告』

（財）東大阪市文化財協会 1988 『鬼虎川遺跡調査概要Ⅰ 遺物編 木製品』

（財）東大阪市文化財協会 1989 「鬼虎川遺跡第40次発掘調査」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告-1998年度-』

（財）東大阪市文化財協会 1990 『鬼虎川遺跡第1～3次発掘調査報告』

（財）東大阪市文化財協会 1997 「鬼虎川遺跡北部の歴史時代耕作痕跡と地震層序」『-国道170号線被服団地前交差点立体交差事業に伴う-鬼虎川遺跡第30次発掘調査報告』

東大阪市教育委員会 2002 『鬼虎川遺跡第52次発掘調査報告』

東大阪市教育委員会 2004 『鬼虎川遺跡第53次発掘調査報告』

東大阪市教育委員会 2005 『鬼虎川遺跡第56次発掘調査報告』

（財）東大阪市文化財協会 2006 『鬼虎川遺跡第42次発掘調査報告』

2. 多孔土器の名称は、以下の角南文献によった。その他、以下の文献を参考とした。

角南総一郎 1999 「弥生時代多孔土器初論」『滋賀考古』第21号 滋賀考古学研究会

間壁霞子 1998 「「古代出雲と医薬」への覚書き-スクナヒコの羽根・扁鵲・小形多孔土器-」『神女大史学』第十五号

間壁霞子 1999 「（付）小さい多孔土器」『古代出雲の医薬と鳥人』 学生社

写 真 图 版

図版1 遺構 その1 調査区



1 土層断面 第1～8層・133流路(北西から)



2 土層断面 第11層より上層(南西から)



3 土層断面 第1～10層、133流路(南西から)



4 土層断面 122井路(北西から)



5 土層断面 122井路(南西から)



6 土層断面 第9・10層、122井路(北西から)

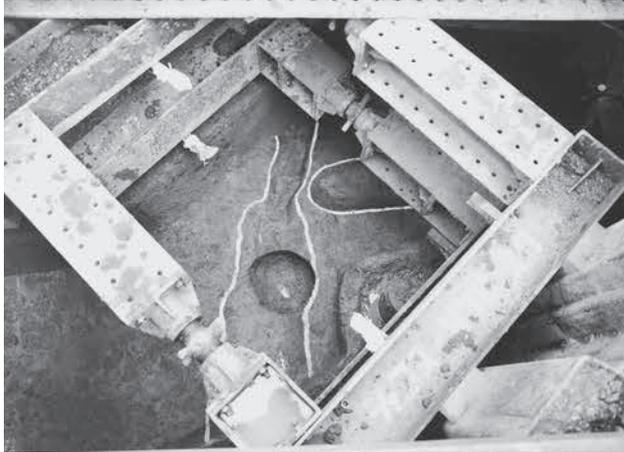


7 122井路全景(北東から)

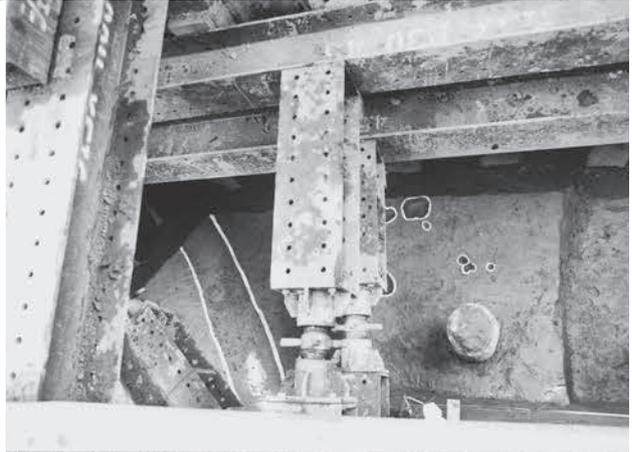


8 第7面 123・124溝、足跡

図版2 遺構 その1 調査区



1 第9面 125・126溝全景(西から)



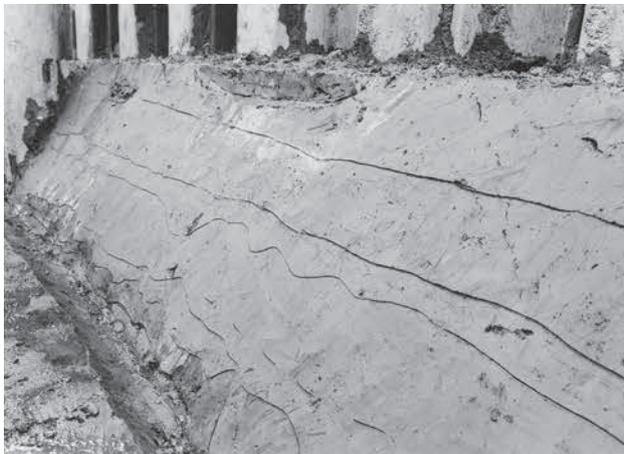
2 第10面 127溝、ピット、足跡(東から)



3 土層断面 第11～18層(南西から)



4 土層断面 第11～18層、122井路(南西から)



5 土層断面 第11～17層(南西から)



6 土層断面 第11～16層(北西から)



7 土層断面 第11～16層(西から)



8 土層断面 第11～17層(北西から)

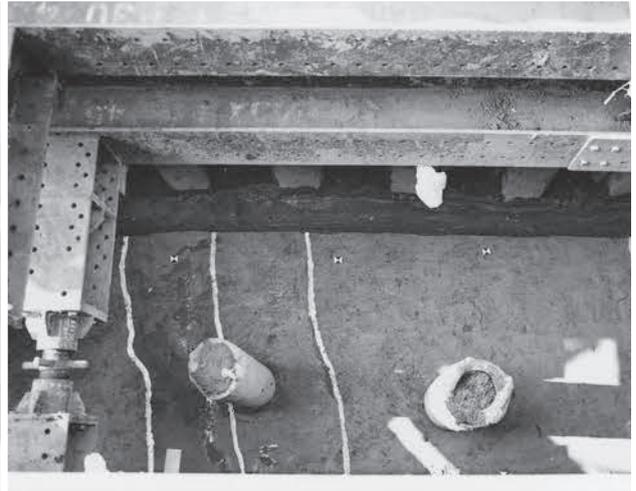
図版3 遺構 その1 調査区



1 第11面 129・130・131溝全景(西から)



2 129溝全景(北から)



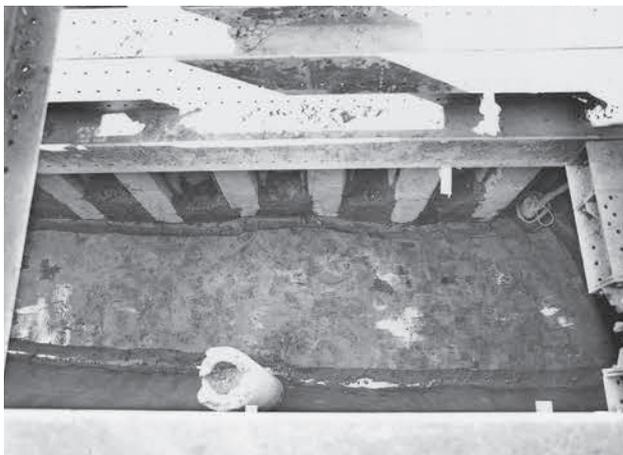
3 131溝全景(東から)



4 130溝全景(東から)



5 128土坑全景(南東から)



6 第16面 X=-146, 110附近全景(東から)



7 第17面 X=-146, 110附近全景(東から)

図版4 遺構 その2 調査区



1 土層断面 第1～6層、1井路(西から)



2 土層断面 第1～6層(北東から)



3 土層断面 第7～13層(北東から)



4 土層断面 第7～13層(北東から)



5 第7面 2土坑・3溝(東から)



6 第7面 4土坑、第8面 5ピット・足跡(南から)



7 第10面 6溝(東から)



8 第12面全景(東から)

図版5 遺構 その2 調査区



1 土層断面 第11~13・14層(北東から)



2 土層断面 第11~13・14層(北西から)



3 土層断面 第15~24・25層(北東から)



4 土層断面 第15~24・25層(北西から)



5 西壁土層断面 第7・8~12・13層(東から)



6 西壁土層断面 第7~25層(東から)

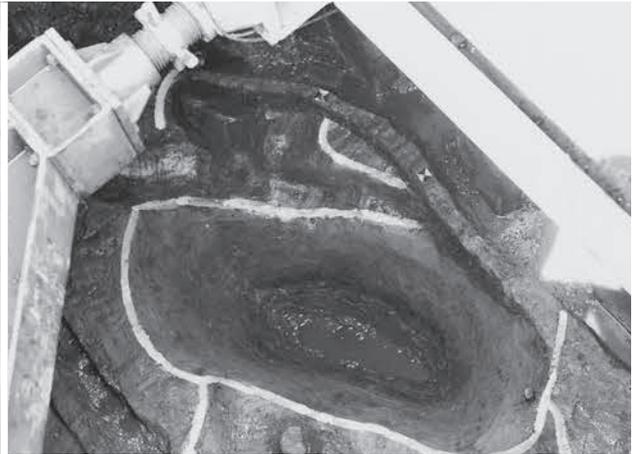


7 第15面全景(北から)

図版6 遺構 その2 調査区



1 第15面 70・72土坑全景(東から)



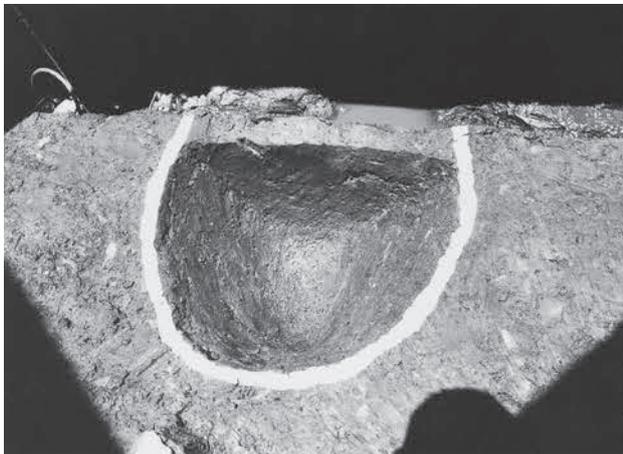
2 70土坑(東から)



3 58溝全景(北から)



4 58溝内遺物出土状況(北から)



5 第13-2面 27ピット(南から)



6 第15面 42ピット柱根(南から)



7 33ピット(北東から)



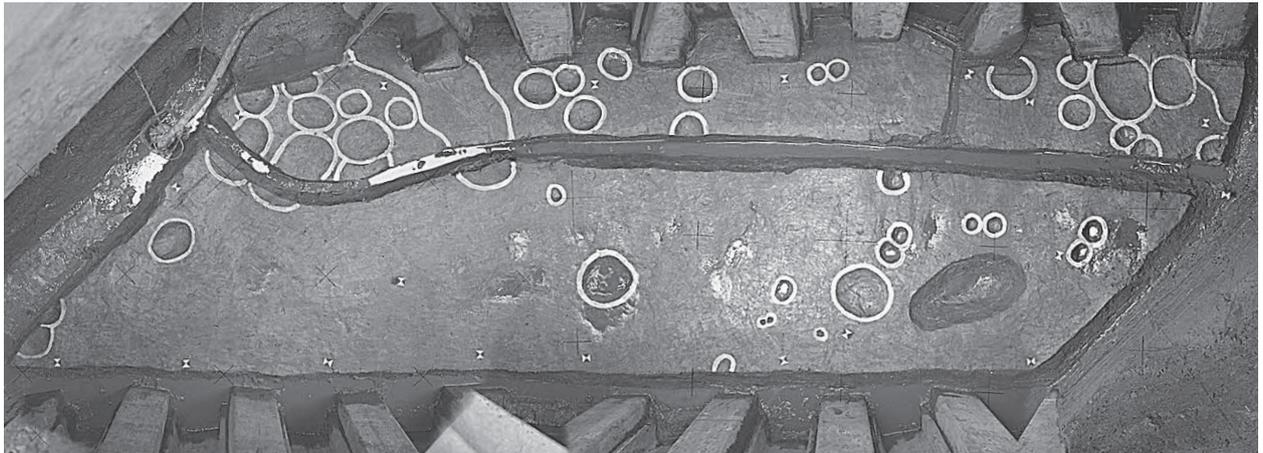
8 30ピット断面(北東から)



1 第15面 31ピット断面(北東から)



2 35ピット断面(南から)



3 第23面全景(北から)



4 第23面全景(東から)



5 第23面全景(西から)

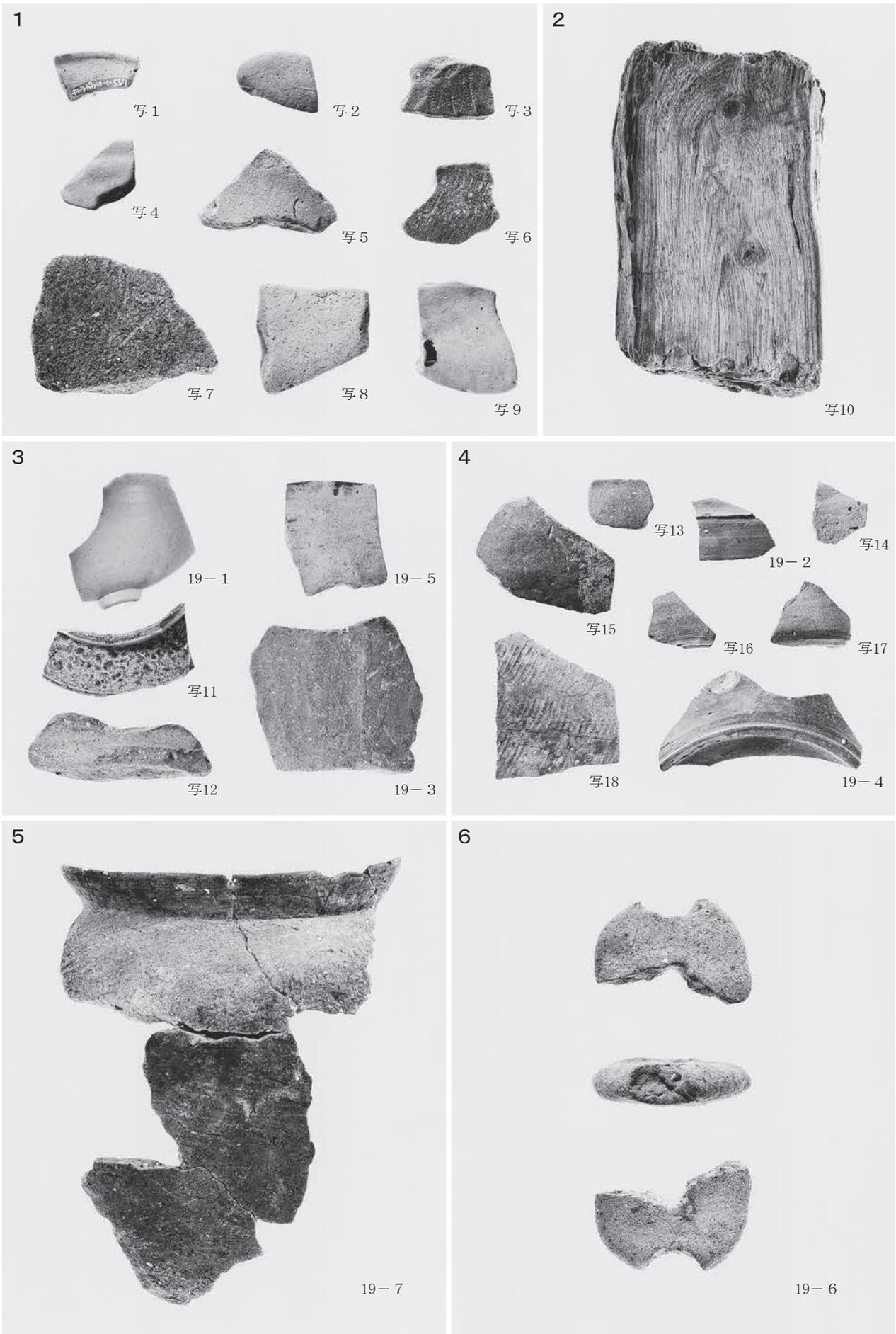


6 東壁土層断面(東から)



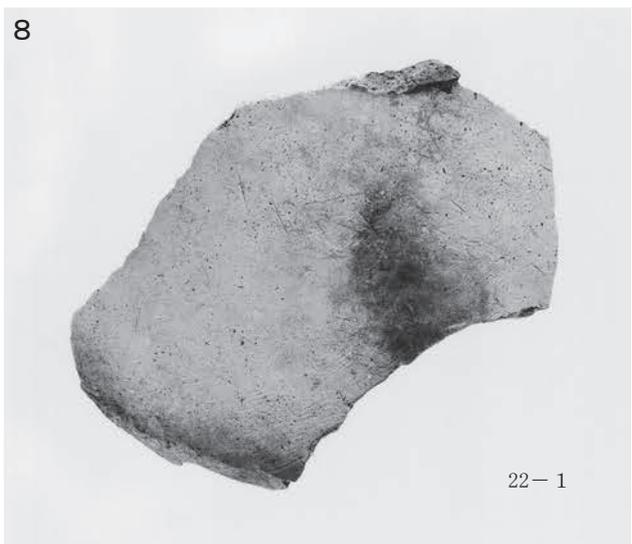
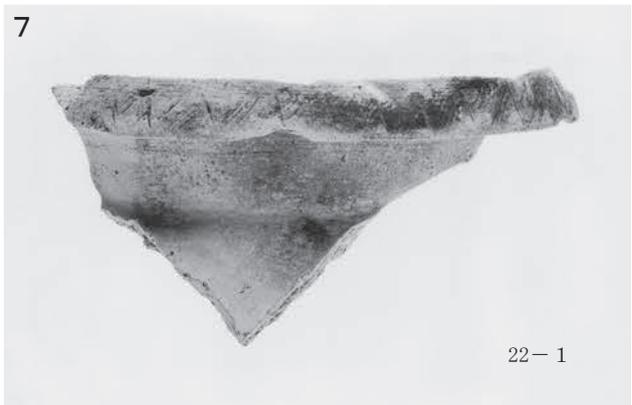
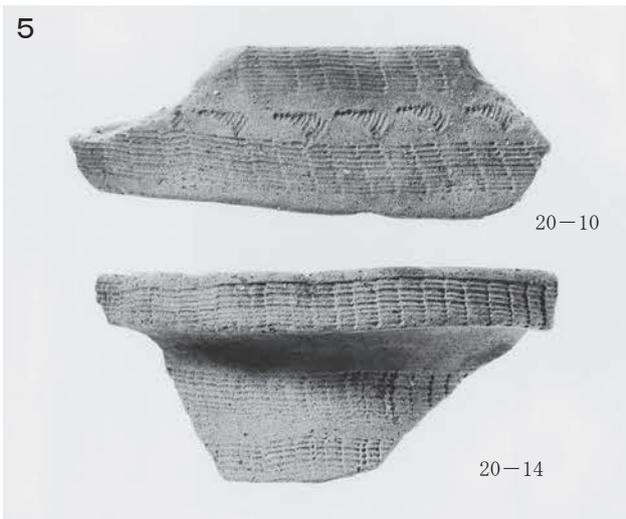
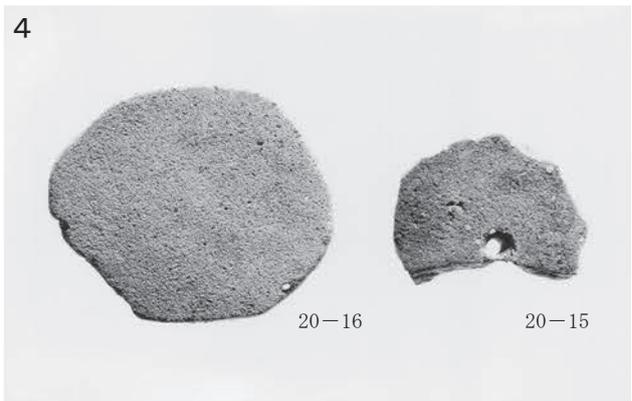
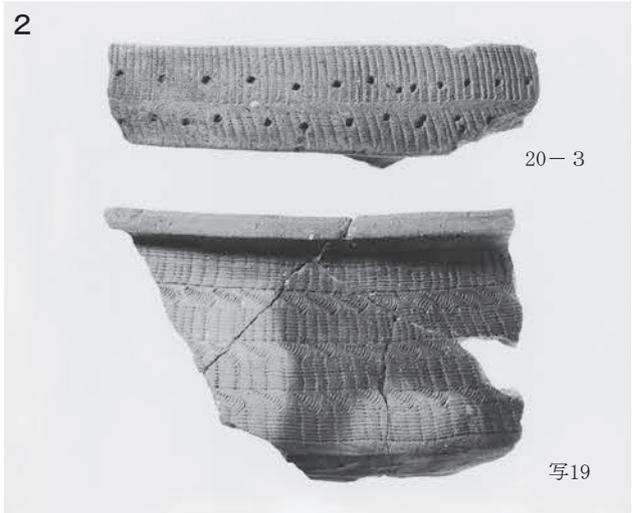
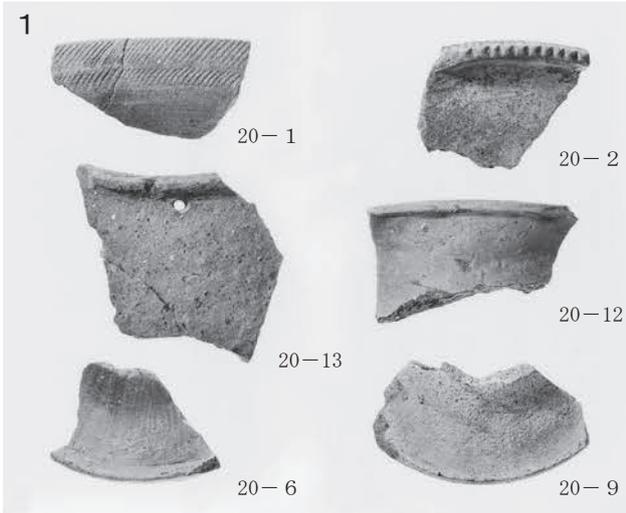
7 第24面 119ピット、120溝(南東から)

図版8 その1、その2調査区出土遺物



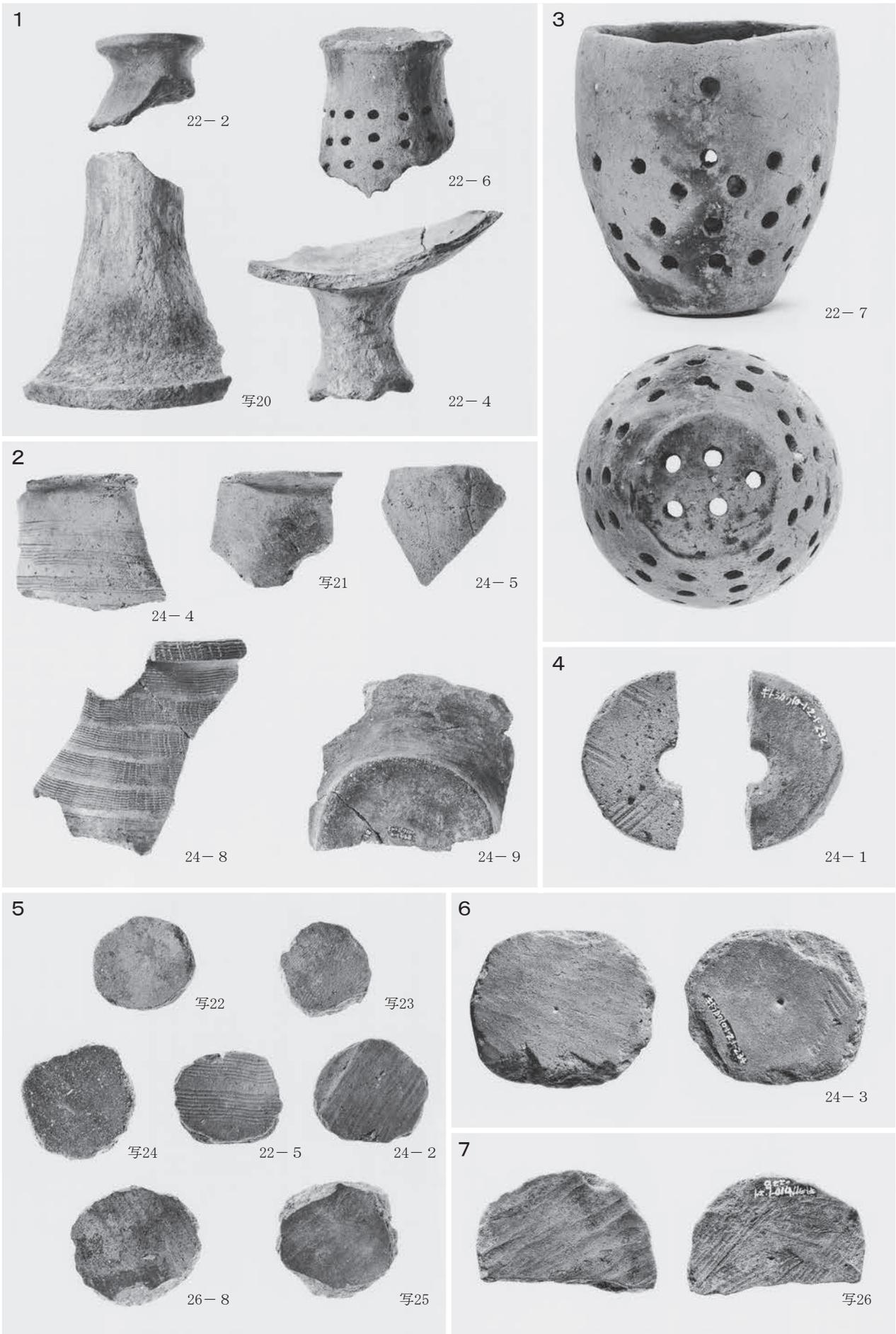
1 その1調査区第7面、第9層 133 流路、攪乱層 2 その1調査区第11面
 3 その2調査区1井路、第1～6層、第2層 4 第4層、第5層、第6面、第6層 5 第12層 6 第12層

図版9 その2 調査区出土遺物

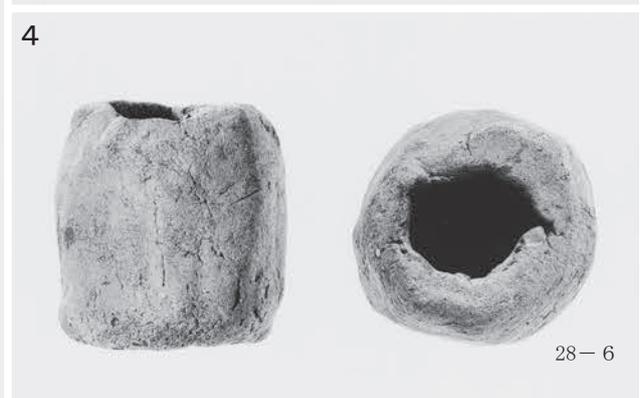
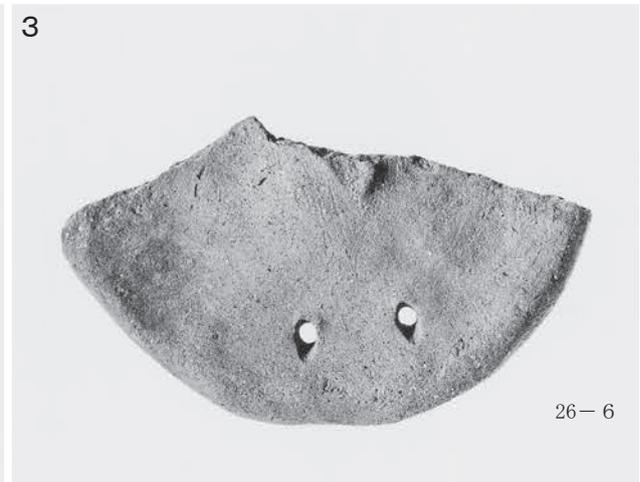
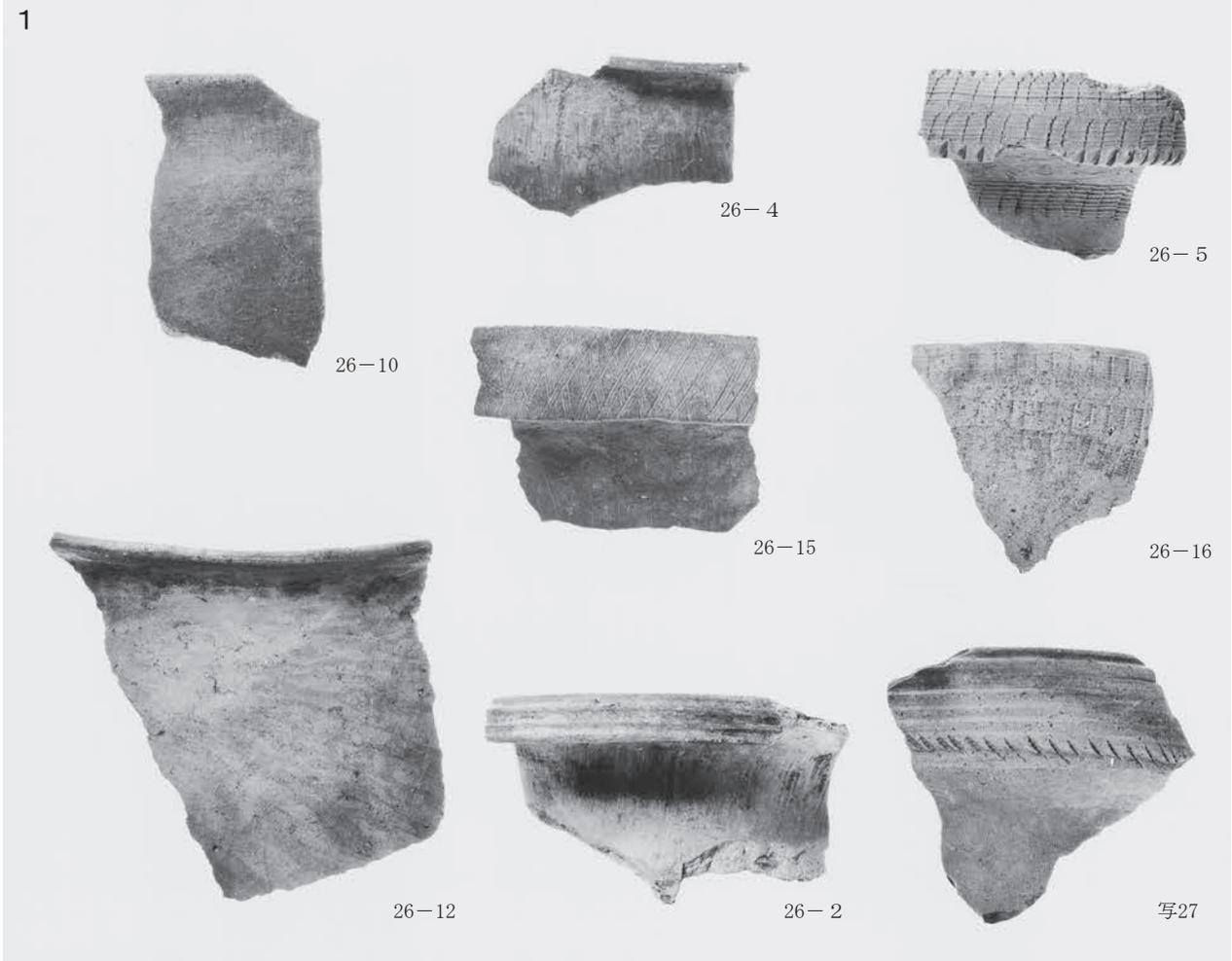


1・2 第13-1面、第13-1層 3 第13面 4~6 第13-1層 7・8 第13-2層

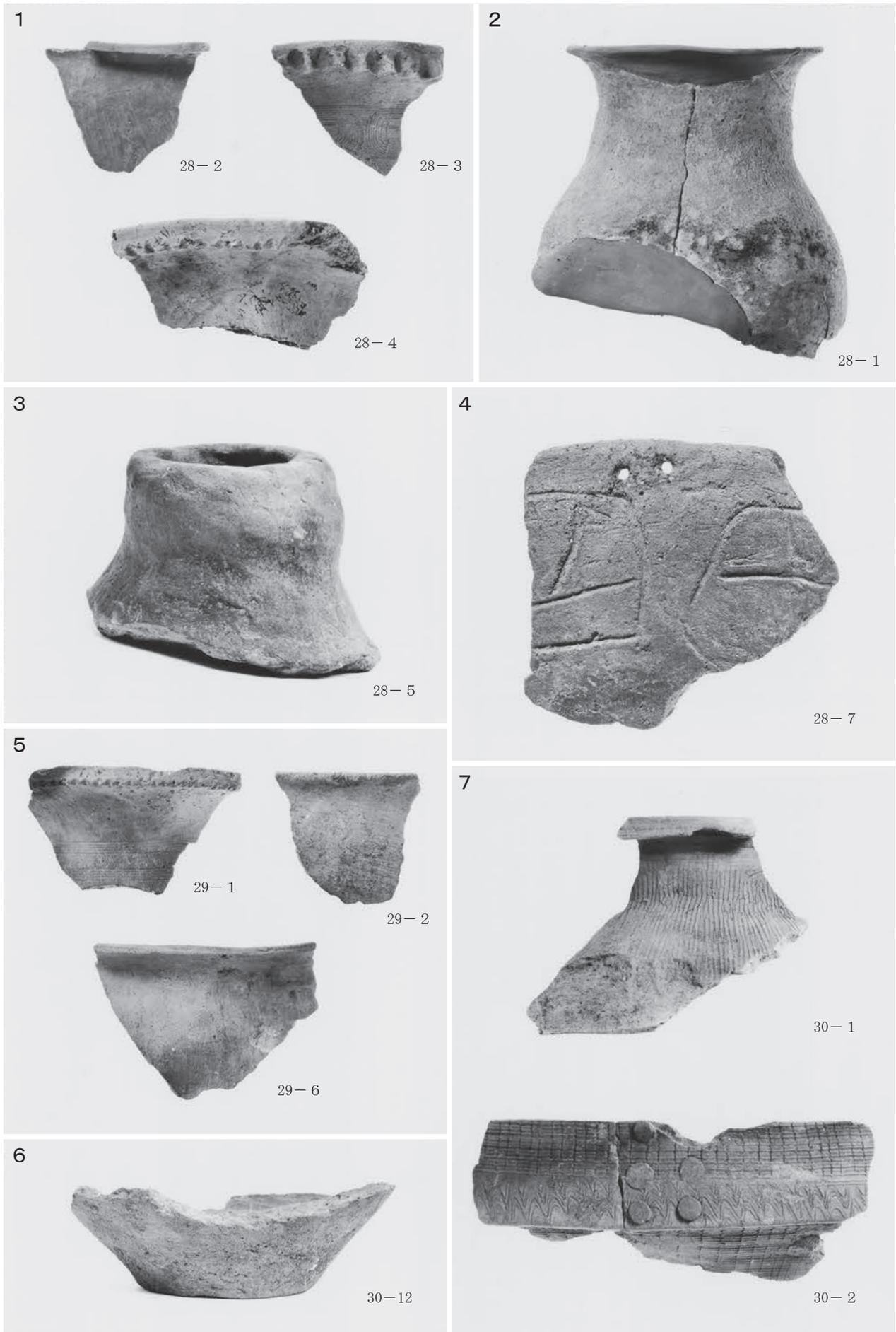
図版 10 その2 調査区出土遺物



1 第13-2層、第13-2~3層、第13-3~6層 2 第13-5面、第13-3~6層 3 第13-3面 4 第13-4層
 5 第13-4面、第13-3・5層、第13~14層、第14面 6 第13-4層 7 第13-4面

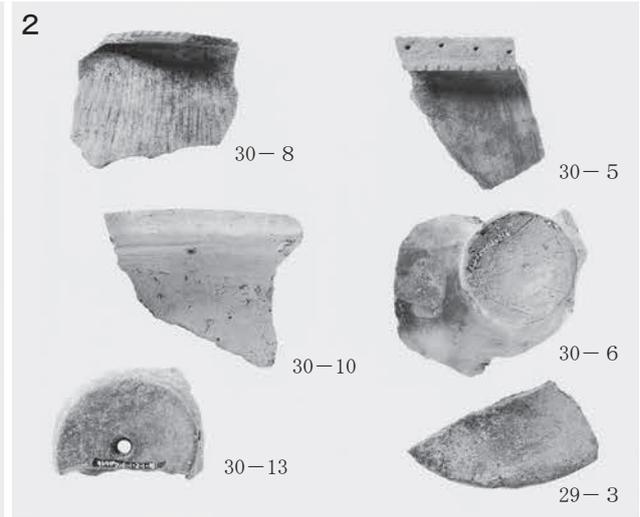


図版 12 その2 調査区出土遺物



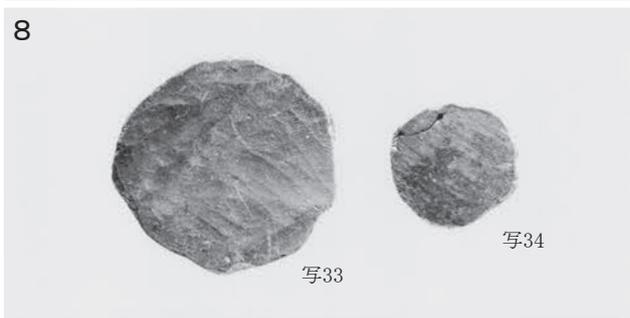
1~3 第14面 4 第14層 5 第14面 121 落込み 6・7 第15面 70土抗

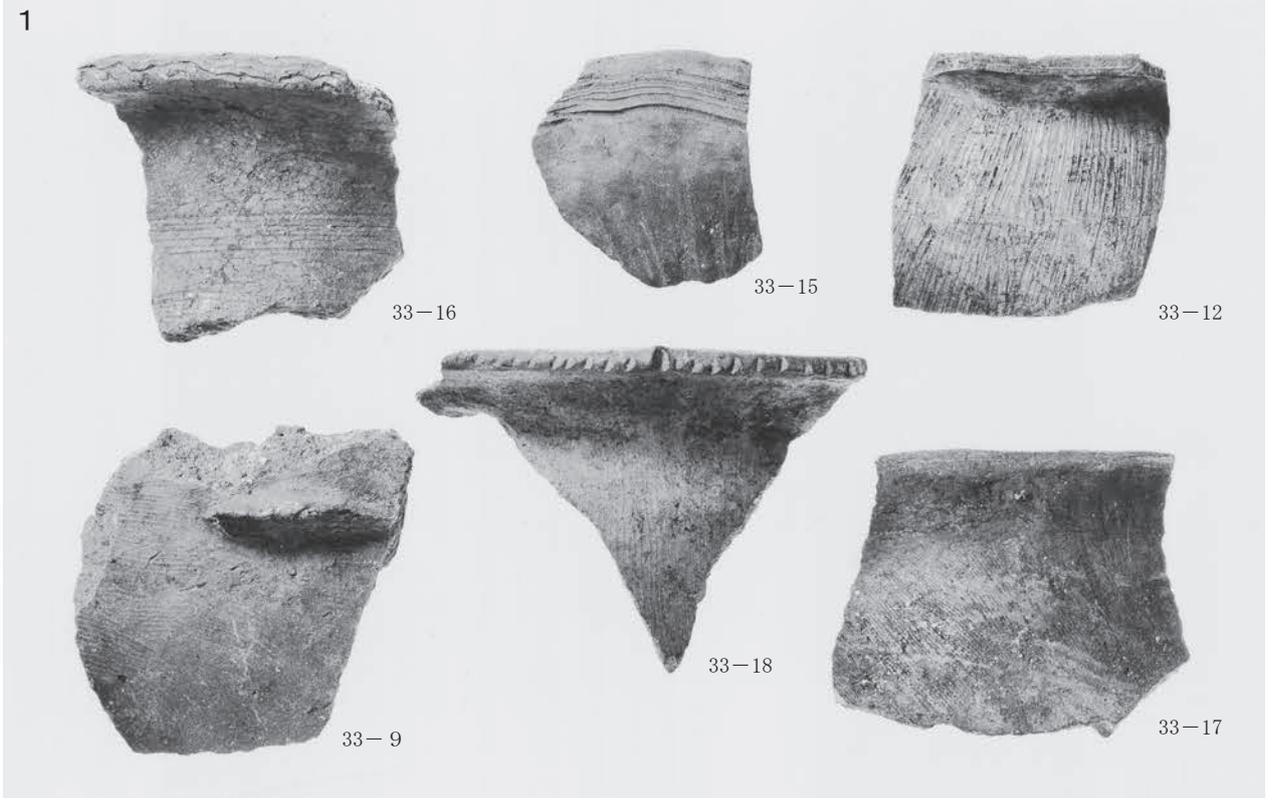
図版 13 その2 調査区出土遺物



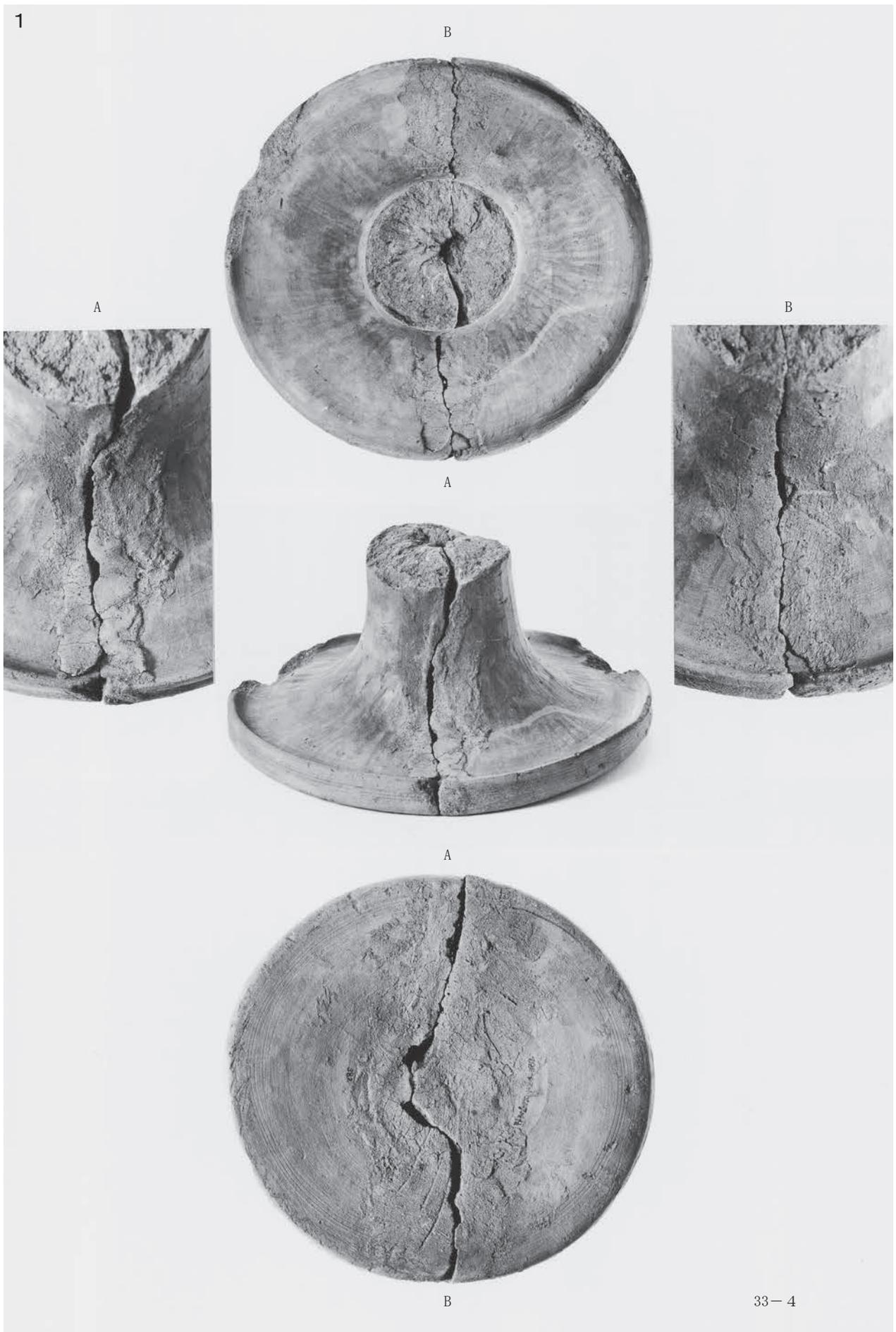
1 第15面 70土抗 2 第14面 121落込み、第15面、70土抗 3 70土抗 4 第15面 72土抗

図版 14 その2 調査区出土遺物

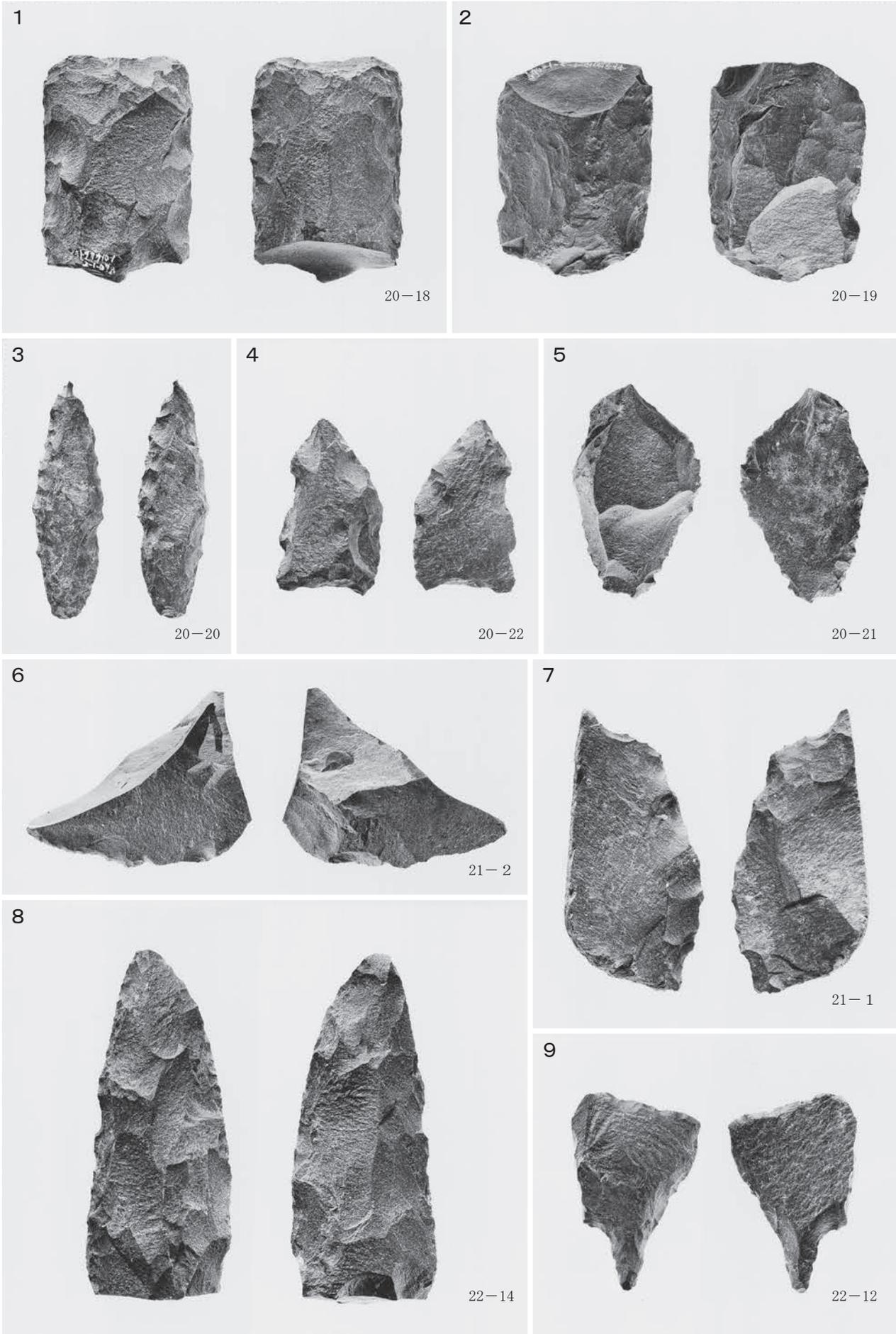




図版 16 その2 調査区出土遺物

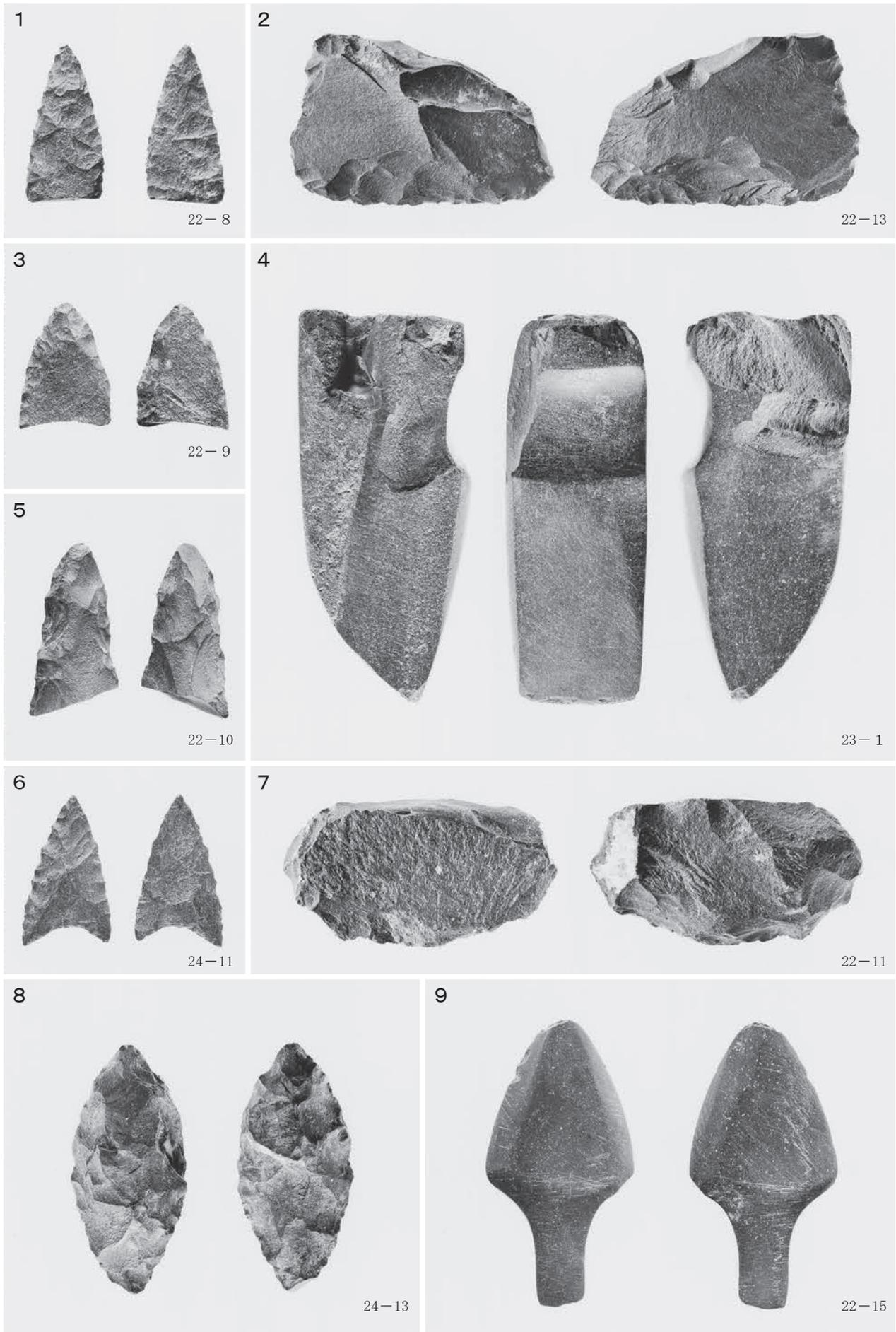


図版 17 その2 調査区出土遺物

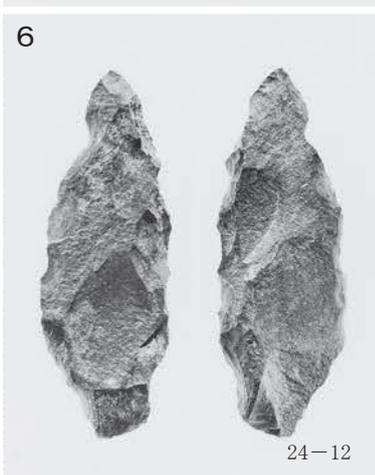
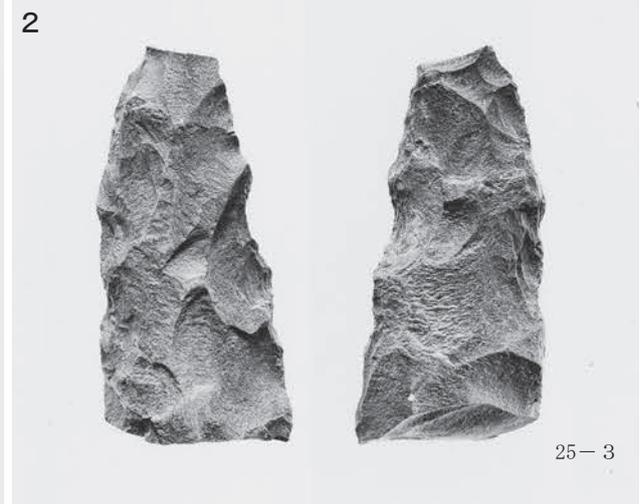
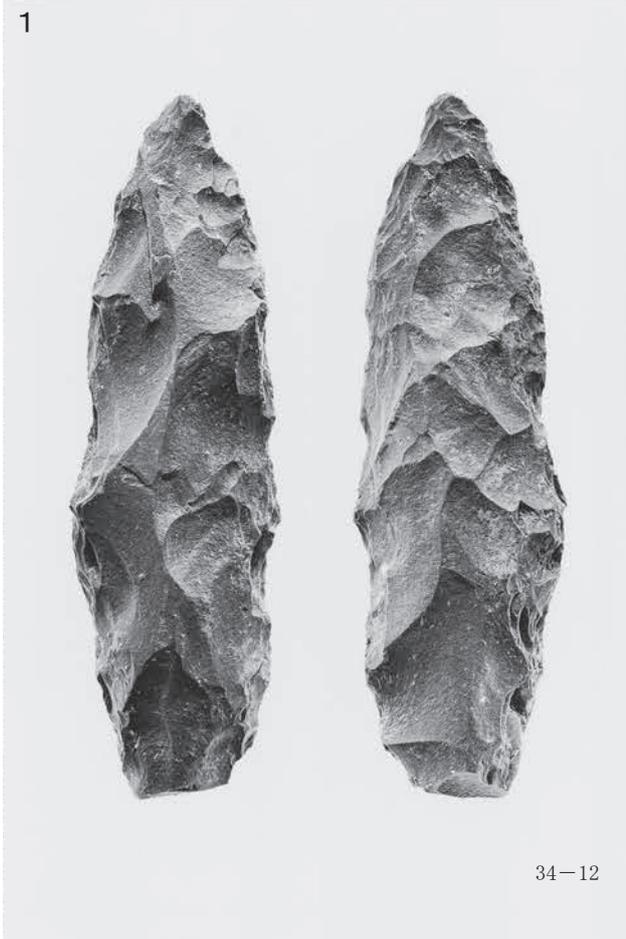


1~7 第13-1面、第13-1層 8・9 第13-2層

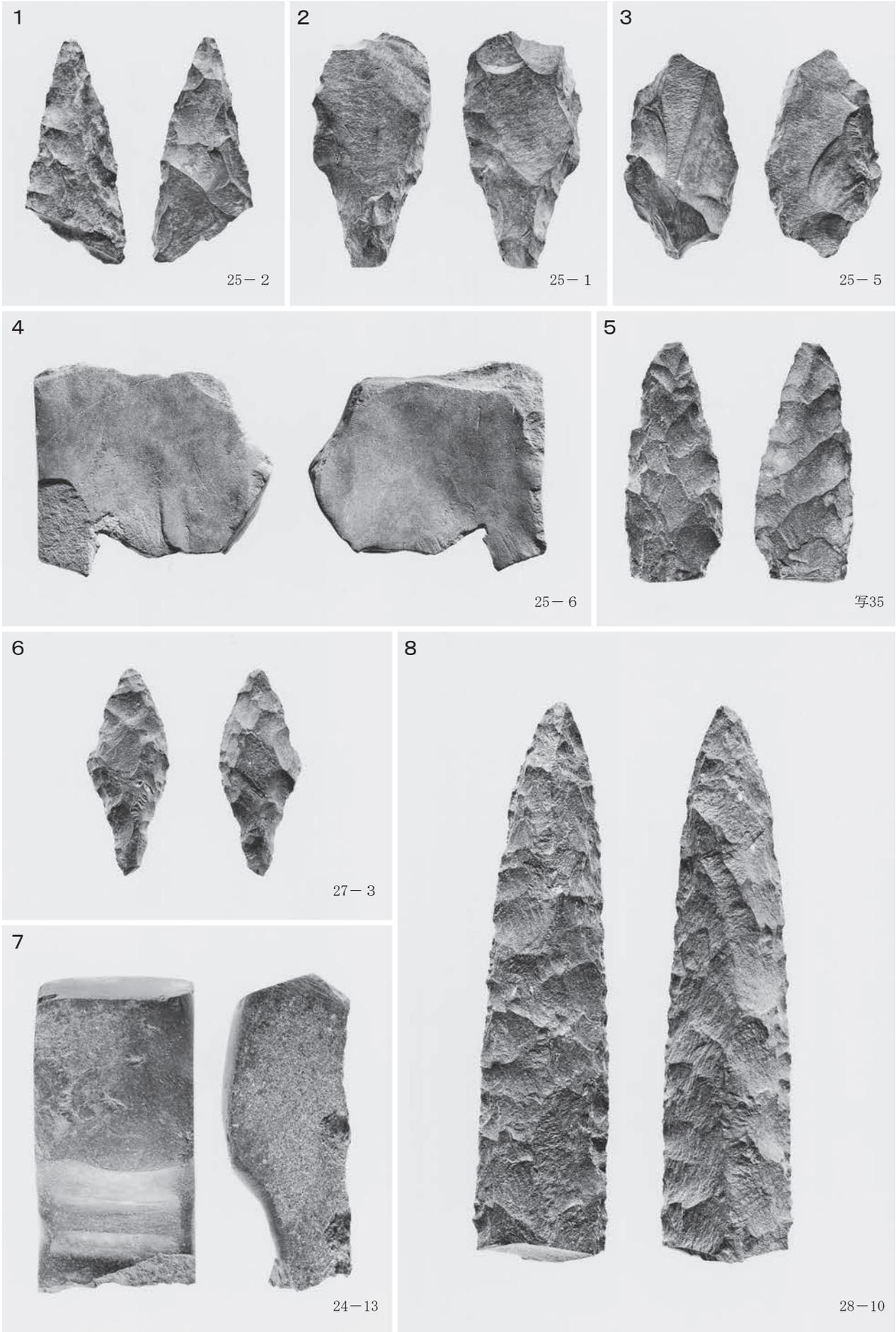
図版 18 その2 調査区出土遺物



1~3 第13-2層 4・5・7・9 第13-3層 6・8 第13-4層

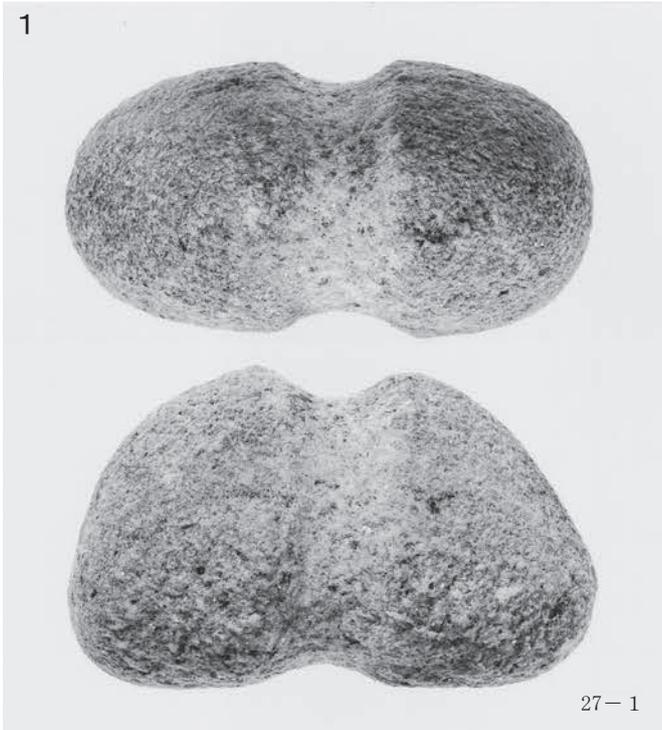


図版 20 その2 調査区出土遺物

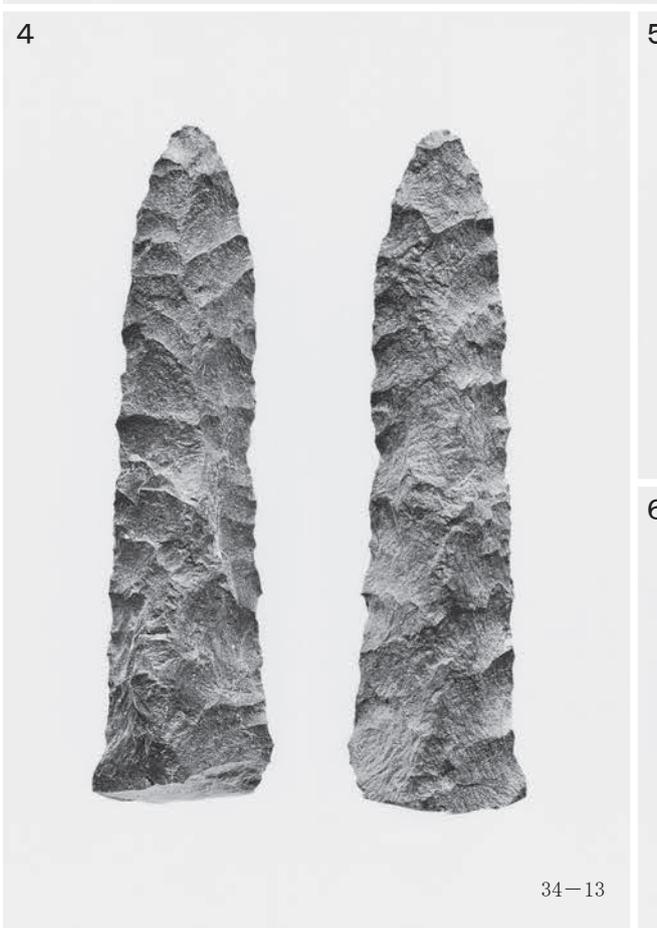
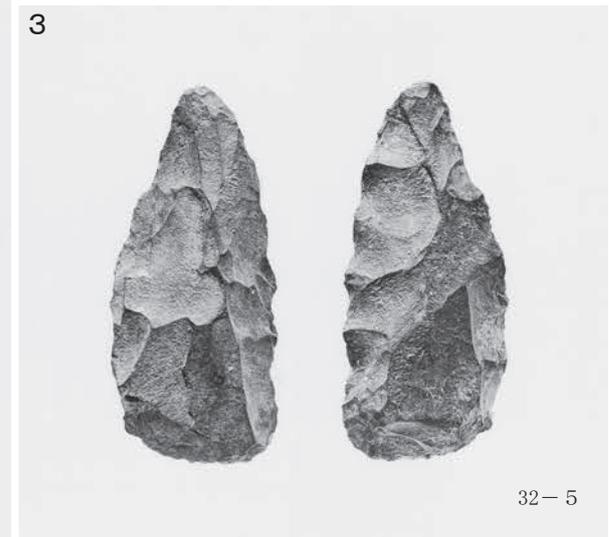
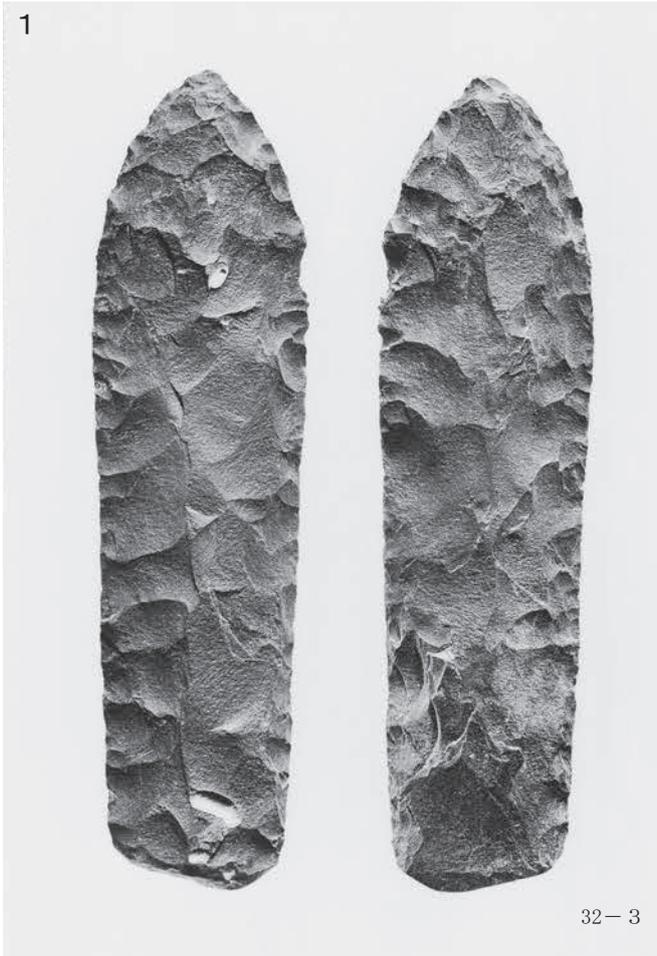


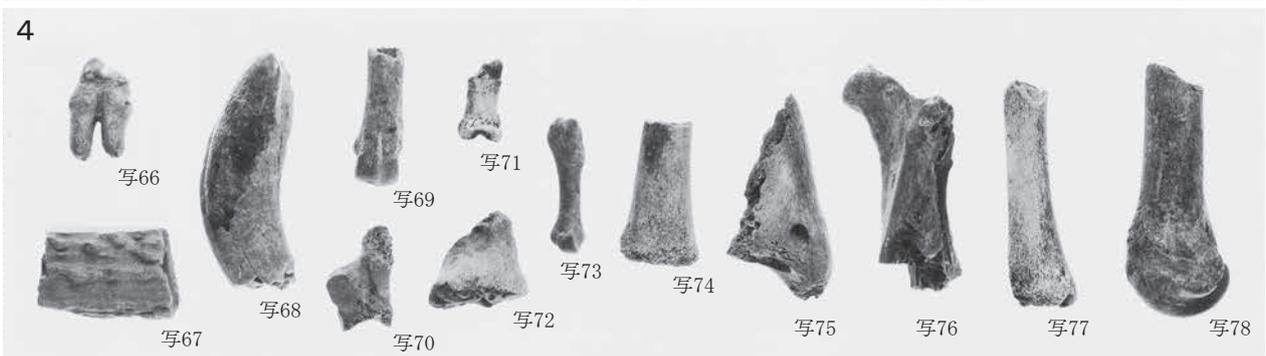
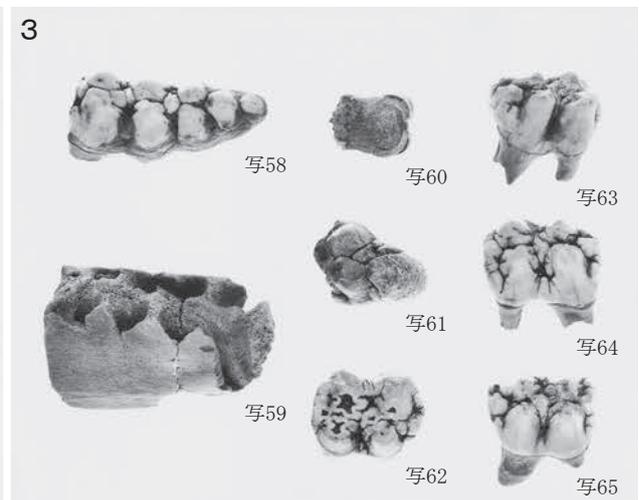
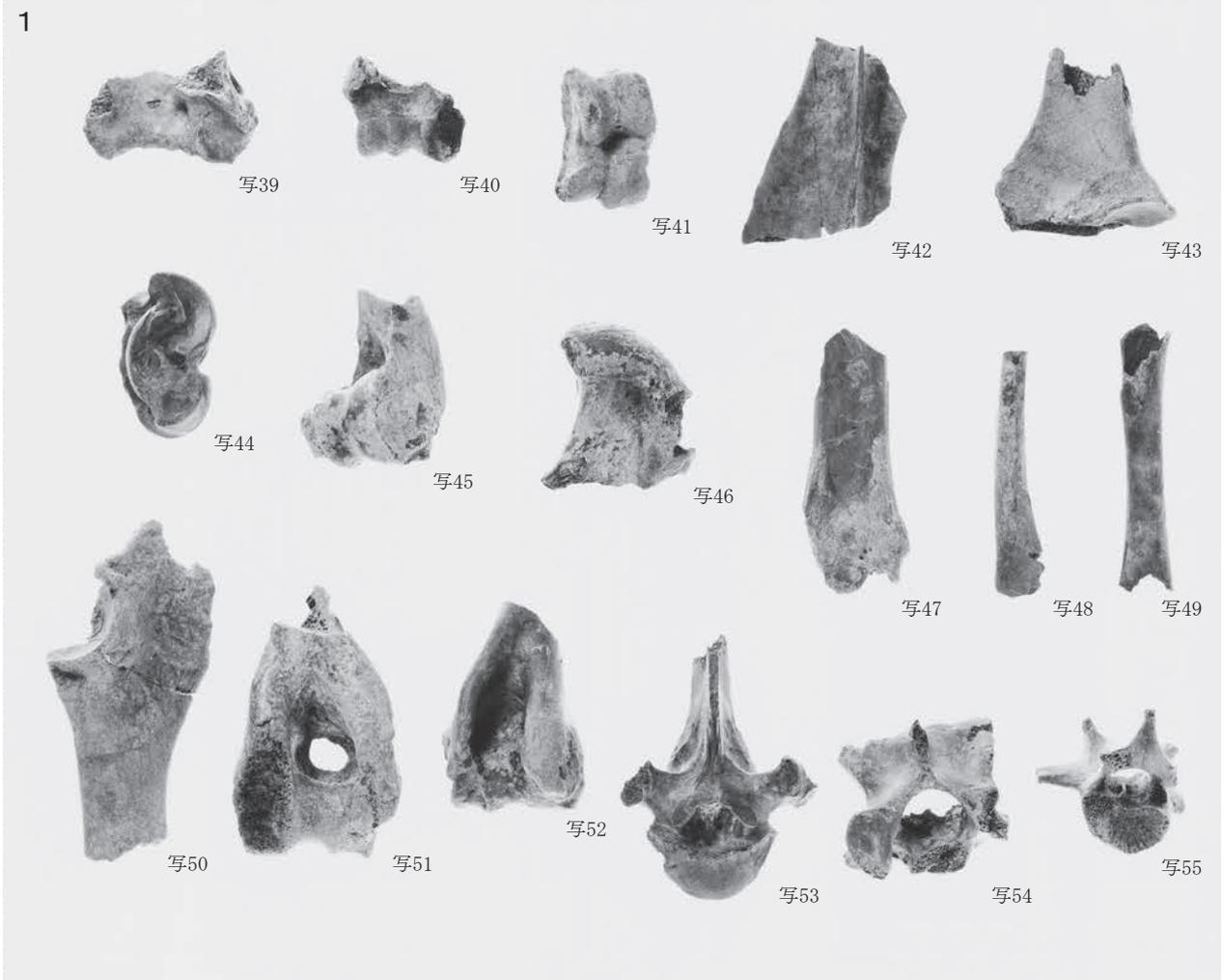
1・2 第13-5層 3 第13-3~6層 4 第13-3~4層 5・6 第13~14層
7 第13-4層 8 第14面 121 落込み

図版 21 その2 調査区出土遺物



図版 22 その2 調査区出土遺物





1 第13-3~6層、第13-5層、第13-4~6層、第14面、第15面、70・72土坑、58溝 2 70土坑、29溝
3 第13-2面、第13-3・4層、第13-5・6層、第13~14層、第15面 29溝・59溝~73溝
4 第13-2面、第13-2・3・4層、第13-4~6層、第13~14層、70・72土坑

報告書抄録

ふりがな	きとらがわいせき							
書名	鬼虎川遺跡							
副書名	送水管布設替工事（4 拡南部幹線・東大阪市）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第 223 集							
編著者名	小野 久隆、松本 吉弘							
編集機関	公益財団法人 大阪府文化財センター							
所在地	〒 590-0105 大阪府堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号 TEL 072 (299) 8791							
発行年月日	2012 年 4 月 27 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
きとらがわいせき 鬼虎川遺跡	おおさか府 東大阪市 西石切町 宝町	27227	46	34° 40' 42" }	135° 38' 21" }	2011 年 3 月 ～ 2011 年 12 月	149 m ²	4 拡南部幹線・ 東大阪市送水 管布設替工事
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鬼虎川遺跡	集落	弥生	土坑・溝・ピット	弥生土器・土製品・石器（打製、磨製）・動物遺体		長方形の土抗を 2 基、溝を検出した。土抗は、井戸と推測される。ピットは柱穴・杭の跡である。柱が残存するものあり。		
	畑	古墳前期 ～ 中世	ピット・溝・足跡・井路・畦畔	古式土師器・土師器・須恵器・瓦器				
要約	<p>その 1 調査区では、築造当初の井路を検出した。中世・近世初頭とわれる。中世では溝と足跡、古代では溝を確認した。水田に関わるものと思われる。</p> <p>その 2 調査区では、古代の溝、ピット、足跡を検出した。古墳時代では、畦畔、ピット、溝、足跡を確認した。水田に関わるものと考えられる。弥生時代では、厚い遺物包含層から多量の土器、土製品、石器、動物遺体等が出土し、遺構面では、2 基の土抗、溝、ピット群を検出した。土抗、溝からも多くの土器、土製品、石器、動物遺体が出土した。</p> <p>遺物の中で注目されるのは、2 点の多孔土器と乾燥時に割れた土器に、粘土を貼り付けて焼成した高杯である。</p>							

公益財団法人 大阪府文化財センター発掘調査報告書 第223集

鬼 虎 川 遺 跡

－送水管布設替工事(4 拡南部幹線・東大阪市)に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

発行年月日／2012年4月27日発行

編集・発行／公益財団法人 大阪府文化財センター

大阪府堺市南区竹城台3丁目21番4号

印刷・製本／株式会社 明新社

奈良市南京終町3丁目464番地